Ⅲ　調査結果

１　第１回アンケートの調査結果

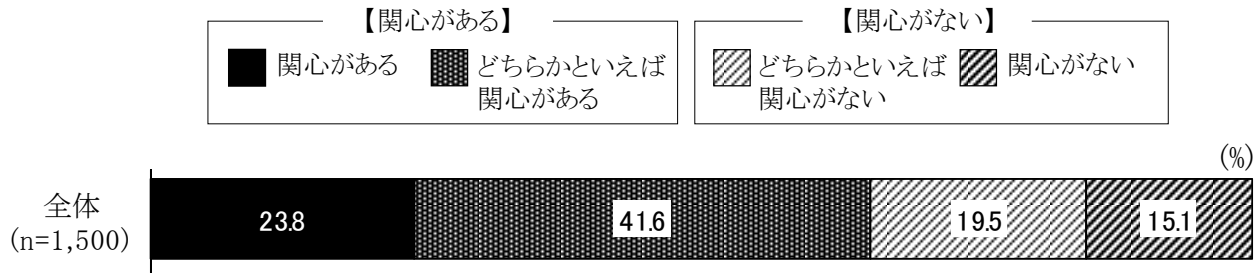
1.1　みどりとの関わりについて

(1)　「みどり」への関心の程度

Ｑ１．日常生活の中で、あなたはどの程度「みどり」に関心がありますか。

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合計した【関心がある】は 65.4%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合計した【関心がない】は 34.6%であった。

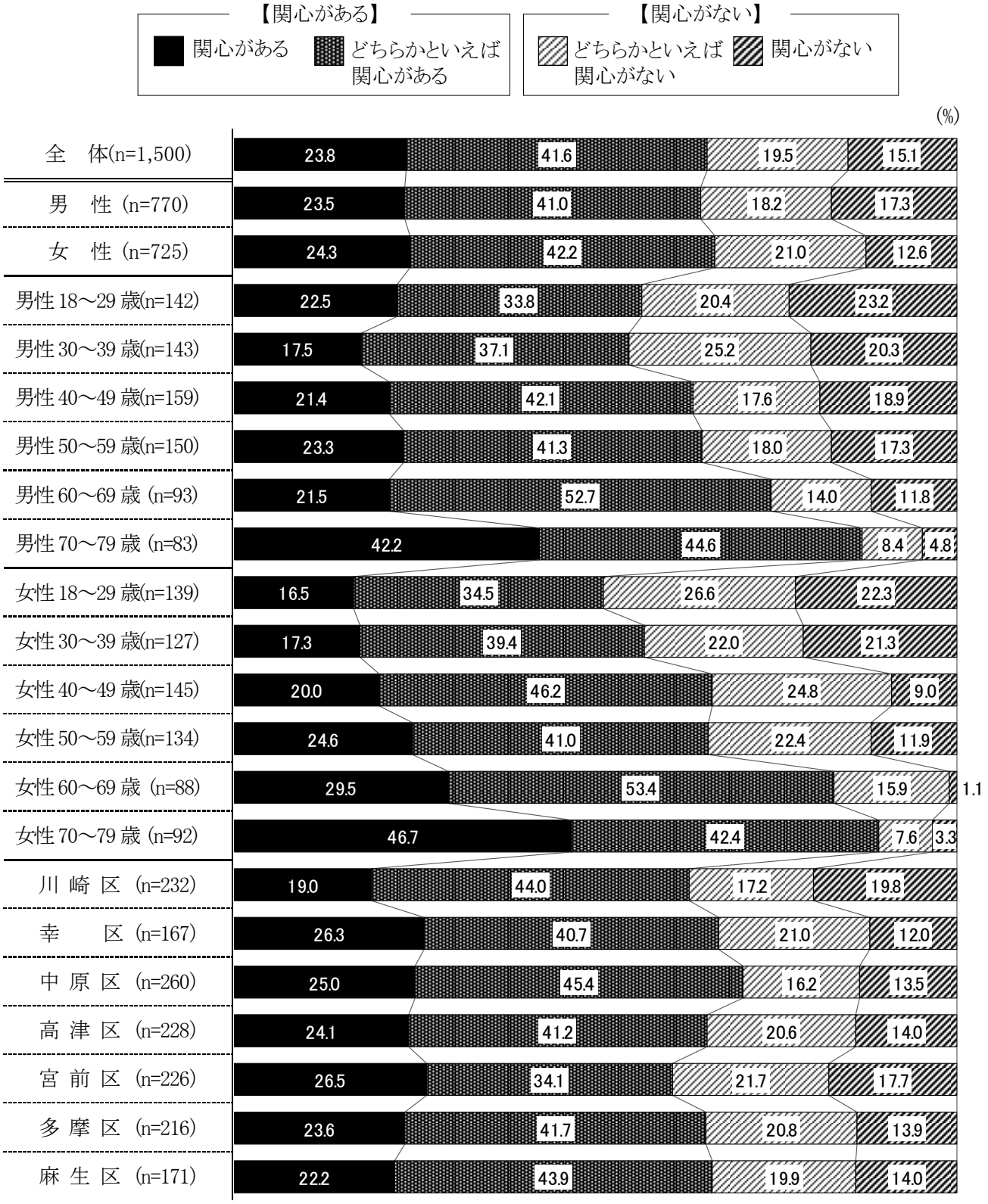
【図表　1】「みどり」への関心の程度



性／年齢別に見ると、【関心がある】は男性 70～79 歳（86.7%）、女性 70～79 歳（89.1%）と女性 60～69 歳（83.0%）で８割を超えている。一方で、男女ともに 18～29 歳と 30～39 歳では５割台に留まった。

居住区別に見ると、【関心がある】は、中原区で 70.4%と７割を超えて最も多い。

【図表　2】「みどり」への関心の程度（性／年齢別、居住区別）

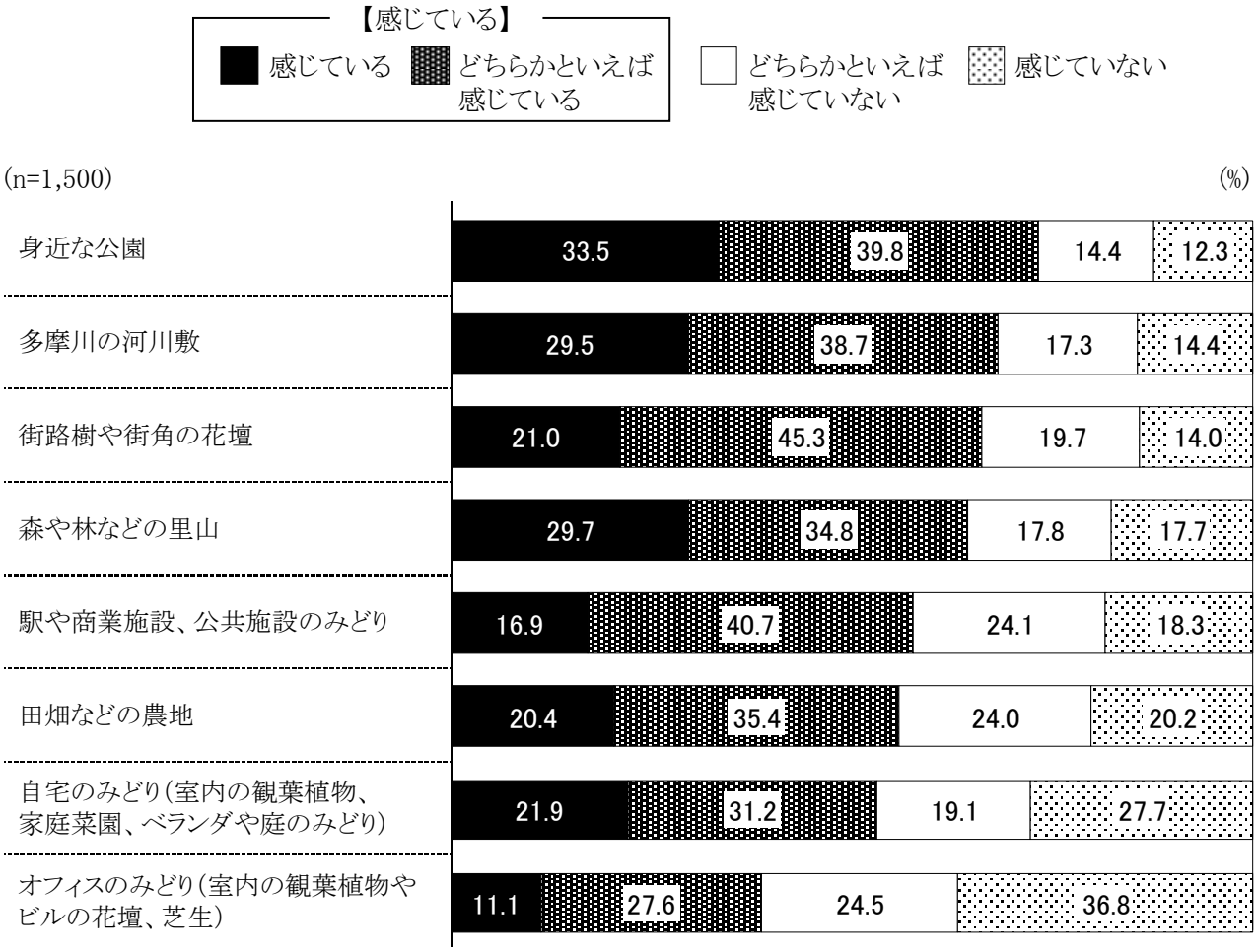


(2)　「みどり」に愛着を感じる程度

Ｑ２．次の「みどり」について、あなたはどの程度、安らぎや癒し、親しみなどの愛着を感じますか。項目ごとに最も近いものを選んでください。

「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合計した【感じている】は「身近な公園」が 73.3％と最も多く、次いで「多摩川の河川敷」(68.3％)、「街路樹や街角の花壇」(66.3％)、「森や林などの里山」(64.5％) と続いている。

【図表　3】「みどり」に愛着を感じる程度

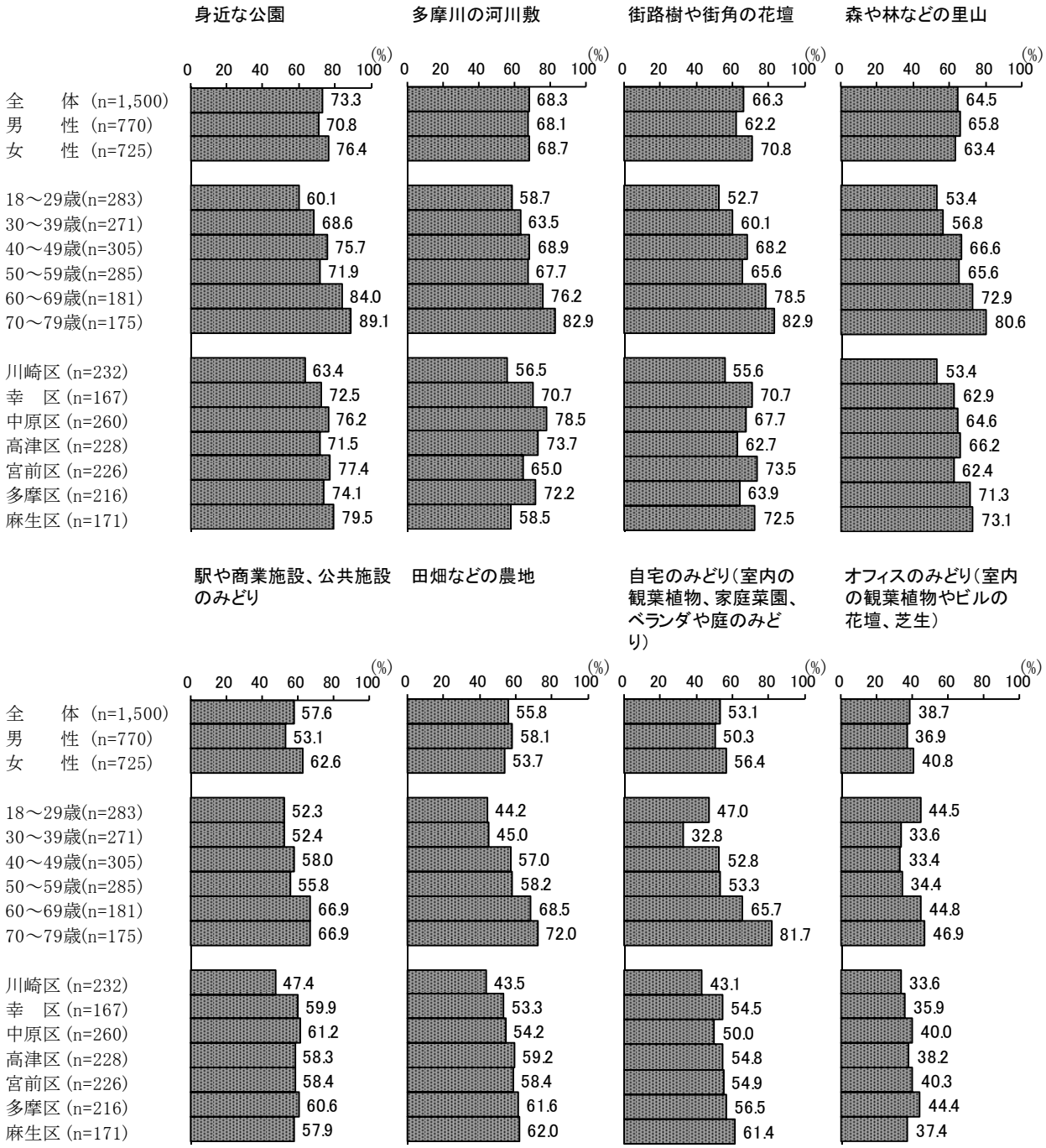


性別に見ると、【感じている】は「身近な公園」、「街路樹や街角の花壇」、「駅や商業施設、公共施設のみどり」、「自宅のみどり（室内の観葉植物、家庭菜園、ベランダや庭のみどり）」で女性の方が５ポイント以上高くなっている。

年齢別に見ると、「自宅のみどり（室内の観葉植物、家庭菜園、ベランダや庭のみどり）」と「オフィスのみどり（室内の観葉植物やビルの花壇、芝生）」の 18～29 歳を除き、概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

居住区別に見ると、いずれの項目においても川崎区が最も少ない。また、「多摩川の河川敷」は中原区が 78.5％と８割に近く、「森や林などの里山」は多摩区と麻生区で７割を超え、比較的多くなっている。

【図表　4】「みどり」に愛着を感じる程度（【感じている】回答者）
（性別、年齢別、居住区別）



(3)　総合公園の利用頻度・認知状況

Ｑ３．あなたは以下の３つの総合公園それぞれについて、これまでに利用したことがありますか。利用したことがある方は利用頻度について、利用したことがない方は、公園の名称や場所について知っていたかについてお答えください。

① 富士見公園

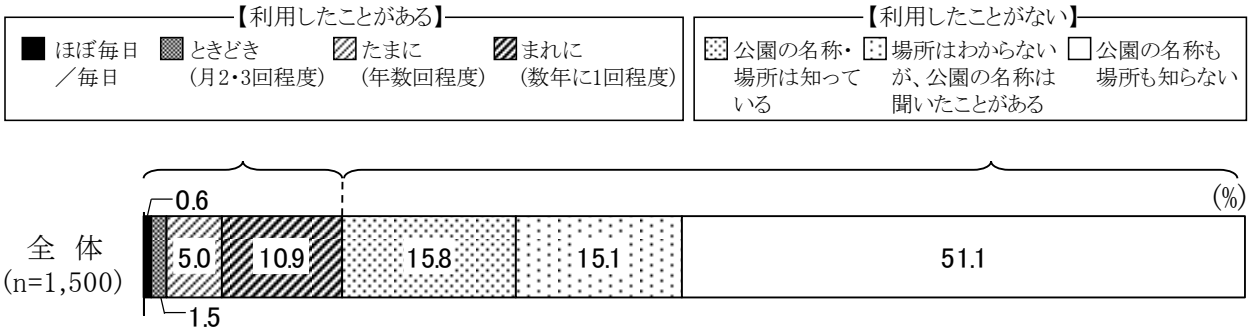
富士見公園の利用状況は、【利用したことがある】が 18.0%、【利用したことがない】が 82.0%であった。

【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に１回程度）」が 10.9%と最も多い。

【利用したことがない】人の公園についての認知状況は、「公園の名称も場所も知らない」(51.1%)が約５割を占めている。

認知度（【利用したことがある】と「公園の名称・場所は知っている」、「場所はわからないが、公園の名称は聞いたことがある」の合計）は全体の 48.9%であった。

【図表　5】総合公園の利用・認知状況［富士見公園］

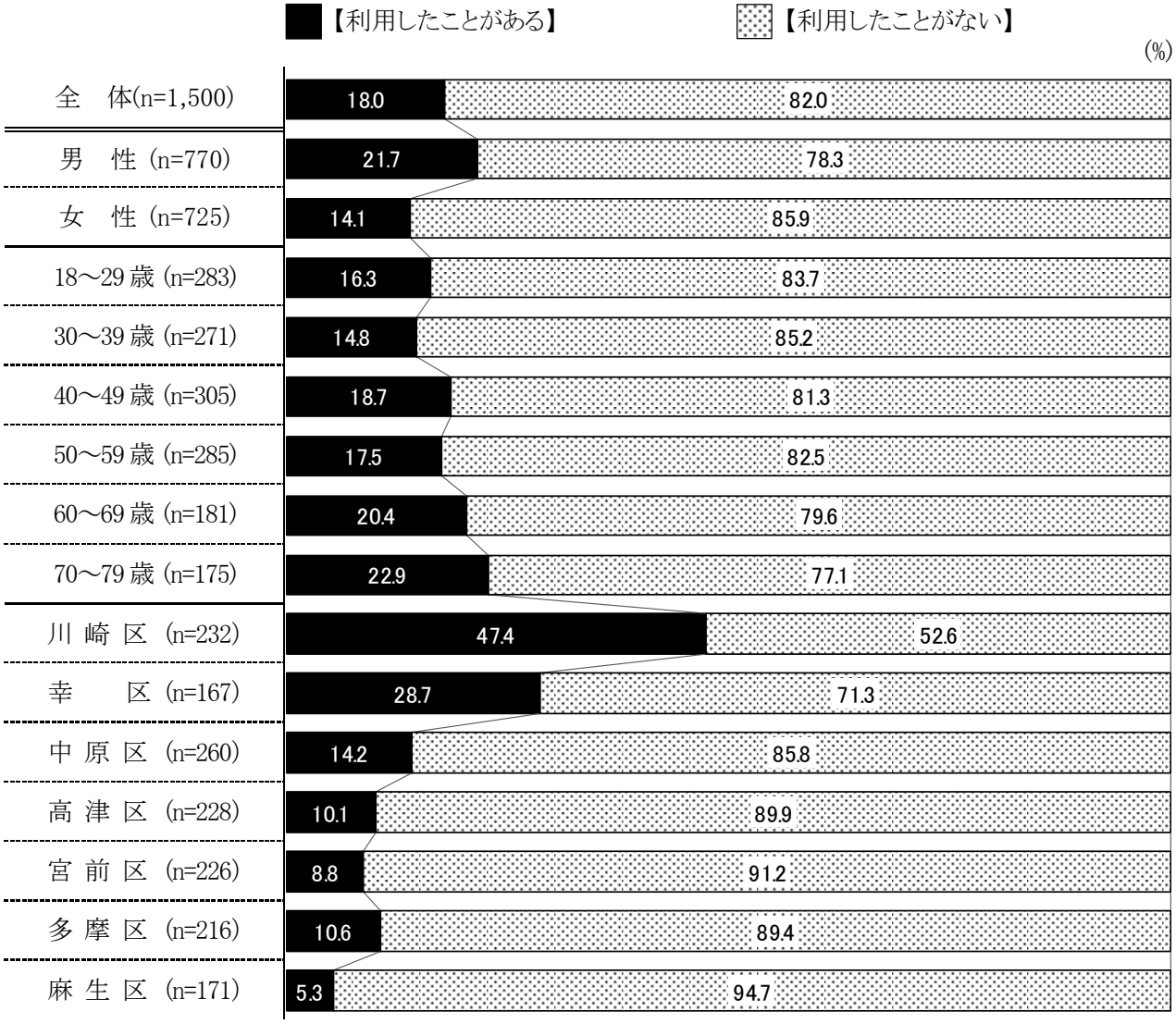


【利用したことがある】を性別に見ると、男性が 21.7%、女性が 14.1%と、男性の方が 7.6 ポイント高い。

年齢別に見ると、【利用したことがある】は 70～79 歳（22.9%）と 60～69 歳（20.4%）で２割を超え、概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

居住区別に見ると、【利用したことがある】は川崎区で 47.4%と最も多く、次いで幸区が 28.7%となっているが、宮前区（8.8%）と麻生区（5.3%）では１割を下回った。

【図表　6】総合公園の利用状況［富士見公園］
（性別、年齢別、居住区別）



② 等々力緑地

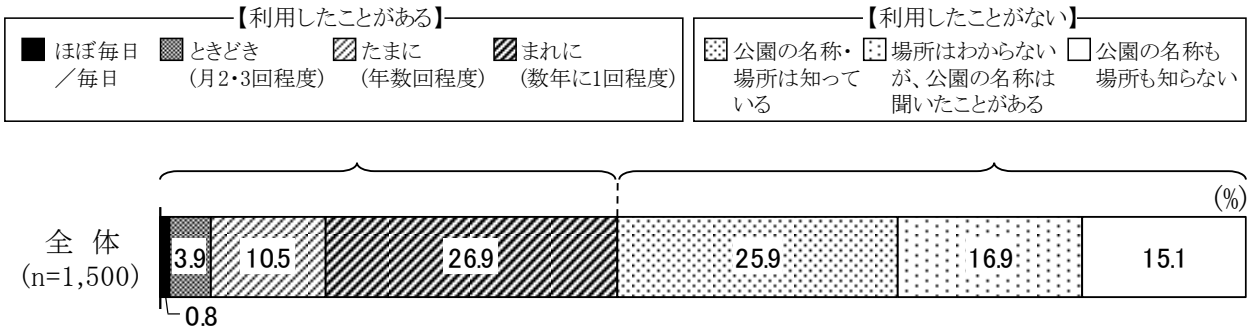
等々力緑地の利用状況は、【利用したことがある】が 42.1%、【利用したことがない】が 57.9%であった。

【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に１回程度）」が 26.9%と最も多い。

【利用したことがない】人の公園についての認知状況は、「公園の名称・場所は知っている」が 25.9%、「場所はわからないが公園の名称は聞いたことがある」が 16.9%となっている。

認知度（【利用したことがある】と「公園の名称・場所は知っている」、「場所はわからないが、公園の名称は聞いたことがある」の合計）は全体の 84.9%であった。

【図表　7】総合公園の利用・認知状況［等々力緑地］

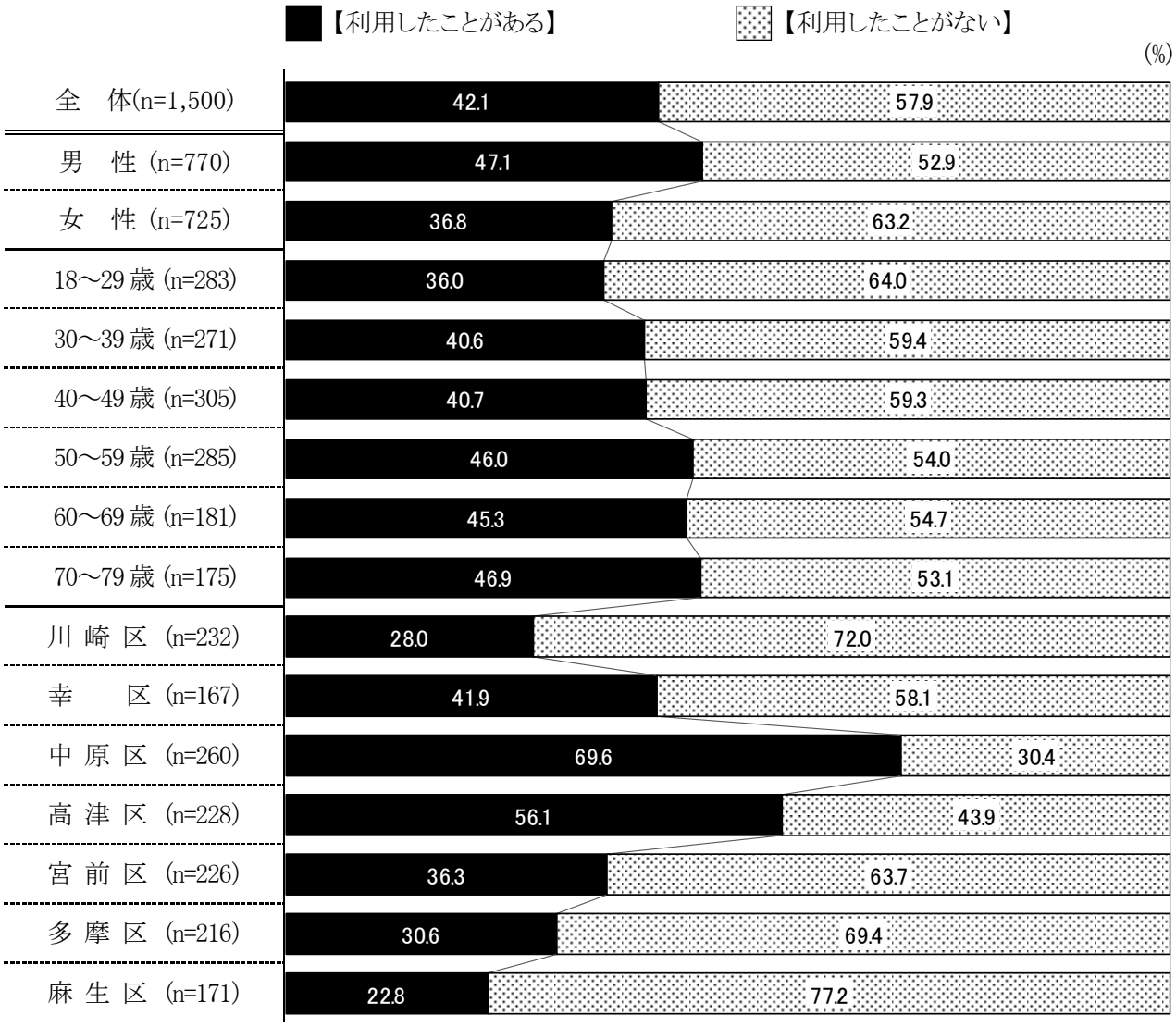


【利用したことがある】を性別に見ると、男性が 47.1％、女性が 36.8％と、男性の方が 10.3 ポイント高い。

年齢別に見ると、【利用したことがある】は 18～29 歳で 36.0％と最も少なく、50 歳代以上では 45％を超えている。

居住区別に見ると、【利用したことがある】は中原区で 69.6％と最も多く、次いで高津区が 56.1％となっているが、川崎区（28.0％）と麻生区（22.8％）では２割台に留まった。

【図表　8】総合公園の利用状況［等々力緑地］
（性別、年齢別、居住区別）



③ 生田緑地

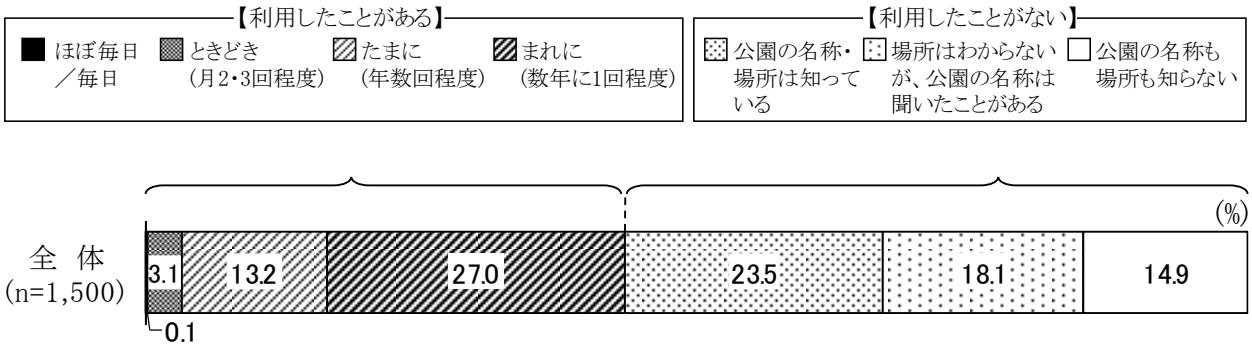
生田緑地の利用状況は、【利用したことがある】が 43.4%、【利用したことがない】が 56.6%であった。

【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に１回程度）」が 27.0%と最も多い。

【利用したことがない】人の公園についての認知状況は、「公園の名称・場所は知っている」が 23.5%、「場所はわからないが公園の名称は聞いたことがある」が 18.1%となっている。

認知度（【利用したことがある】と「公園の名称・場所は知っている」、「場所はわからないが、公園の名称は聞いたことがある」の合計）は全体の 85.1%であった。

【図表　9】総合公園の利用・認知状況［生田緑地］

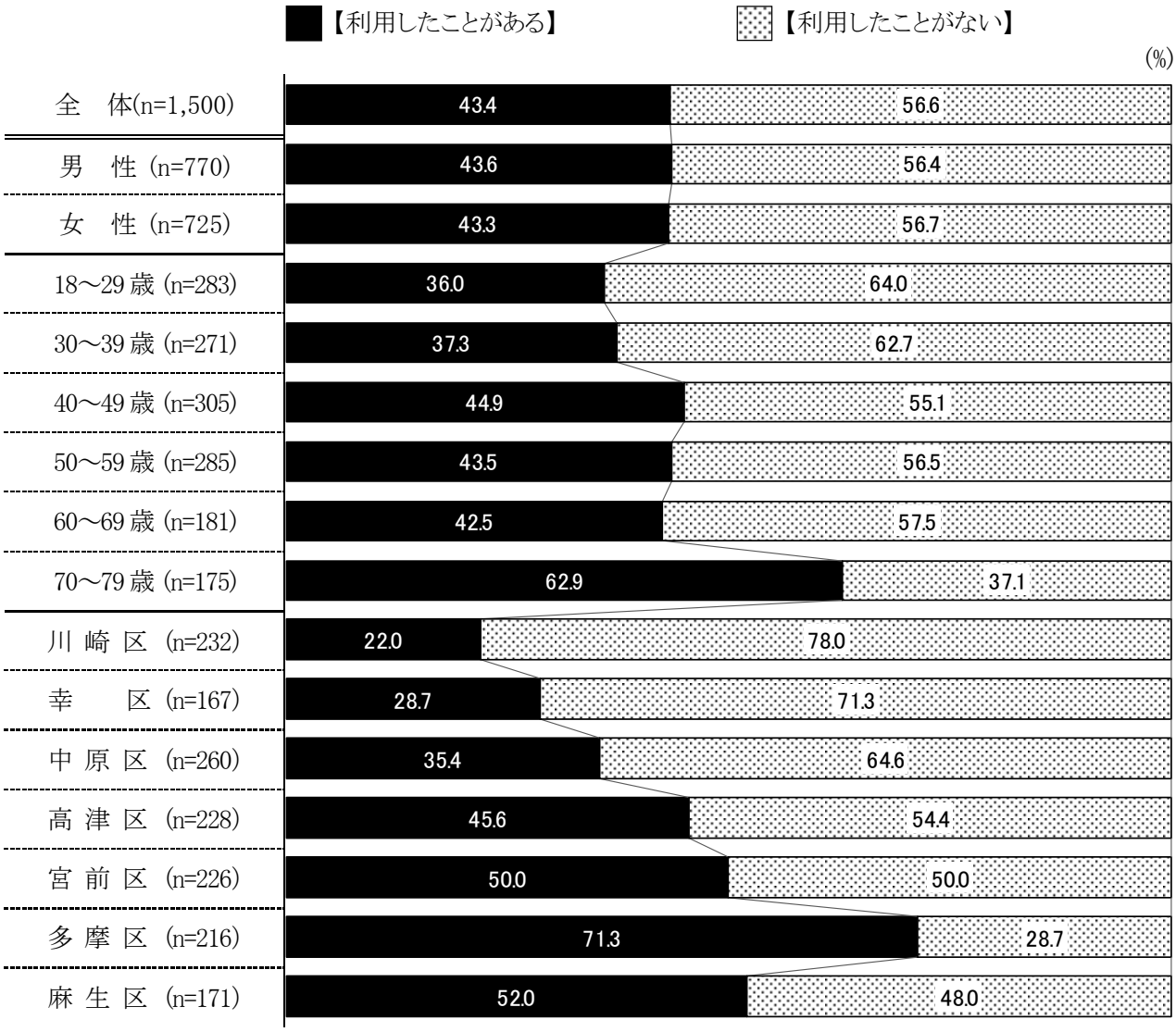


【利用したことがある】を性別に見ると、男性が 43.6%、女性が 43.3%とほぼ同程度であった。

年齢別に見ると、【利用したことがある】は 30 歳代以下では３割台、40 歳代～60 歳代では４割台であるが、70～79 歳では 62.9%と飛び抜けて多い。

居住区別に見ると、【利用したことがある】は多摩区で 71.3%と最も多く、次いで麻生区（52.0%）と宮前区（50.0%）が５割程度となっているが、川崎区（22.0%）と幸区（28.7%）では２割台に留まった。

【図表　10】総合公園の利用状況［生田緑地］
（性別、年齢別、居住区別）



(4)　総合公園を一緒に利用した人について

Ｑ４．「利用したことがある」と回答した公園について、直近の利用状況をお伺いします。一番最近利用した時、誰と利用しましたか。

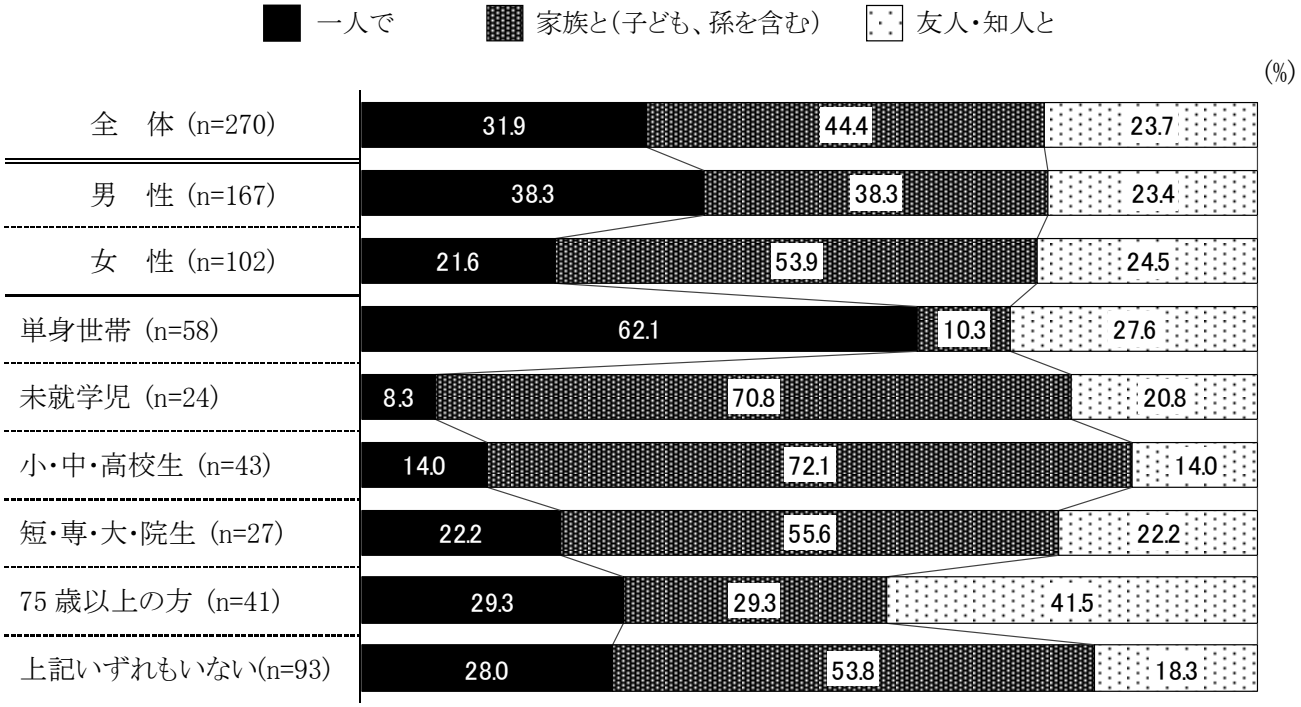
① 富士見公園

全体では、「家族と（子ども、孫を含む）」が 44.4％と最も多く、次いで「一人で」（31.9％）、「友人・知人と」（23.7％）と続いている。

性別に見ると、「一人で」は女性（21.6％）よりも男性（38.3％）の方が 16.7 ポイント高い。また、「家族と（子ども、孫を含む）」は男性（38.3％）よりも女性（53.9％）の方が 15.6 ポイント高くなっている。

同居者別に見ると、「単身世帯」は「一人で」が 62.1％と最も多い。また、「未就学児」、「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」と同居している人は回答者数が少ないため参考値としての掲載となるが、子どもと同居している人は「家族と（子ども、孫を含む）」が最も多くなっている。「75 歳以上の方」と同居している人では「友人・知人と」が 41.5％と最も多い。

【図表　11】総合公園を一緒に利用した人［富士見公園］
（性別、同居者別）



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

② 等々力緑地

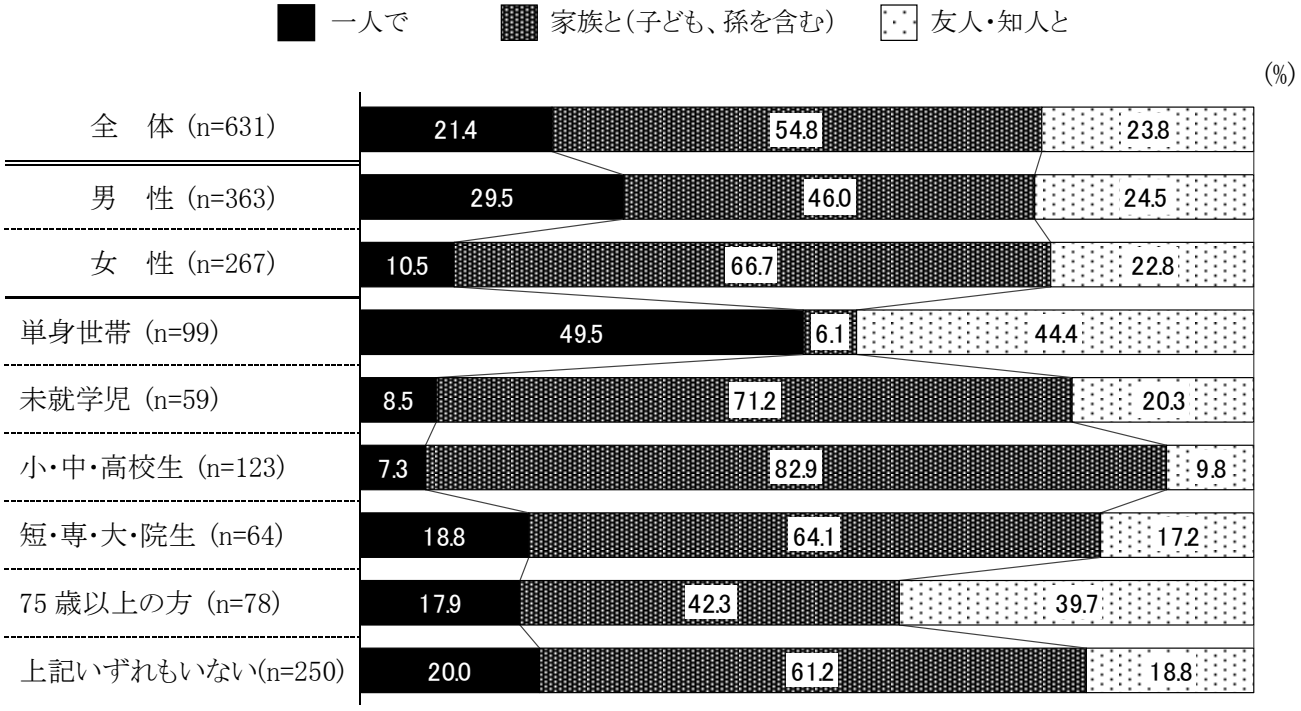
全体では、「家族と（子ども、孫を含む）」が 54.8％と最も多く、次いで「友人・知人と」（23.8％）、「一人で」（21.4％）と続いている。

性別に見ると、「一人で」は女性（10.5％）よりも男性（29.5％）の方が 19.0 ポイント高い。また、「家族と（子ども、孫を含む）」は男性（46.0％）よりも女性（66.7％）の方が 20.7 ポイント高くなっている。

同居者別に見ると、「単身世帯」は「一人で」が 49.5％と最も多く、次いで「友人・知人と」も４割台となっている。また、【子どもと同居している人】※は「家族と（子ども、孫を含む）」が最も多い。「75 歳以上の方」と同居している人では「家族と（子ども、孫を含む）」と「友人・知人と」がともに４割前後で同程度となっている。

※【子どもと同居している人】:「未就学児」、「小学生・中学生・高校生」、「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」いずれかと同居している人

【図表　12】総合公園を一緒に利用した人［等々力緑地］
（性別、同居者別）



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

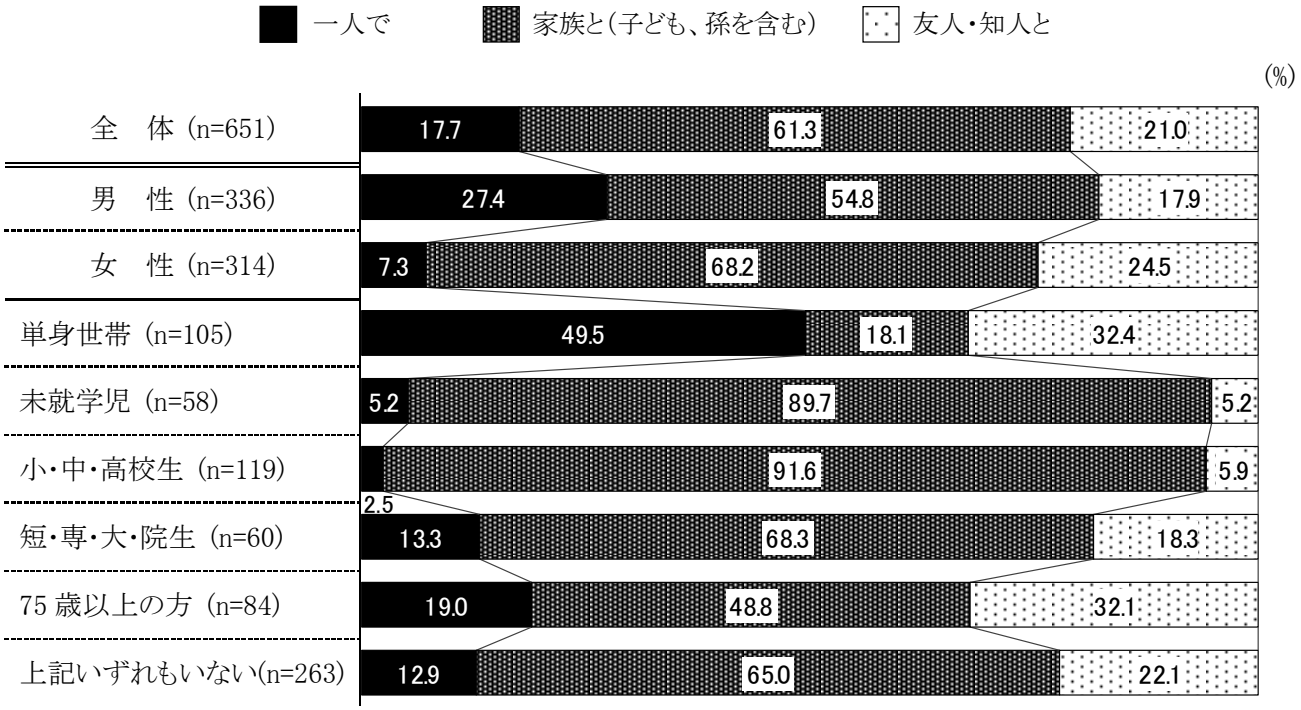
③ 生田緑地

全体では、「家族と（子ども、孫を含む）」が 61.3％と最も多く、次いで「友人・知人と」21.0％、「一人で」（17.7％）と続いている。

性別に見ると、「一人で」は女性（7.3％）よりも男性（27.4％）の方が 20.1 ポイント高い。また、「家族と（子ども、孫を含む）」は男性（54.8％）よりも女性（68.2％）の方が 13.4 ポイント高くなっている。

同居者別に見ると、「単身世帯」は「一人で」が 49.5％と最も多い。また、【子どもと同居している人】は「家族と（子ども、孫を含む）」が最も多くなっている。「75 歳以上の方」と同居している人でも「家族と（子ども、孫を含む）」が 48.8％と５割近くを占めている。

【図表　13】総合公園を一緒に利用した人［生田緑地］
（性別、同居者別）



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

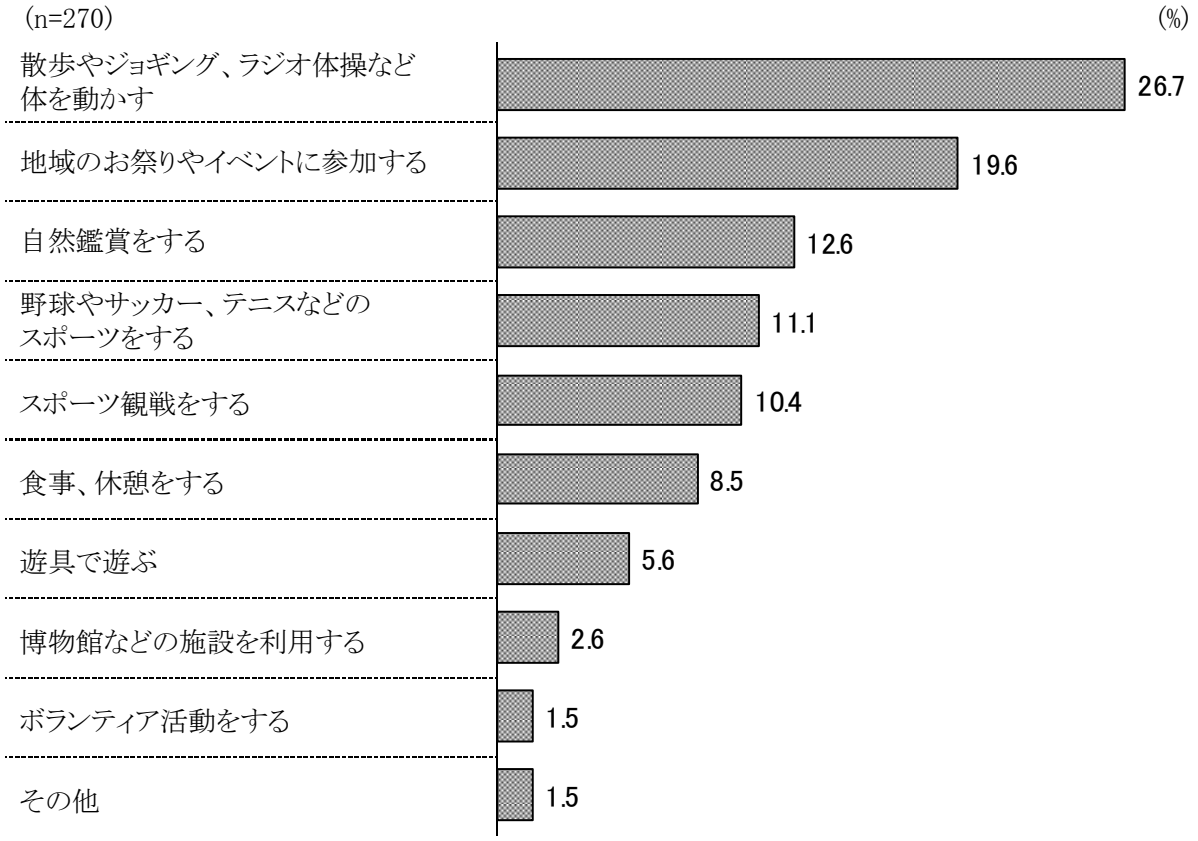
(5)　総合公園の利用目的

Ｑ５．「利用したことがある」と回答した公園について、直近の利用状況をお伺いします。一番最近利用した時、どのような目的で利用しましたか。主な利用目的を１つ選んでください。

① 富士見公園

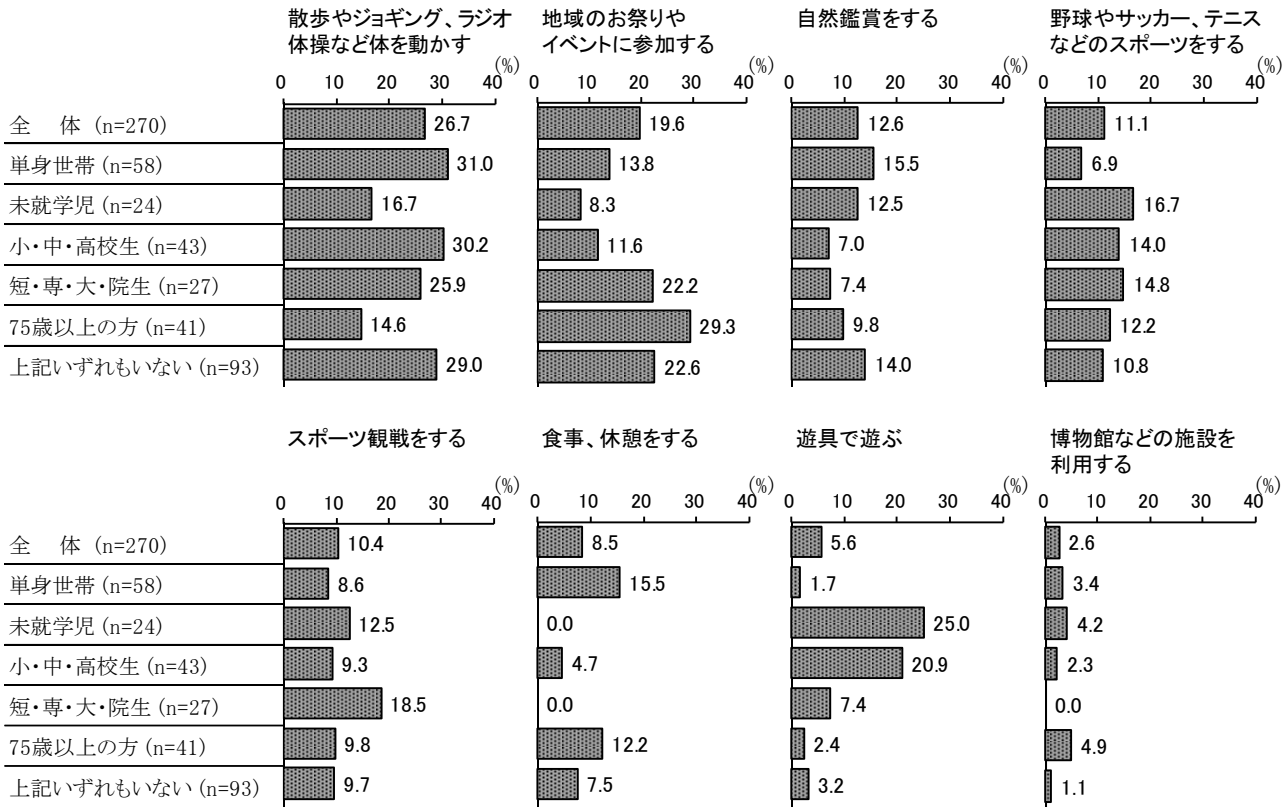
「散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす」が 26.7%と最も多く、次いで「地域のお祭りやイベントに参加する」（19.6%）、「自然鑑賞をする」（12.6%）と続いている。

【図表　14】総合公園の利用目的［富士見公園］



同居者別に見ると、「散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす」は「単身世帯」の人、「小学生・中学生・高校生」と同居している人で３割を超えて多く、「地域のお祭りやイベントに参加する」は「75 歳以上の方」と同居している人で多い。また、「未就学児」、「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」と同居している人は回答者数が少ないため参考値としての掲載となるが、「野球やサッカー、テニスなどのスポーツをする」は子どもと同居している人で 15%前後と比較的多くなっており、「遊具で遊ぶ」は「未就学児」、「小学生・中学生・高校生」と同居している人で多い。

【図表　15】総合公園の利用目的［富士見公園］≪上位８項目≫
（同居者別）

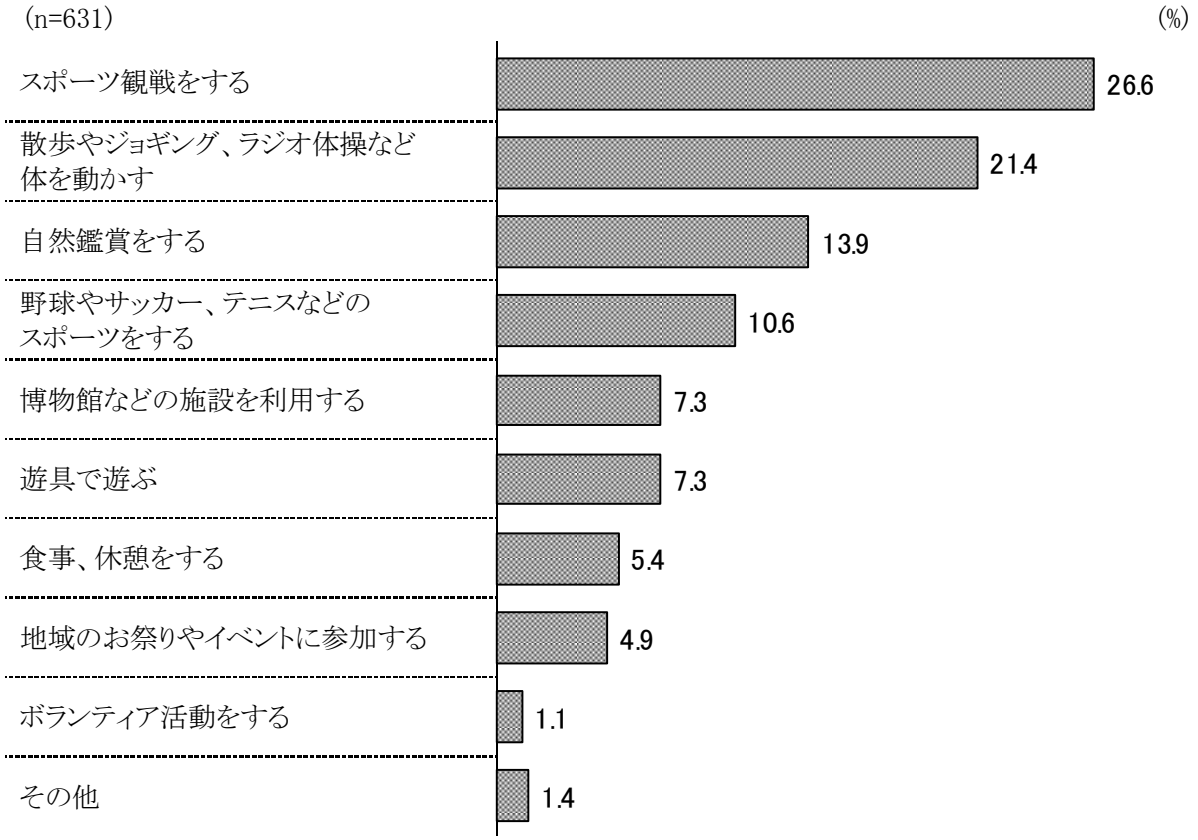


※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

② 等々力緑地

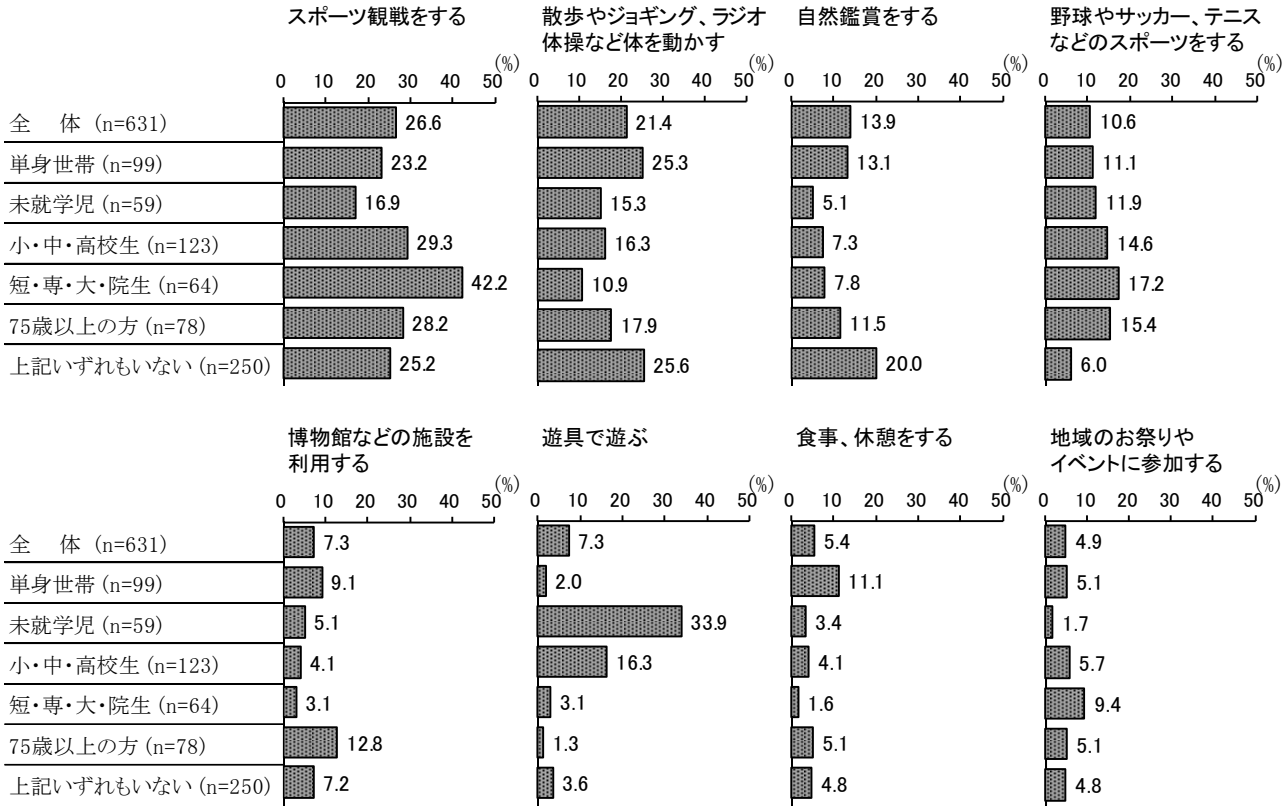
「スポーツ観戦をする」が 26.6％と最も多く、次いで「散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす」（21.4％）、「自然鑑賞をする」（13.9％）と続いている。

【図表　16】総合公園の利用目的［等々力緑地］



同居者別に見ると、「スポーツ観戦をする」は「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」と同居している人で４割を超えて多く、「散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす」や「自然鑑賞をする」は「単身世帯」と「上記いずれもいない」（同居者に子どもや 75 歳以上の方がいない）人で多い。「博物館などの施設を利用する」は「75 歳以上の方」と同居している人で多い。「遊具で遊ぶ」は「未就学児」と同居している人で 33.9％と最も多く、次いで「小学生・中学生・高校生」と同居している人で 16.3％となっている。

【図表　17】総合公園の利用目的［等々力緑地］≪上位８項目≫
（同居者別）

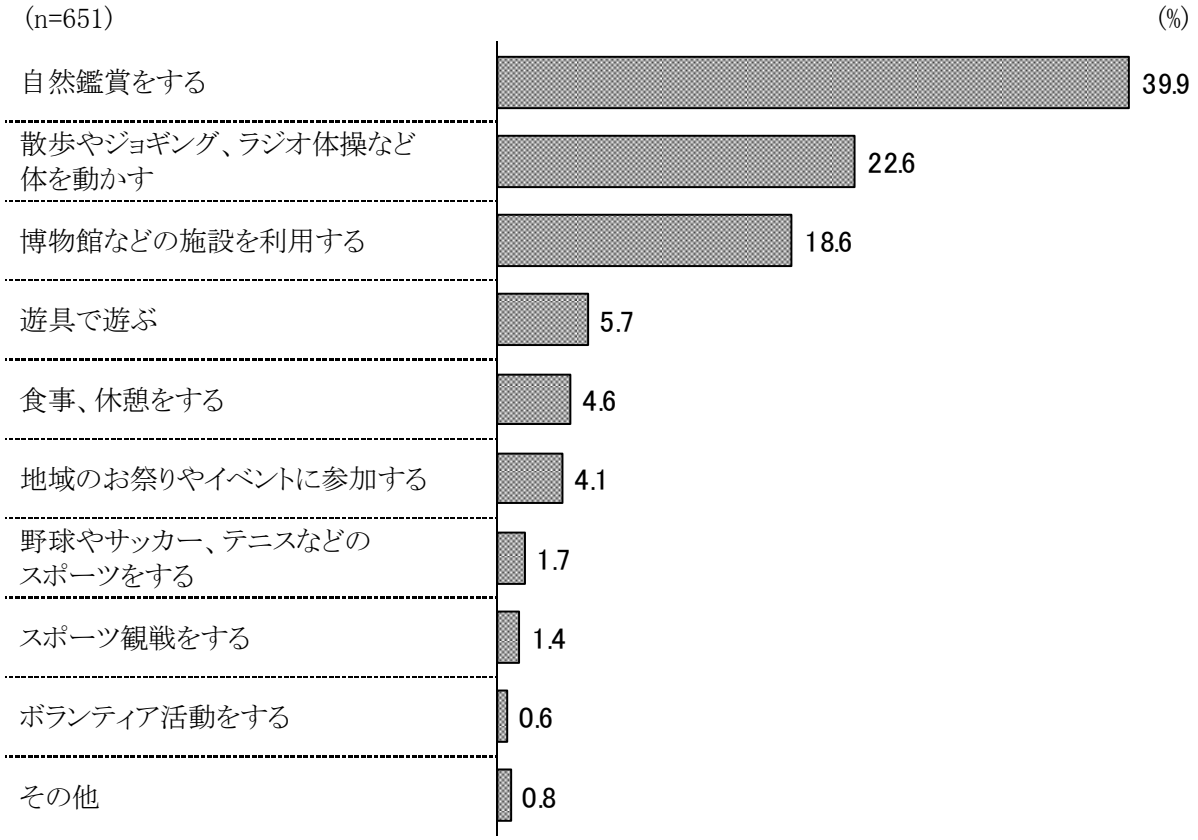


※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

③ 生田緑地

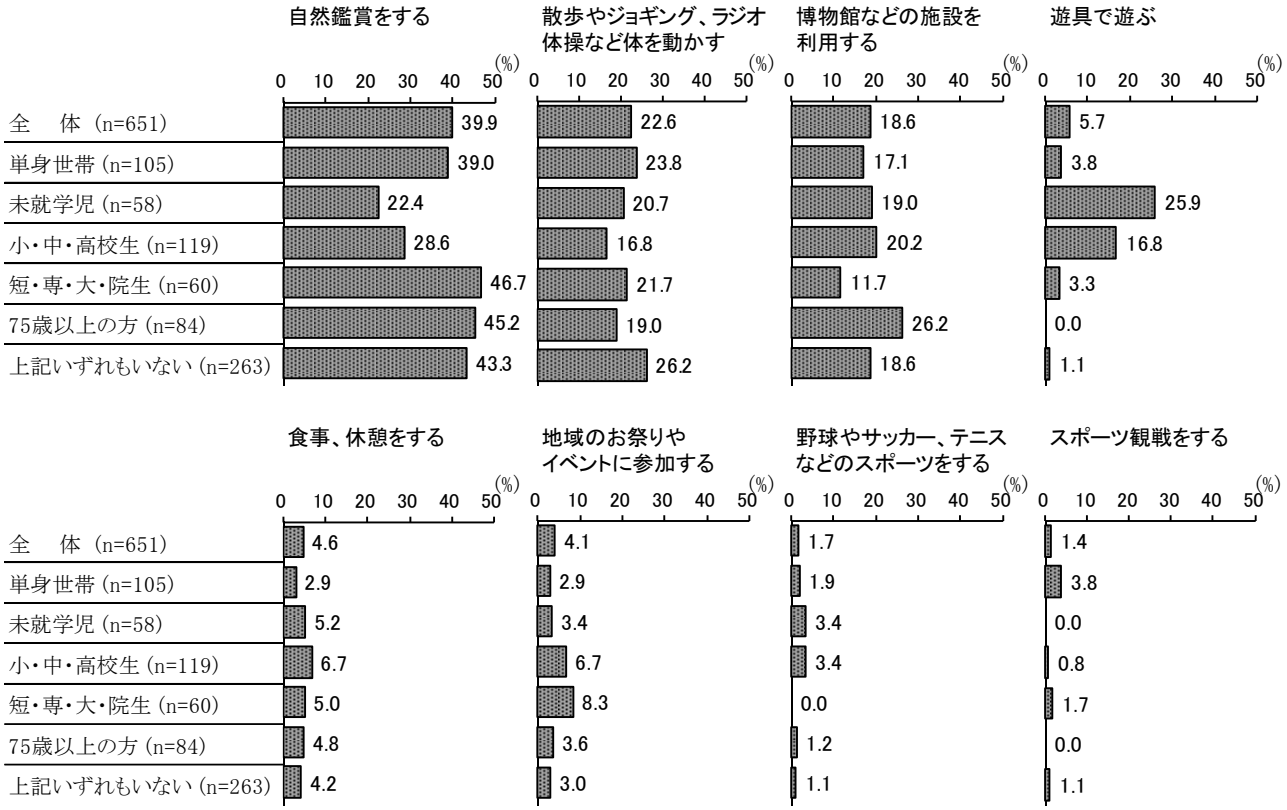
「自然鑑賞をする」が 39.9％と最も多く、次いで「散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす」（22.6％）、「博物館などの施設を利用する」（18.6％）と続いている。

【図表　18】総合公園の利用目的［生田緑地］



同居者別に見ると、「自然鑑賞をする」は「未就学児」、「小学生・中学生・高校生」と同居している人で２割台と少なく、「博物館などの施設を利用する」は「75 歳以上の方」と同居している人で多い。また、「遊具で遊ぶ」は「未就学児」と同居している人で 25.9％と最も多く、次いで「小学生・中学生・高校生」と同居している人で 16.8％となっている。

【図表　19】総合公園の利用目的［生田緑地］≪上位８項目≫
（同居者別）



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

Ｑ５の総合公園の直近の利用目的について、次のとおり整理・分類した。

【運動】 ..... 散歩やジョギング、ラジオ体操など体を動かす
野球やサッカー、テニスなどのスポーツをする

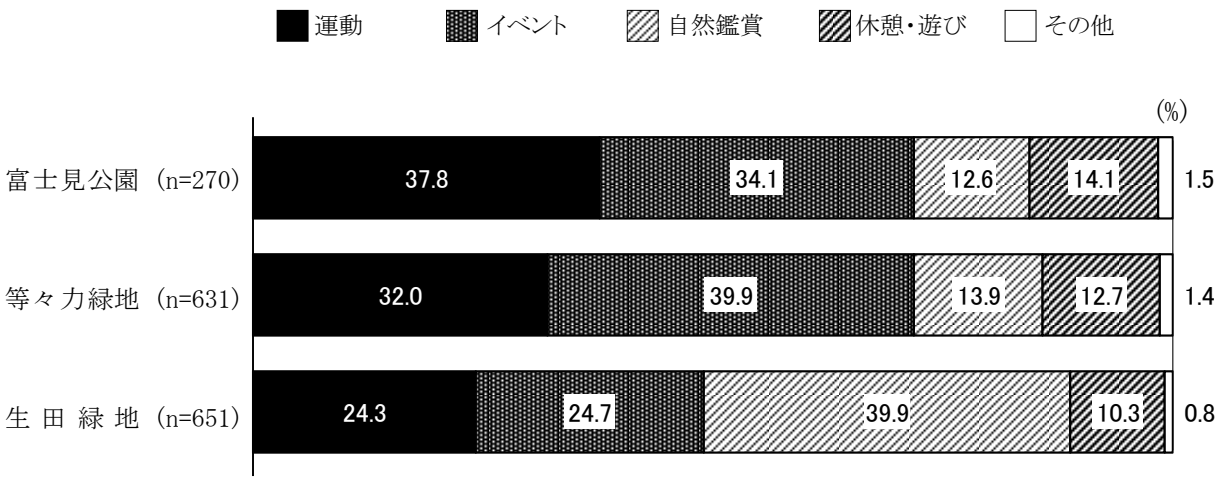
【イベント】 ..... スポーツ観戦をする
博物館などの施設を利用する
地域のお祭りやイベントに参加する
ボランティア活動をする

【自然鑑賞】 ..... 自然鑑賞をする

【休憩・遊び】 ..... 食事、休憩をする
遊具で遊ぶ

上記の分類により集計を行ったところ、富士見公園は【運動】(37.8%)、等々力緑地は【イベント】(39.9%)、生田緑地は【自然鑑賞】(39.9%) が最も多かった。

【図表　20】総合公園の利用目的



(6)　総合公園への交通手段

Ｑ６．「利用したことがある」と回答した公園について、一番最近利用した時の公園への行き方について伺います。
●鉄道を利用しなかった人⇒自宅からの交通手段を選んでください。
●鉄道を利用した人⇒公園最寄り駅からの交通手段を選び、利用した駅名（公園最寄り駅）を記入してください。

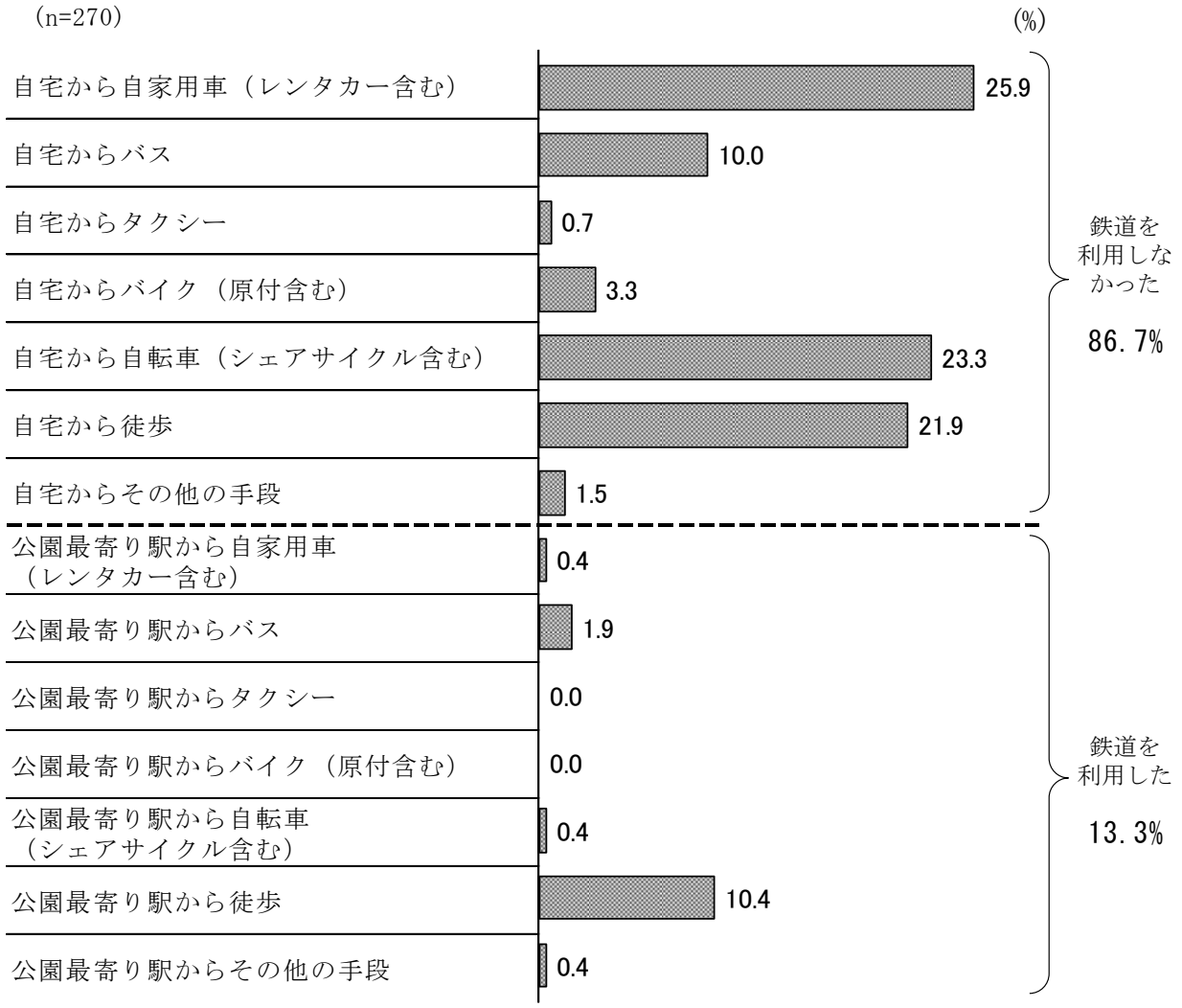
① 富士見公園

鉄道利用の有無では、【鉄道を利用しなかった】人が 86.7%、【鉄道を利用した】人が 13.3%であった。

【鉄道を利用しなかった】場合の自宅からの交通手段は、「自家用車（レンタカー含む）」が 25.9%と最も多く、次いで「自転車（シェアサイクル含む）」（23.3%）、「徒歩」（21.9%）と続いている。

【鉄道を利用した】場合の公園最寄り駅からの交通手段は、「徒歩」が 10.4%と最も多く、次いで「バス」（1.9%）となっている。また、利用した鉄道の駅としては「川崎」が挙げられた。

【図表　21】総合公園への交通手段［富士見公園］



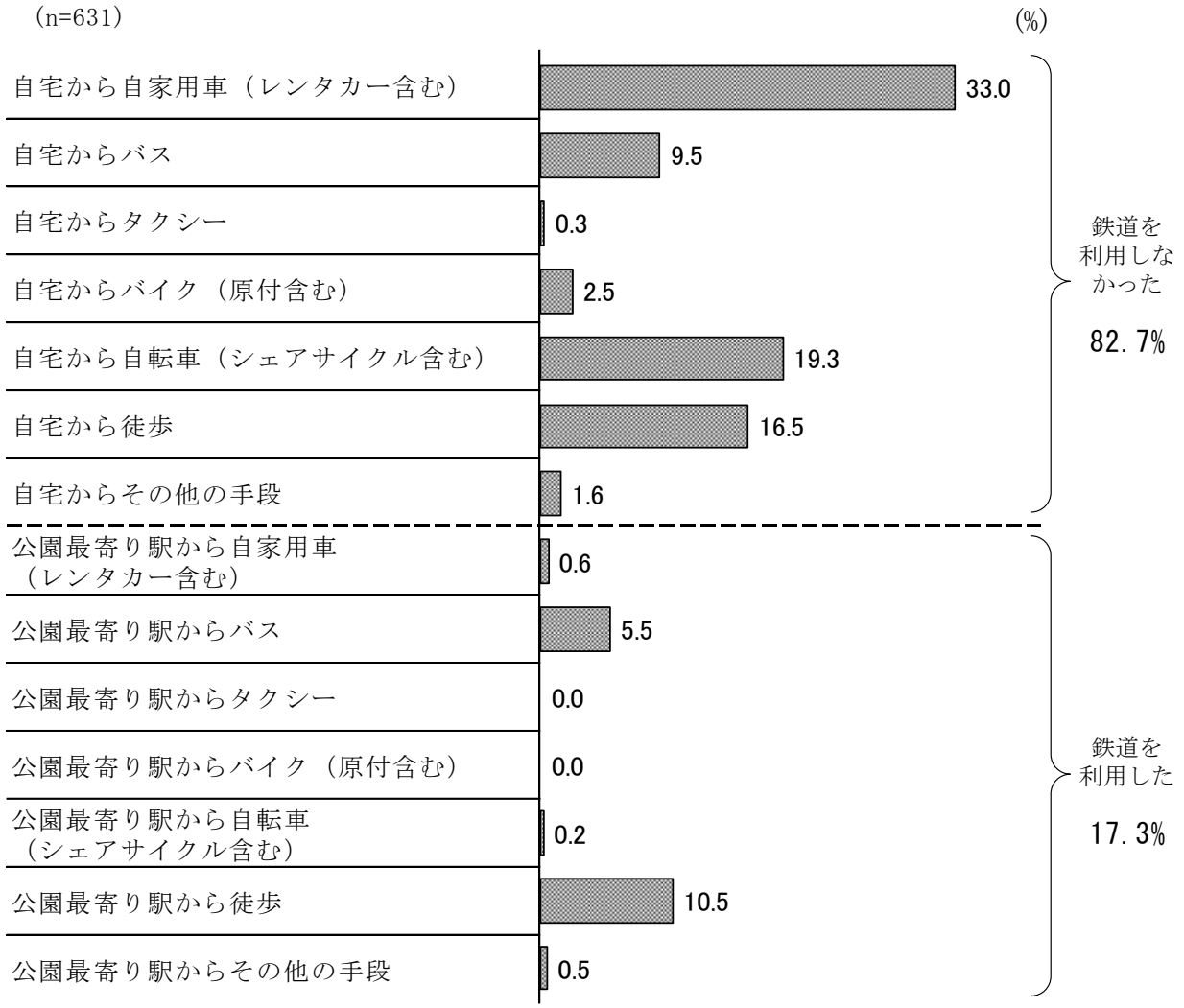
② 等々力緑地

鉄道利用の有無では、【鉄道を利用しなかった】人が 82.7%、【鉄道を利用した】人が 17.3%であった。

【鉄道を利用しなかった】場合の自宅からの交通手段は、「自家用車（レンタカー含む）」が 33.0%と最も多く、次いで「自転車（シェアサイクル含む）」（19.3%）、「徒歩」（16.5%）と続いている。

【鉄道を利用した】場合の公園最寄り駅からの交通手段は、「徒歩」が 10.5%と最も多く、次いで「バス」（5.5%）となっている。また、利用した鉄道の駅としては「武蔵小杉」、「武蔵中原」、「溝の口」などが挙げられた。

【図表　22】総合公園への交通手段［等々力緑地］



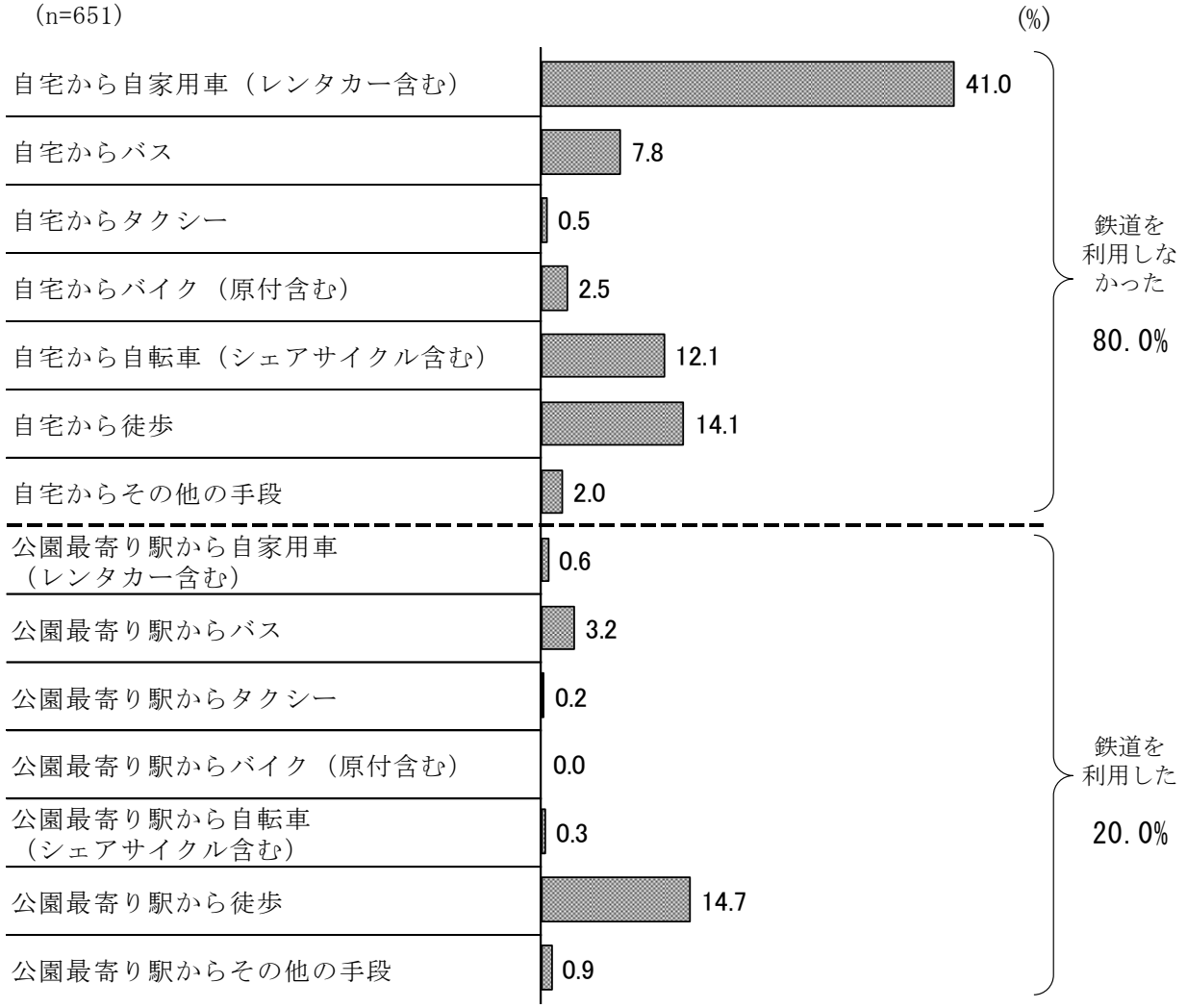
③ 生田緑地

鉄道利用の有無では、【鉄道を利用しなかった】人が 80.0%、【鉄道を利用した】人が 20.0%であった。

【鉄道を利用しなかった】場合の自宅からの交通手段は、「自家用車（レンタカー含む）」が 41.0%と最も多く、次いで「徒歩」（14.1%）、「自転車（シェアサイクル含む）」（12.1%）、と続いている。

【鉄道を利用した】場合の公園最寄り駅からの交通手段は、「徒歩」が 14.7%と最も多く、次いで「バス」（3.2%）となっている。また、利用した鉄道の駅としては「向ヶ丘遊園」、「登戸」、「生田」などが挙げられた。

【図表　23】総合公園への交通手段［生田緑地］



各公園の概要と特徴

今回調査した３つの総合公園について、概要とＱ３～Ｑ６の結果を以下の通りまとめた。

【図表　24】各公園の概要と特徴

		富士見公園	等々力緑地	生田緑地
所在地		川崎区富士見町1･2丁目他	中原区等々力1-1	多摩区枡形7-1-4
主な施設・設備		テニスコート、相撲場、川崎富士見球技場（アメリカンフットボール、サッカーなど）、富士見球場、多目的広場 ほか	陸上競技場、野球場、テニスコート、サッカー場、とどろきアリーナ、釣池、四季園、ふるさとの森 ほか	雑木林･湿地･湧水等の自然資源、岡本太郎美術館、日本民家園、かわさき宙と緑の科学館、藤子･F･不二雄･ミュージアム、ばら苑 ほか
利用率	全　体	18.0%	42.1%	43.4%
	川崎区	47.4%	28.0%	22.0%
	幸　区	28.7%	41.9%	28.7%
	中原区	14.2%	69.6%	35.4%
	高津区	10.1%	56.1%	45.6%
	宮前区	8.8%	36.3%	50.0%
	多摩区	10.6%	30.6%	71.3%
	麻生区	5.3%	22.8%	52.0%
認知度	全　体	48.9%	84.9%	85.1%
	川崎区	79.3%	81.5%	75.9%
	幸　区	68.9%	87.4%	85.0%
	中原区	49.2%	90.0%	78.1%
	高津区	42.5%	88.2%	86.8%
	宮前区	36.3%	86.3%	88.5%
	多摩区	38.4%	84.3%	93.5%
	麻生区	26.3%	74.3%	90.6%
一緒に利用した人		家族と 44.4% 一人で 31.9% 友人･知人と 23.7%	家族と 54.8% 友人･知人と 23.8% 一人で 21.4%	家族と 61.3% 友人･知人と 21.0% 一人で 17.7%
利用目的		運動 37.8% イベント 34.1% 休憩・遊び 14.1% 自然鑑賞 12.6%	イベント 39.9% 運動 32.0% 自然鑑賞 13.9% 休憩・遊び 12.7%	自然鑑賞 39.9% イベント 24.7% 運動 24.3% 休憩・遊び 10.3%
交通手段		自家用車 25.9% 自転車 23.3% 徒歩 21.9%	自家用車 33.0% 自転車 19.3% 鉄道 17.3%	自家用車 41.0% 鉄道 20.0% 徒歩 14.1%

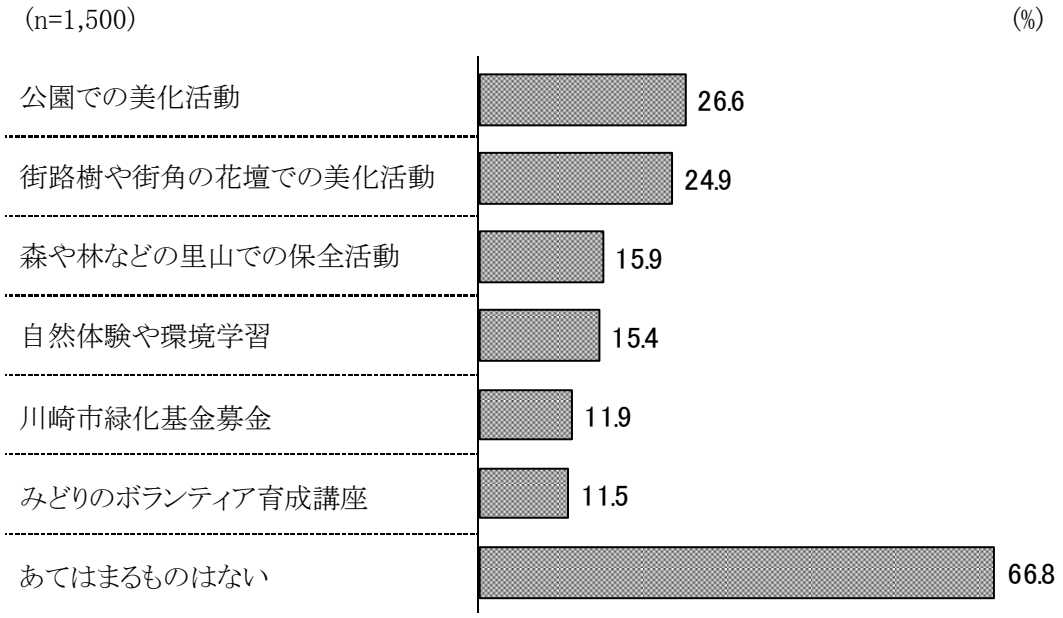
(7)　みどりに関わる取組について

Ｑ７．川崎市では、次のような、みどりに関わる取組を行っています。①～③の質問にお答えください。
① この中で知っていた取組はありますか。
② 参加したことがある取組または現在参加している取組はありますか。
③ 今後参加してみたい取組はありますか。

① 知っていた取組

知っていた取組では、「公園での美化活動」が 26.6％と最も多く、次いで「街路樹や街角の花壇での美化活動」(24.9％)、「森や林などの里山での保全活動」(15.9％）と続いている。一方で、「あてはまるものはない」が 66.8％を占めた。

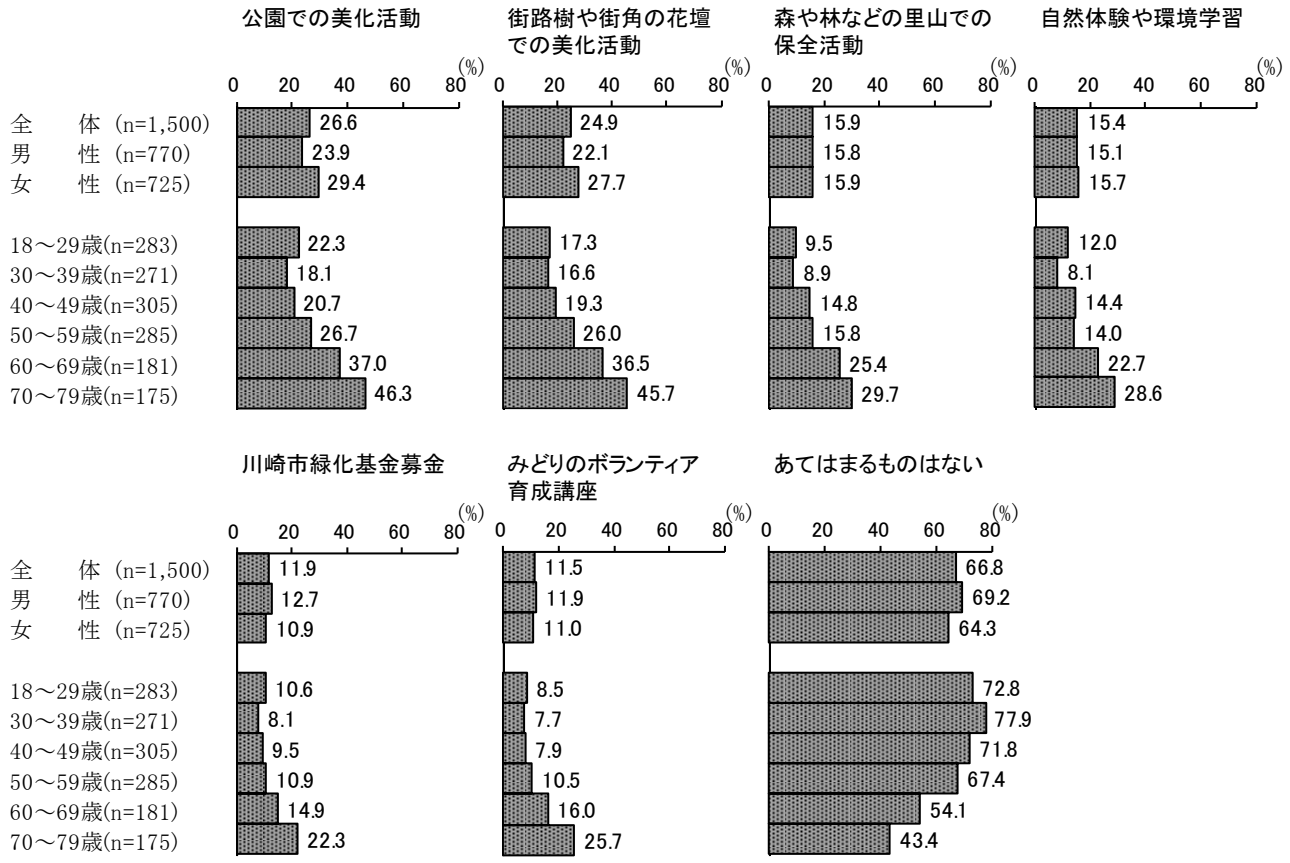
【図表　25】みどりに関わる取組について　［知っていた取組］（複数回答）



性別に見ると、「公園での美化活動」と「街路樹や街角の花壇での美化活動」で男性よりも女性の方が５ポイント以上高い。

年齢別に見ると、「あてはまるものはない」を除いた全ての項目で、概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

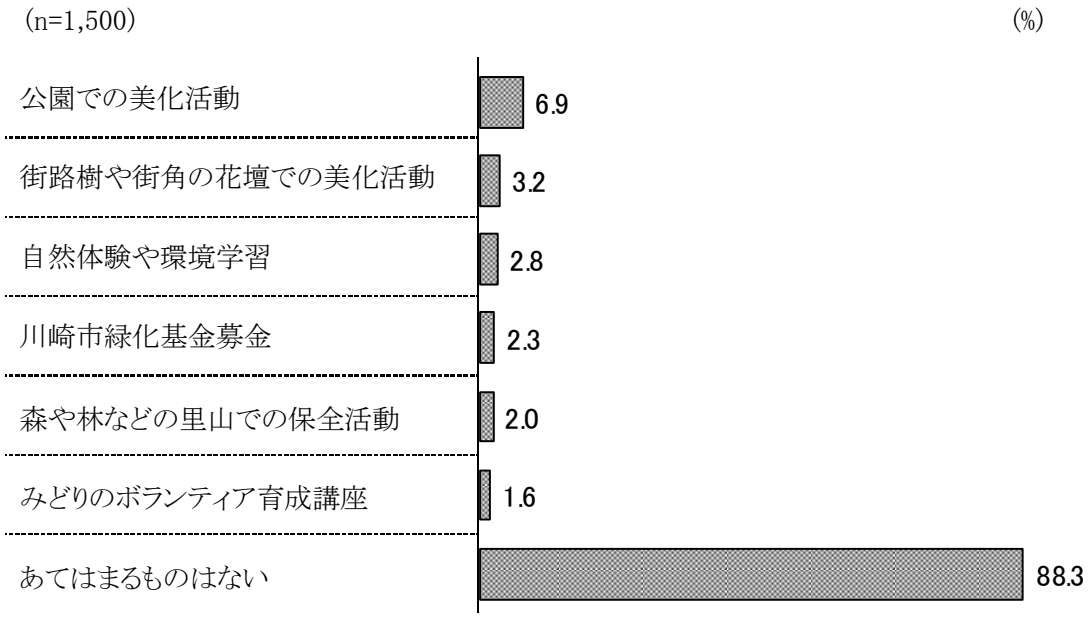
【図表　26】みどりに関わる取組について（性別、年齢別）
［知っていた取組］（複数回答）



② 参加したことがある取組または現在参加している取組

参加したことがある取組または現在参加している取組では、「公園での美化活動」が 6.9％と最も多いが、全ての取組において１割を下回っており、「あてはまるものはない」（88.3％）がほぼ９割を占めた。

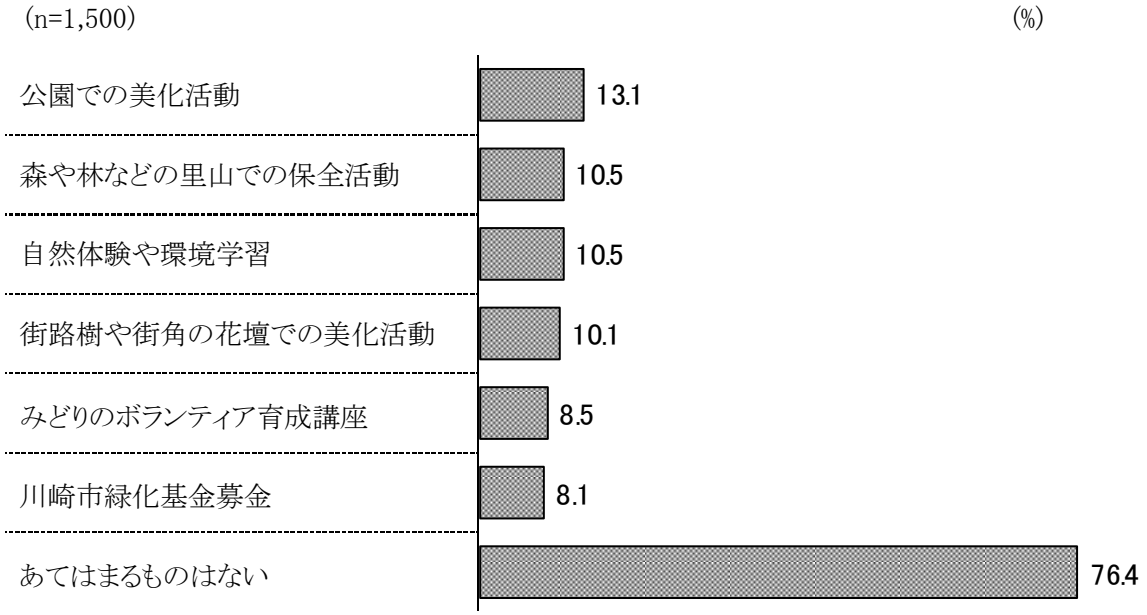
【図表　27】みどりに関わる取組について
［参加したことがある取組または現在参加している取組］（複数回答）



③ 今後参加してみたい取組

今後参加してみたい取組では、「公園での美化活動」が 13.1％と最も多く、「森や林などの里山での保全活動」と「自然体験や環境学習」がともに 10.5％で続いている。一方で、76.4％が「あてはまるものはない」と回答している。

【図表　28】みどりに関わる取組について［今後参加してみたい取組］（複数回答）



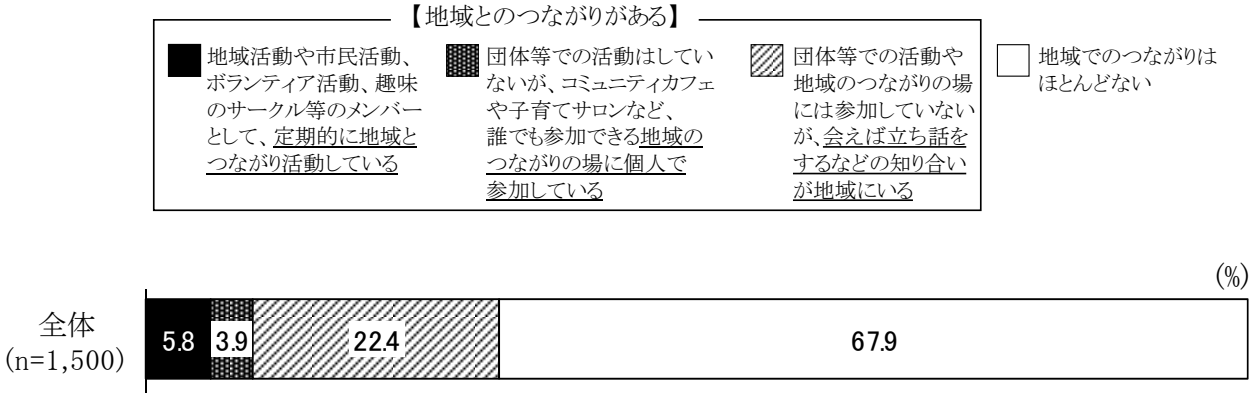
1.2　コミュニティに係る施策について

(1)　地域とのつながりについて

Ｑ８．あなたは、日常生活の中で、自分の住んでいる地域とどのようなつながりを持っていますか。最も近いものを選んでください。

「地域活動や市民活動、ボランティア活動、趣味のサークル等のメンバーとして、定期的に地域とつながり活動している」(5.8%)、「団体等での活動はしていないが、コミュニティカフェや子育てサロンなど、誰でも参加できる地域のつながりの場に個人で参加している」(3.9%)、「団体等での活動や地域のつながりの場には参加していないが、会えば立ち話をするなどの知り合いが地域にいる」(22.4%) を合計した【地域とのつながりがある】は 32.1%にとどまり、「地域でのつながりはほとんどない」が 67.9%と全体のおよそ３分の２を占めた。

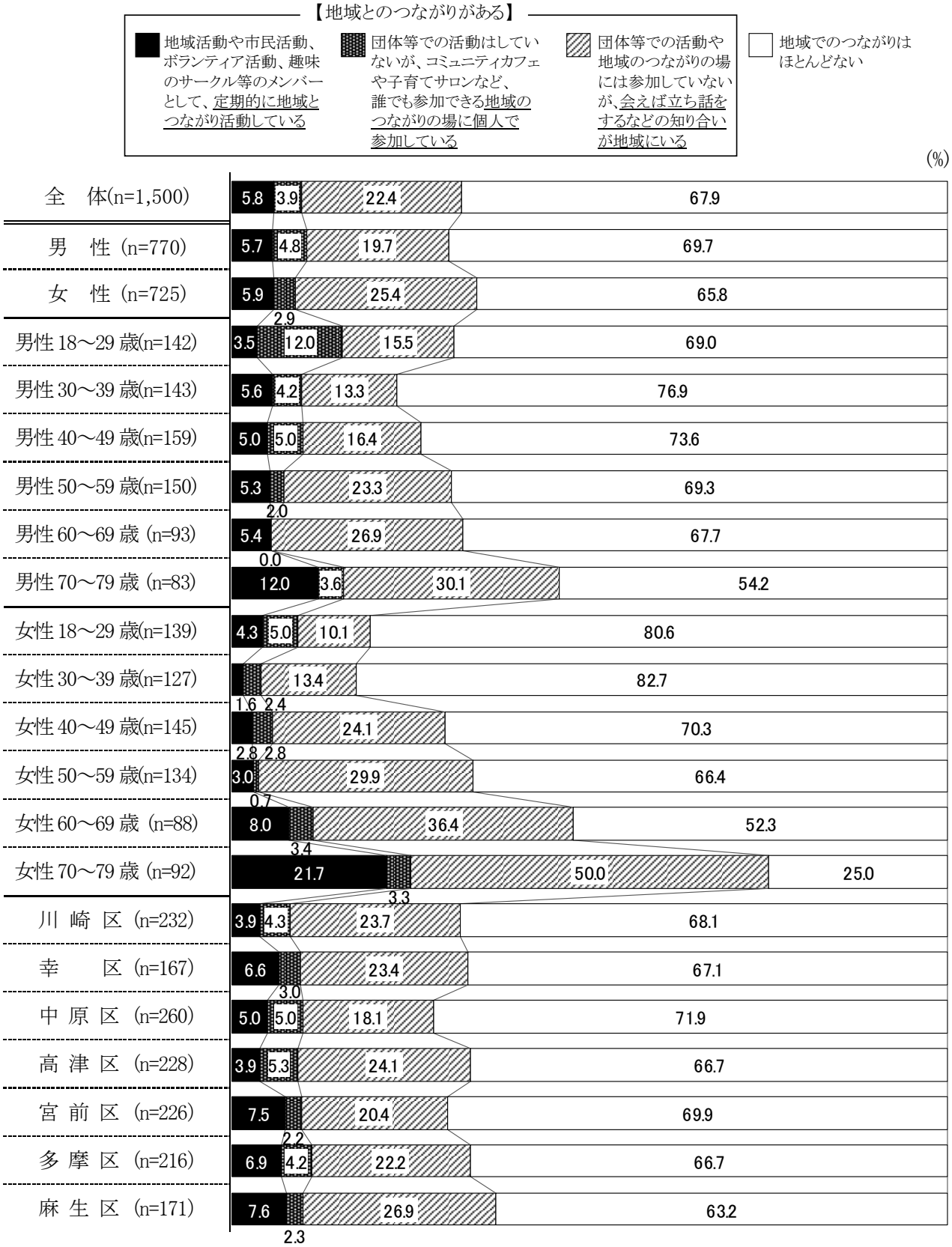
【図表　29】地域とのつながりについて



性／年齢別に見ると、【地域とのつながりがある】は男女ともに70～79歳で最も多くなっている。特に女性70～79歳は75.0％と飛び抜けて多く、なかでも「団体等での活動や地域のつながりの場には参加していないが、会えば立ち話をするなどの知り合いが地域にいる」が半数を占めている。

居住区別では傾向に大きな差は見られないが、【地域とのつながりがある】は麻生区で36.8％と最も多い。

【図表　30】地域とのつながりについて（性／年齢別、居住区別）

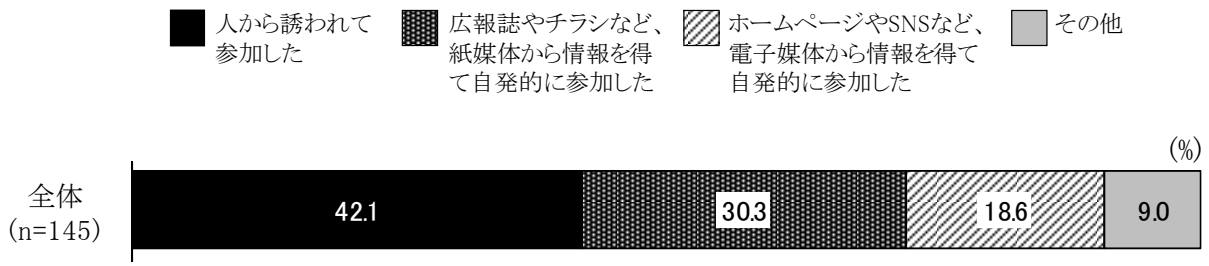


(2)　地域のつながりに関わるようになったきっかけ

Ｑ９．Ｑ８で「１」または「２」を選んだ方にお聞きします。地域のつながりに関わるようになったきっかけは何ですか。最も近いものを選んでください。

「人から誘われて参加した」が 42.1%と最も多く、次いで「広報誌やチラシなど、紙媒体から情報を得て自発的に参加した」(30.3%)、「ホームページや SNS など、電子媒体から情報を得て自発的に参加した」(18.6%)と続いている。

【図表　31】地域のつながりに関わるようになったきっかけ

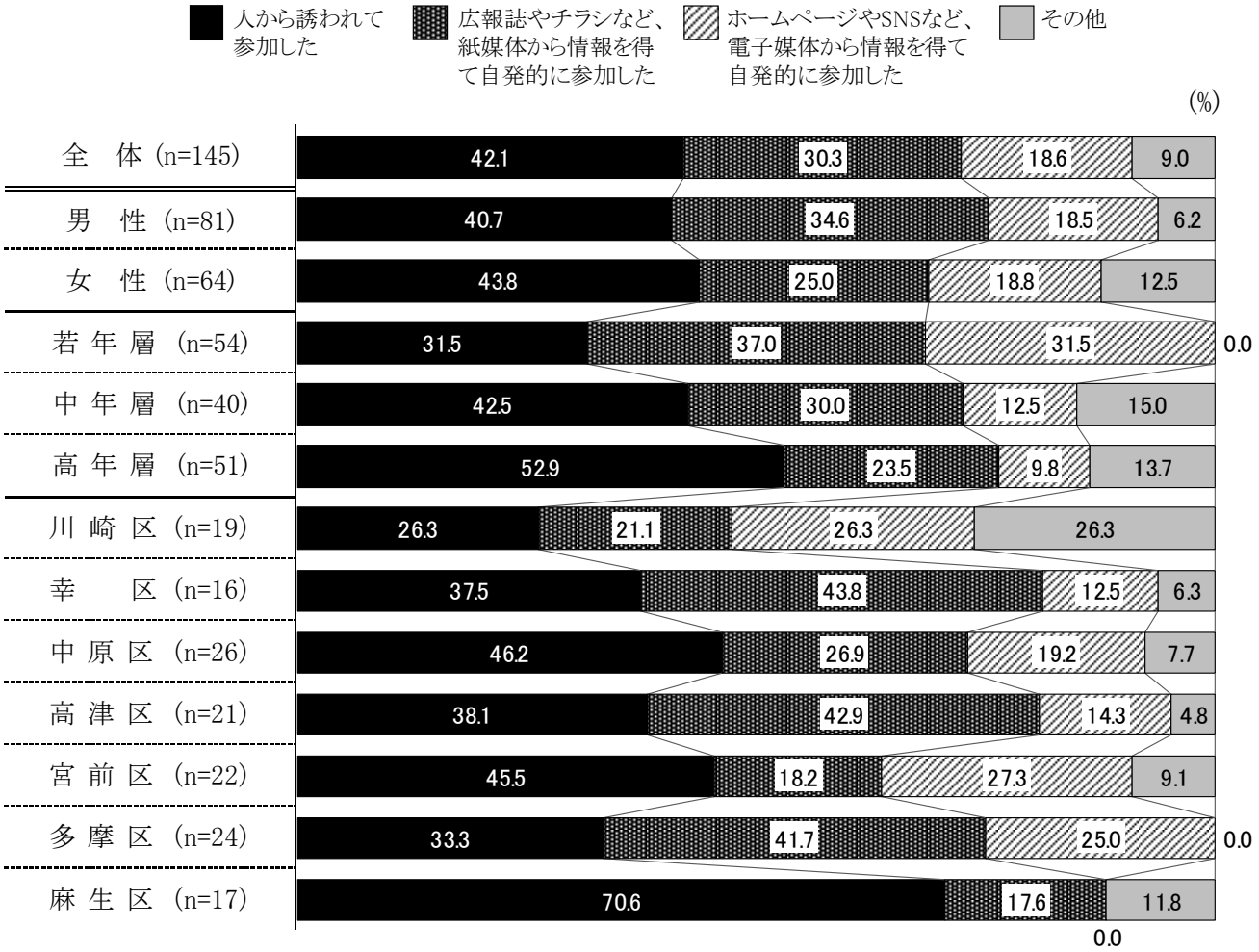


性別に見ると、「広報誌やチラシなど、紙媒体から情報を得て自発的に参加した」は女性（25.0%）よりも男性（34.6%）の方が 9.6 ポイント高くなっている。

「若年層（18～39 歳）」、「中年層（40～59 歳）」、「高年層（60～79 歳）」の年齢層別に見ると、「人から誘われて参加した」は「高年層」で 52.9%と高い年齢層ほど多く、「ホームページや SNS など、電子媒体から情報を得て自発的に参加した」は「若年層」で 31.5%と最も多く、高い年齢層ほど少なくなっている。

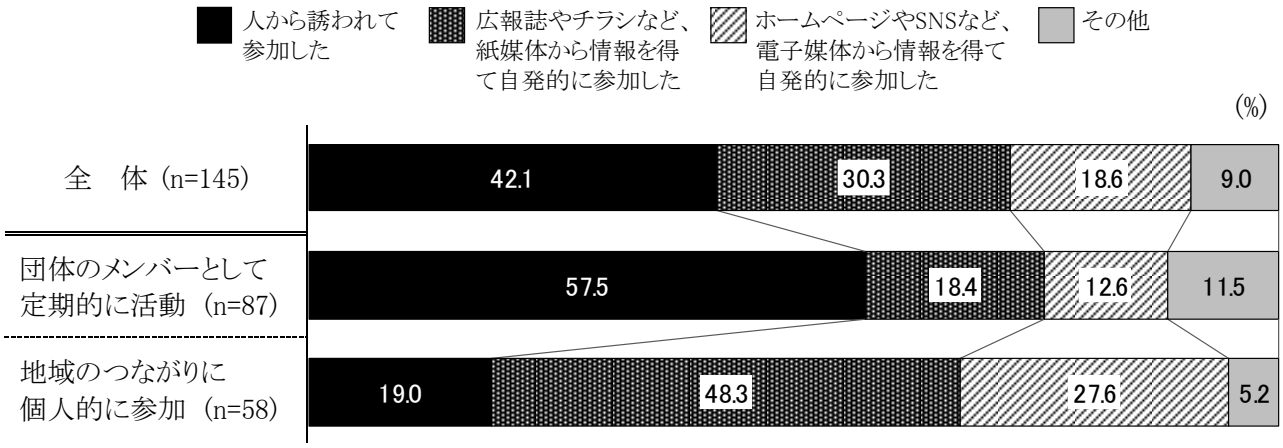
居住区別は各区の回答者数が少ないため、参考値として掲載している。

【図表　32】地域のつながりに関わるようになったきっかけ（性別、年齢層別、居住区別）



Ｑ８の「地域とのつながり」状況別に見ると、「地域活動や市民活動、ボランティア活動、趣味のサークル等のメンバーとして、定期的に地域とつながり活動している」人は「人から誘われて参加した」が 57.5%と６割近くを占めている。また、「団体等での活動はしていないが、コミュニティカフェや子育てサロンなど、誰でも参加できる地域のつながりの場に個人で参加している」人では「広報誌やチラシなど、紙媒体から情報を得て自発的に参加した」が 48.3%と半数近くを占めている。

【図表　33】地域のつながりに関わるようになったきっかけ（「地域とのつながり」状況別）

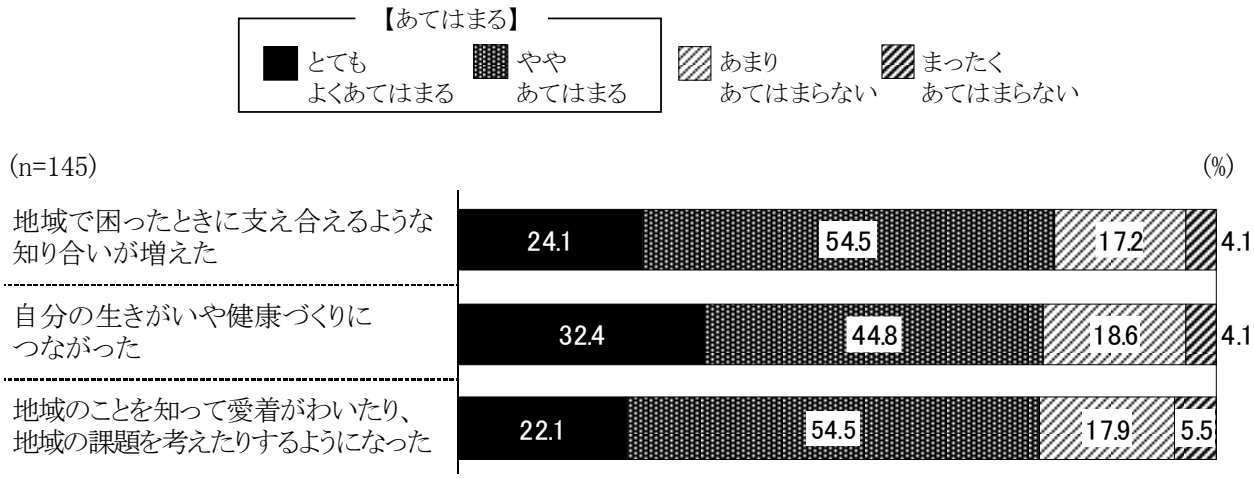


(3)　地域とのつながりによって生じた変化

Q10.　Q８で「１」または「２」を選んだ方にお聞きします。地域のつながりによって、あなた自身にとって次のような変化がありましたか。次の項目について最も近いものを選んでください。

「とてもよくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した【あてはまる】はいずれも７割台後半となっているが、「自分の生きがいや健康づくりにつながった」では「とてもよくあてはまる」が３割を超えて他の２項目と比べて高くなっている。

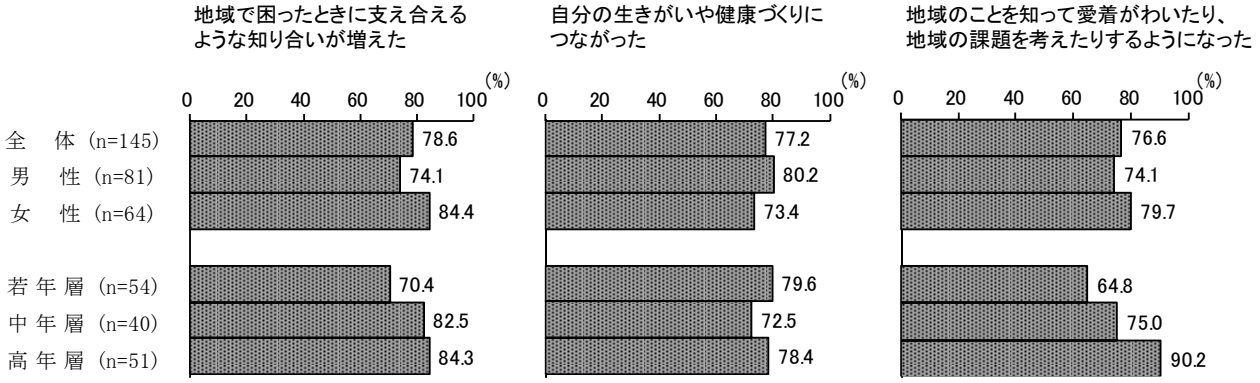
【図表　34】地域とのつながりによって生じた変化



性別に見ると、女性の方が「地域で困ったときに支え合えるような知り合いが増えた」では10.3ポイント、「地域のことを知って愛着がわいたり、地域の課題を考えたりするようになった」では5.6ポイント高く、「自分の生きがいや健康づくりにつながった」では男性の方が6.8ポイント高い。

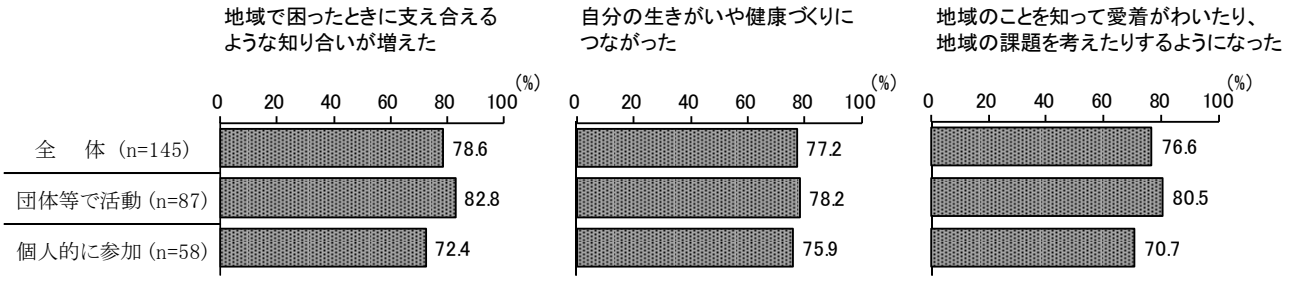
年齢層別に見ると、「地域で困ったときに支え合えるような知り合いが増えた」と「地域のことを知って愛着がわいたり、地域の課題を考えたりするようになった」は「高年層」が最も多く、「自分の生きがいや健康づくりにつながった」は中年層でやや少なくなっている。

【図表　35】地域とのつながりによって生じた変化（【あてはまる】回答者）
（性別、年齢層別）



Ｑ８の「地域とのつながり」状況別に見ると、「地域で困ったときに支え合えるような知り合いが増えた」と「地域のことを知って愛着がわいたり、地域の課題を考えたりするようになった」は、「地域活動や市民活動、ボランティア活動、趣味のサークル等のメンバーとして、定期的に地域とつながり活動している」人の方が10ポイント前後高くなっている。

【図表　36】地域とのつながりによって生じた変化（【あてはまる】回答者）
（「地域とのつながり」状況別）



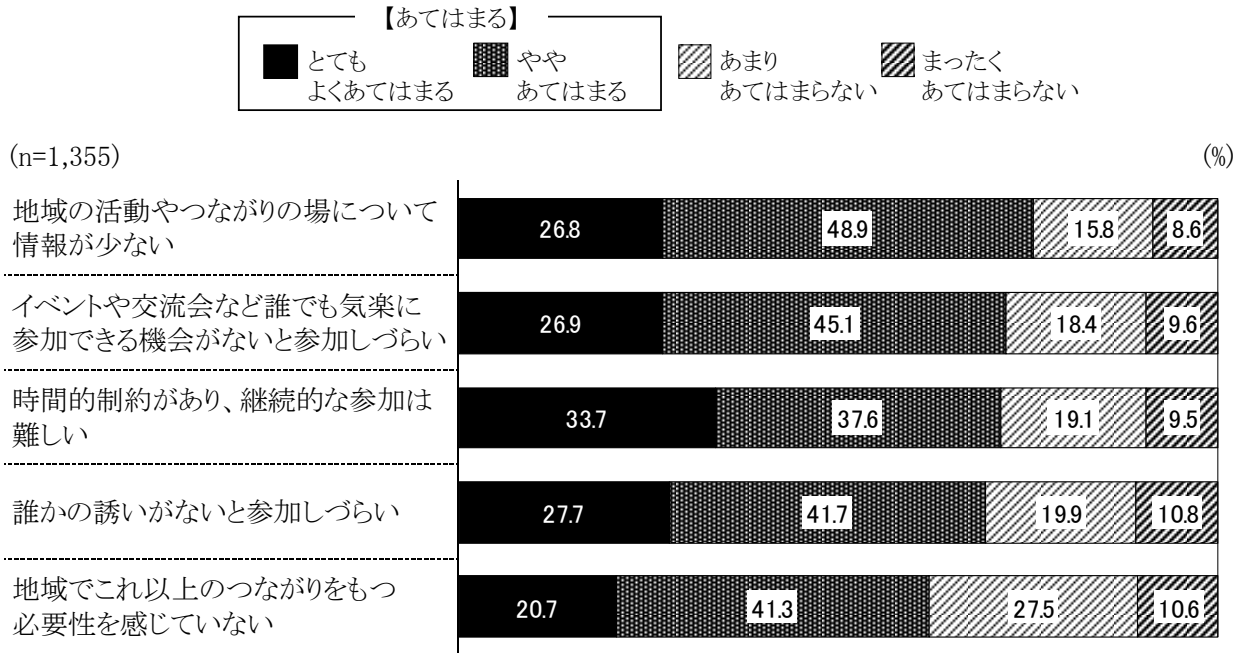
（4） 地域での活動やつながりの場に参加していない理由

Q11. Ｑ８で「３」または「４」を選んだ方にお聞きします。特に地域での活動やつながりの場に参加していない理由やお気持ちを教えてください。

「とてもよくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した【あてはまる】は、「地域の活動やつながりの場について情報が少ない」が 75.6％と最も多く、「イベントや交流会など誰でも気楽に参加できる機会がないと参加しづらい」（72.0％）、「時間的制約があり、継続的な参加は難しい」（71.4％）、「誰かの誘いがないと参加しづらい」（69.4％）といった参加の阻害となっている理由は概ね７割以上となっている。

一方で、「地域でこれ以上のつながりをもつ必要性を感じていない」という、そもそも参加の意思のない人が 61.9％と６割を超えている。

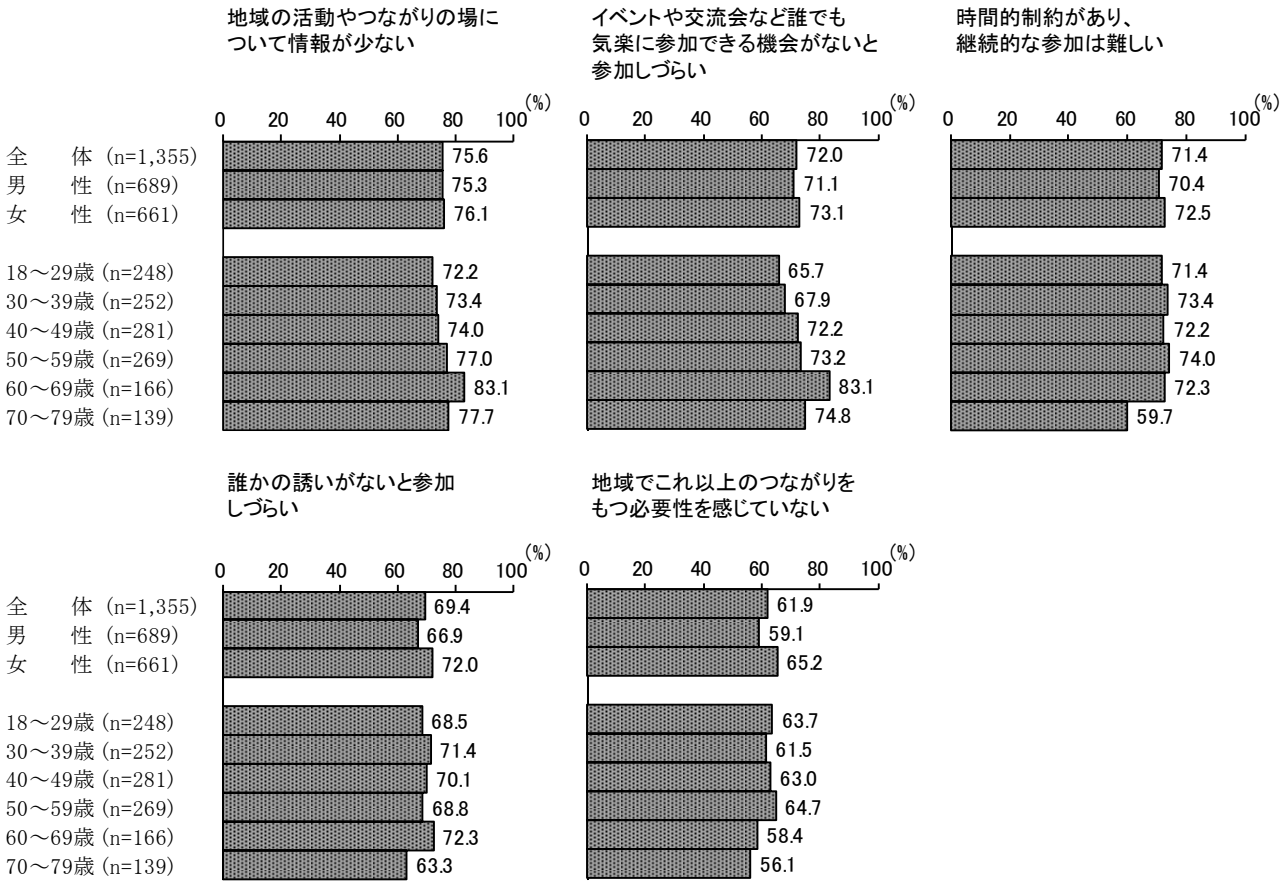
【図表　37】地域での活動やつながりの場に参加していない理由



性別に見ると、「誰かの誘いがないと参加しづらい」と「地域でこれ以上のつながりをもつ必要性を感じていない」は、男性よりも女性の方が５～６ポイント程度高くなっている。

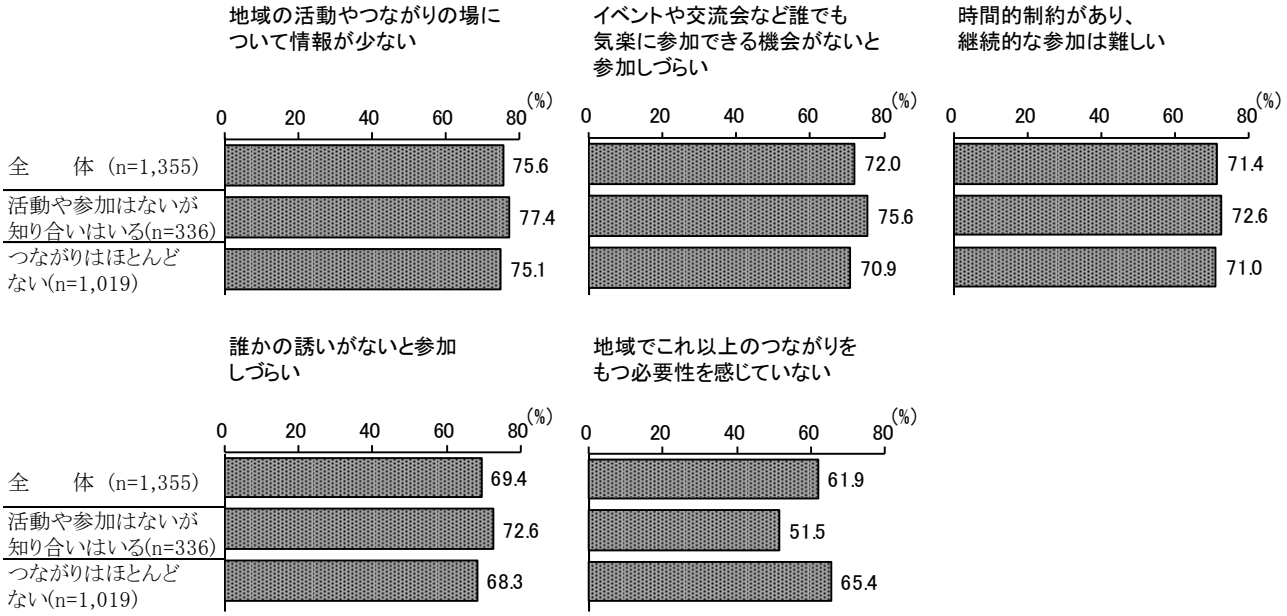
年齢別に見ると、「地域の活動やつながりの場について情報が少ない」と「イベントや交流会など誰でも気楽に参加できる機会がないと参加しづらい」は 70～79 歳を除き、概ね年齢が高くなるほど多くなっているが、「時間的制約があり、継続的な参加は難しい」は 70～79 歳で 59.7％と最も少ない。また、「地域でこれ以上のつながりをもつ必要性を感じていない」は 60～69 歳と 70～79 歳では５割台と少なくなっている。

【図表　38】地域での活動やつながりの場に参加していない理由（【あてはまる】回答者）（性別、年齢別）



Ｑ８の「地域とのつながり」状況別に見ると、「イベントや交流会など誰でも気楽に参加できる機会がないと参加しづらい」と「誰かの誘いがないと参加しづらい」は、「団体等での活動や地域のつながりの場には参加していないが、会えば立ち話をするなどの知り合いが地域にいる」人の方が４ポイント程度高くなっている。また、「地域でこれ以上のつながりをもつ必要性を感じていない」は「地域でのつながりはほとんどない」人の方が 13.9 ポイント高くなっている。

【図表　39】地域での活動やつながりの場に参加していない理由（【あてはまる】回答者）（「地域とのつながり」状況別）



1.3　選挙について

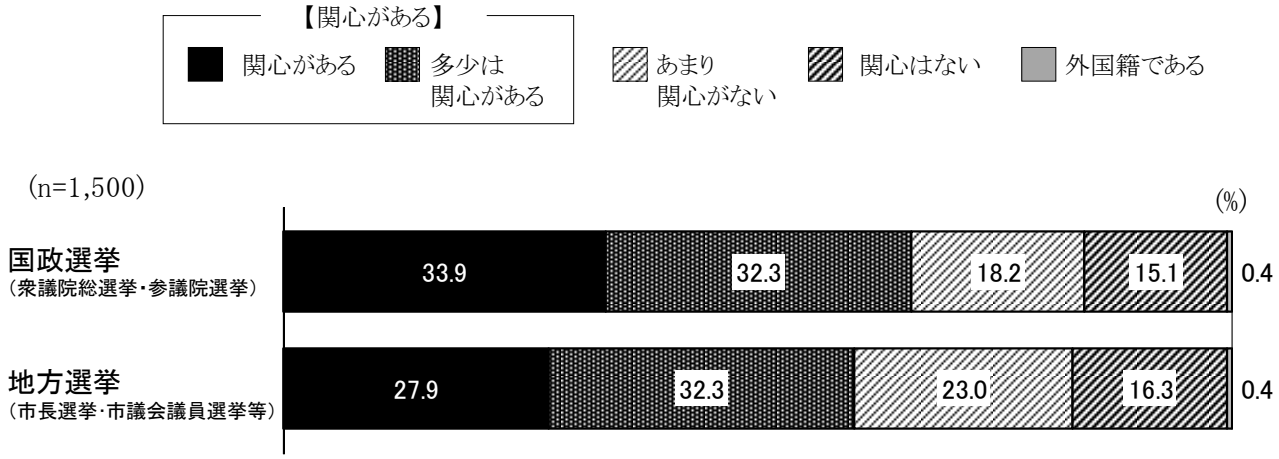
（1）　政治への関心の程度

Q13.　あなたは、ふだん国や地方の政治にどの程度関心がありますか。外国籍の方は「外国籍である」を選んでください。

「国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）」については、「関心がある」が 33.9％と最も多く、「多少は関心がある」（32.3％）との合計である【関心がある】は 66.3％であった。

「地方選挙（市長選挙・市議会議員選挙等）」については、「多少は関心がある」が 32.3％と最も多く、「関心がある」（27.9％）との合計である【関心がある】は 60.3％であった。

【図表　40】政治への関心の程度

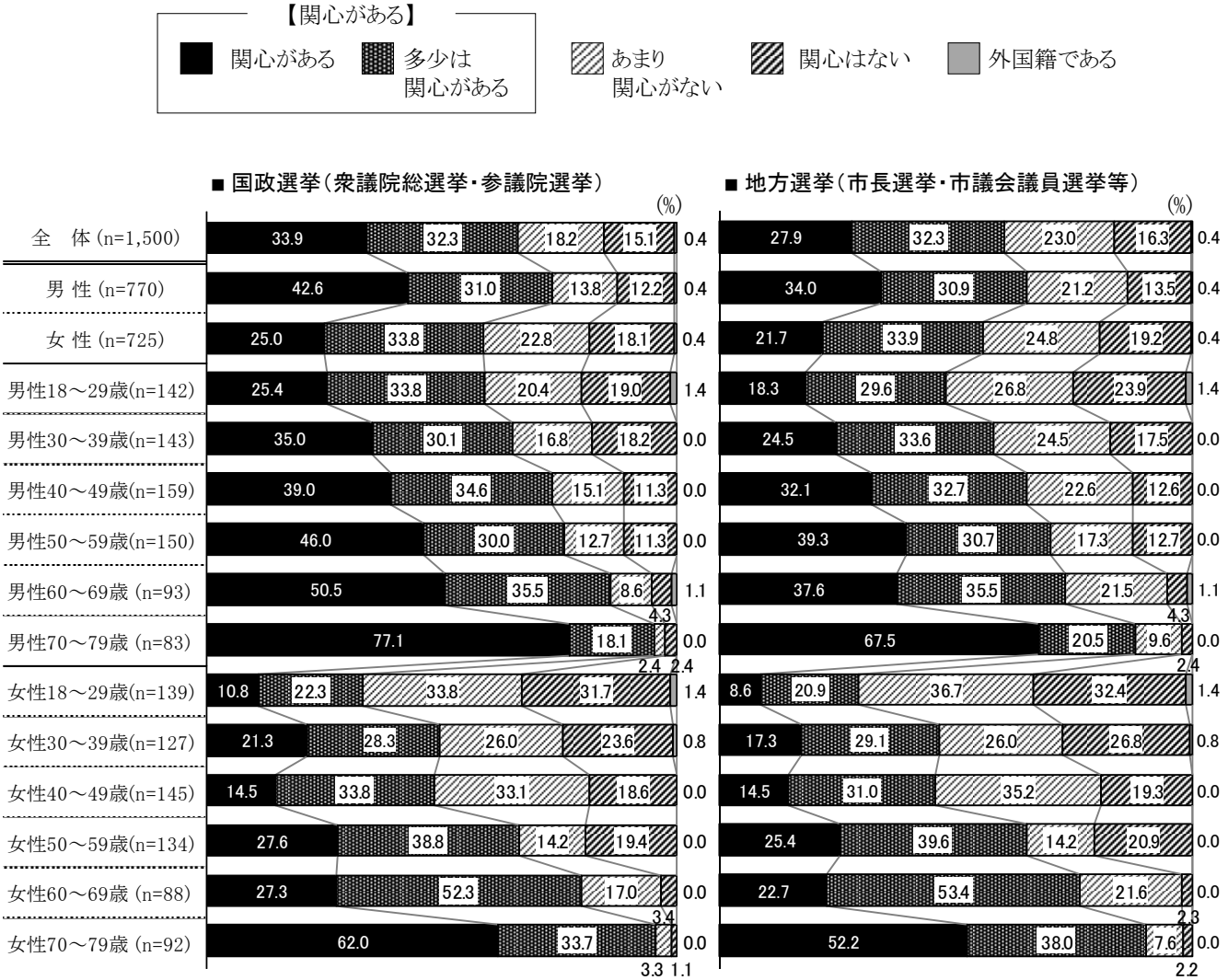


性別に見ると、「国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）」では、「関心がある」と「多少は関心がある」を合計した【関心がある】は女性（58.8%）よりも男性（73.6%）の方が 14.8 ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【関心がある】は男女ともに 70～79 歳で最も多く（男性 95.2%、女性 95.7%）、18～29 歳で最も少なくなっており（男性 59.2%、女性 33.1%）、概ね年齢が上がるほど関心が高くなっている。

「地方選挙（市長選挙・市議会議員選挙等）」でもほぼ同じ傾向となっており、【関心がある】は男女ともに 70～79 歳で最も多く（男性 88.0%、女性 90.2%）、18～29 歳で最も少なくなっている（男性 47.9%、女性 29.5%）が、「地方選挙」よりも「国政選挙」の方が全体的に関心の度合いが高い。

【図表　41】政治への関心の程度（性／年齢別）



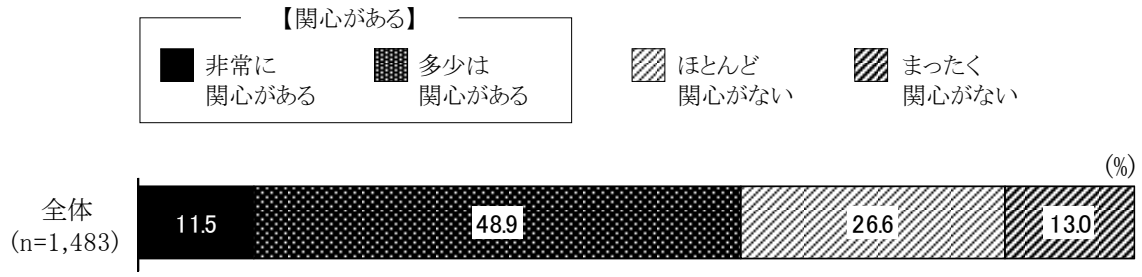
過去の調査では国と地方を分けて聴取していないので単純に比較することはできないが、平成 26 年度調査では【関心がある】が 83.5％と８割を超えて高かった。一方で、平成 30 年度調査では【関心がある】が 60.4％と今回の「地方選挙」の結果と同程度となっている。

また、今回と平成 30 年度調査はインターネット調査、平成 26 年度調査は郵送調査であることから、関心度の低下は経年的な意識の変化だけでなく、調査手法の違いも影響していることが考えられる。

【図表　42】政治への関心の程度（過去調査との比較）

●平成 30 年度 第１回調査（インターネット調査）

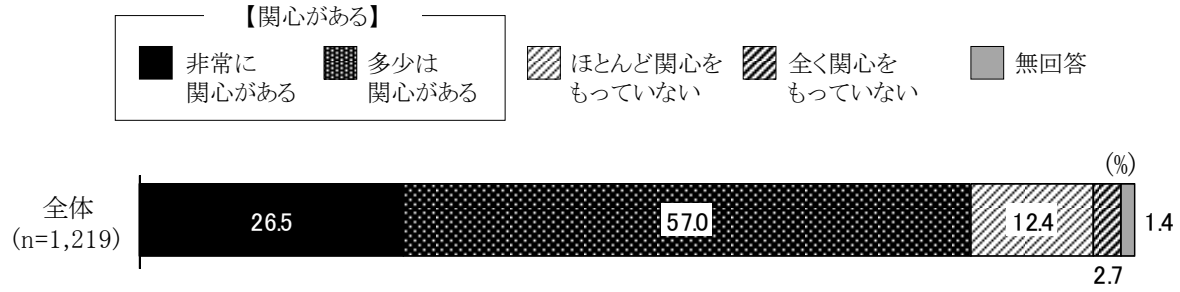
国や地方の政治への関心度　【関心がある】は 60.4％



※上記の構成比は、全体から「外国籍である」と回答した人を除外して算出している。

●平成 26 年度 第１回調査（郵送調査）

国や地方の政治についての関心度　【関心がある】は 83.5％



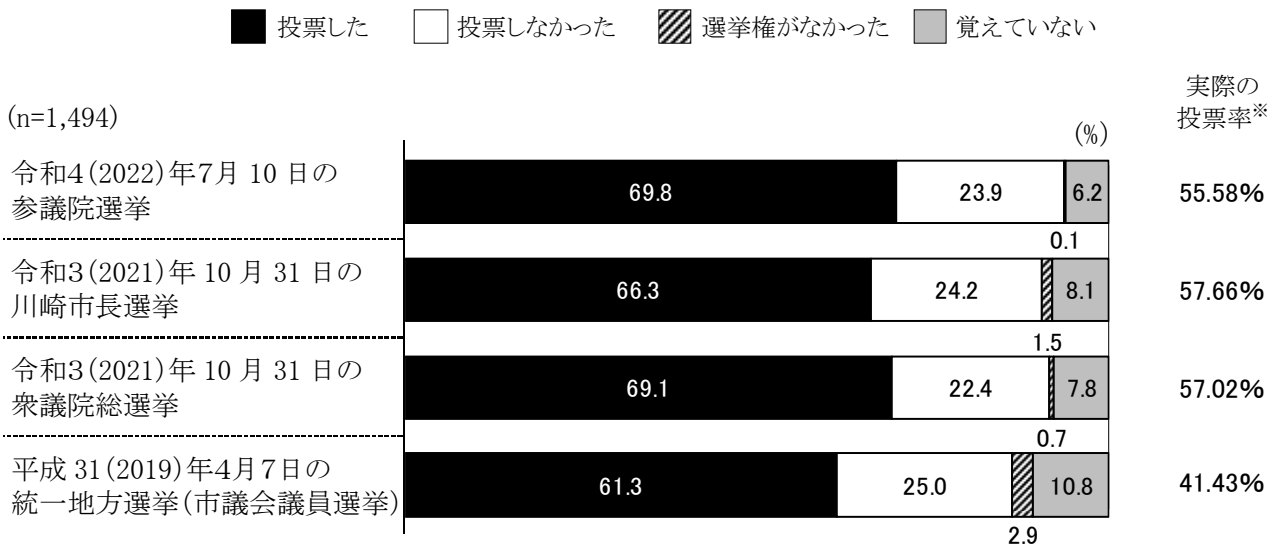
(2)　近年の選挙における投票行動

Q14. 近年行われた４つの選挙について伺います。それぞれの選挙に投票に行きましたか。

国政選挙である「令和４（2022）年７月 10 日の参議院選挙」と「令和３（2021）年 10 月 31 日の衆議院総選挙」では、「投票した」がほぼ７割であった。

地方選挙である「令和３（2021）年 10 月 31 日の川崎市長選挙」では「投票した」が 66.3%、「平成 31（2019）年４月７日の統一地方選挙（市議会議員選挙）」では 61.3%であった。

【図表　43】近年の選挙における投票行動

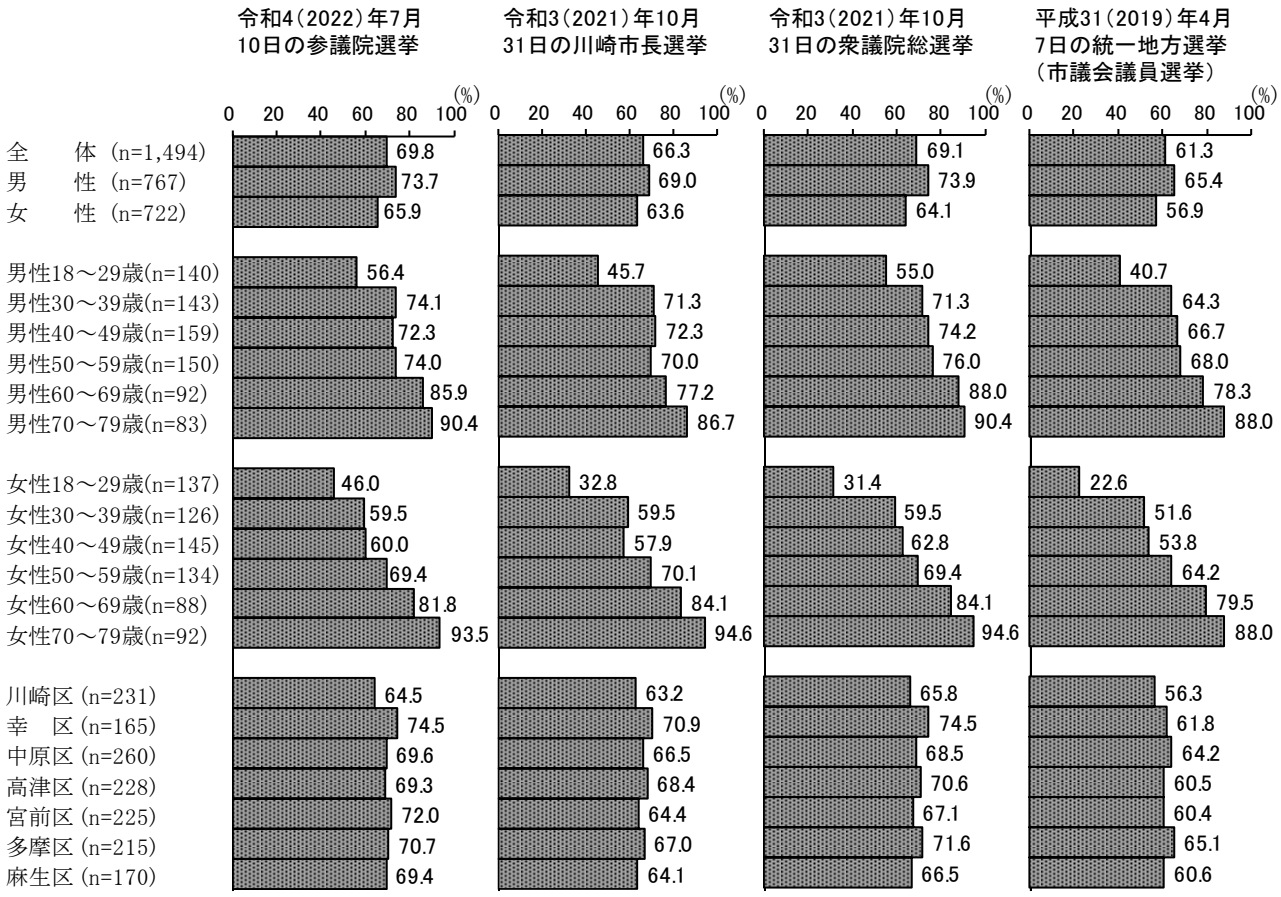


※「実際の投票率」は川崎市選挙管理委員会による公表データ。

「投票した」を性／年齢別に見ると、いずれの選挙においても女性よりも男性の方が５ポイント以上高く、男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっている。

居住区別では傾向に大きな差は見られないが、いずれの選挙においても川崎区が最も少ない。

【図表　44】近年の選挙における投票行動（「投票した」回答者）
（性／年齢別、居住区別）

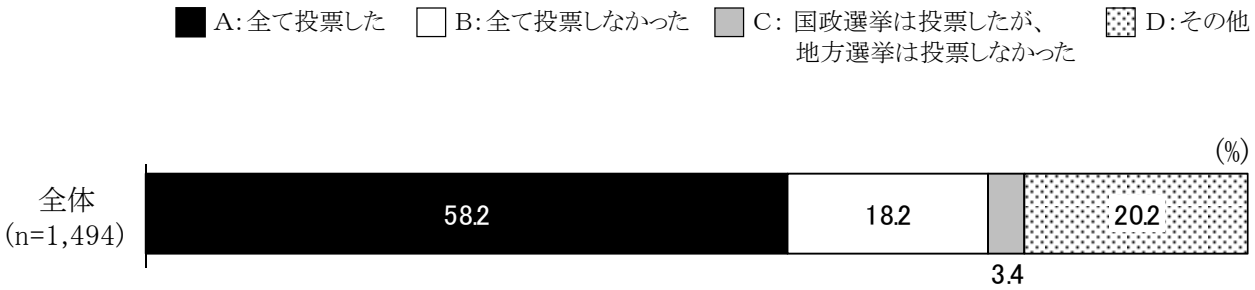


Q14 の４つの選挙の投票行動についての回答状況から、対象者を以下の４つのグループに分類した。

近年行われた４つの選挙について
A　全て投票した
B　全て投票しなかった
C　国政選挙は投票したが、地方選挙は投票しなかった
D　その他（選挙権がなかった、投票したか覚えていない選挙がある）

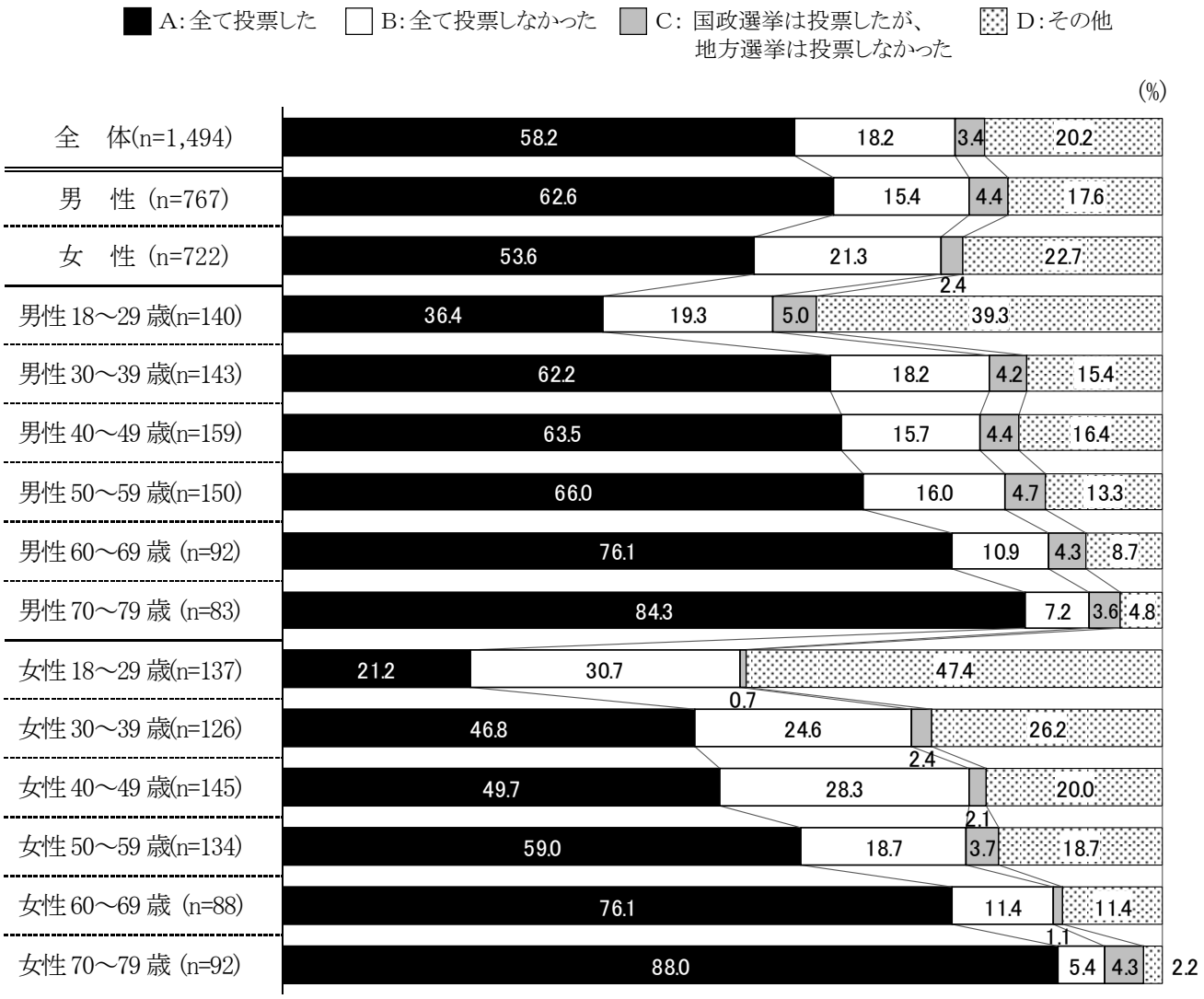
Q14 の回答対象者（n=1,494）のうち、Ａの全て投票したグループが 58.2％と最も多く、Ｂの全て投票しなかったグループは 18.2％であった。

【図表　45】近年行われた４つの選挙の投票行動



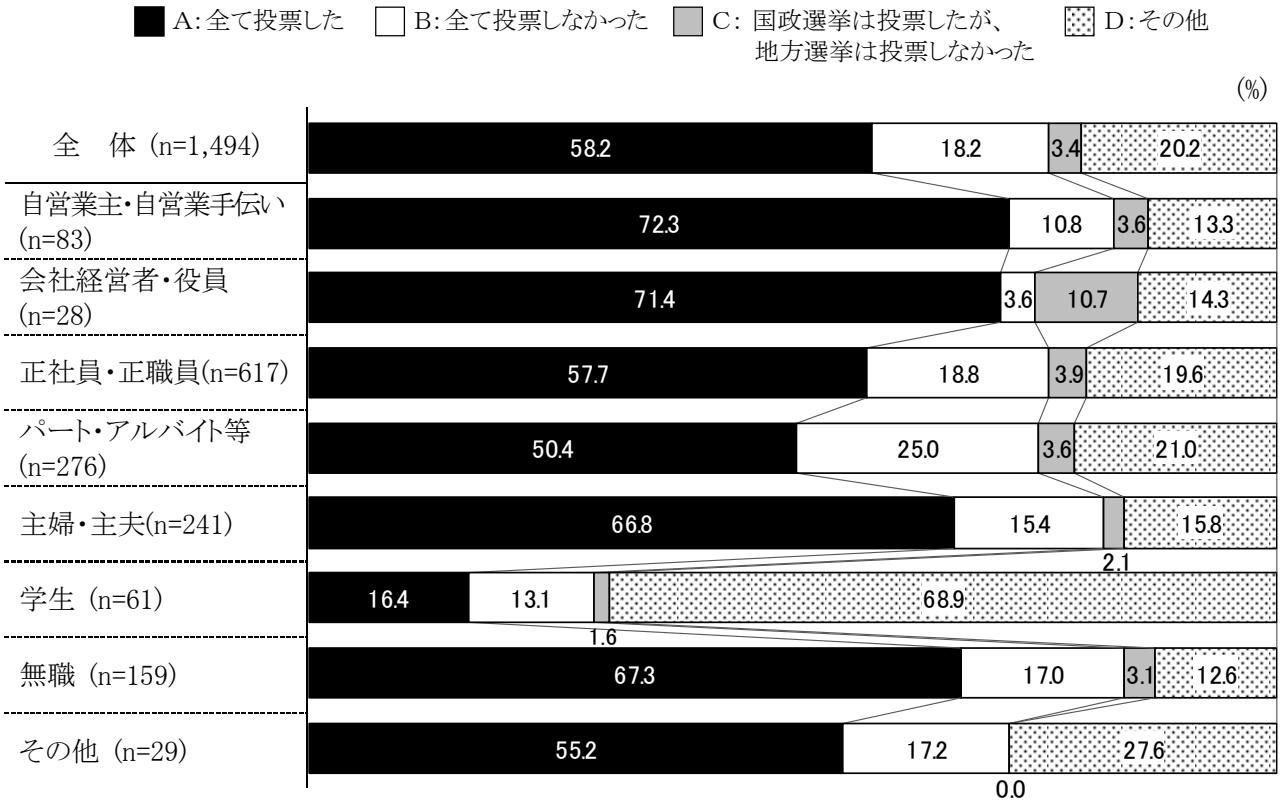
性／年齢別に見ると、「Ａ：全て投票した」は男性の方が 9.0 ポイント高く、男女ともに年齢が高くなるほど多くなっている。

【図表　46】近年行われた４つの選挙の投票行動（性／年齢別）



職業別に見ると、「Ａ：全て投票した」は「自営業主・自営業の手伝い（家族従業者）」が 72.3％と最も多く、「主婦・主夫（家事専業）」（66.8％）と「無職（収入が年金のみの方を含む）」（67.3％）も６割台後半、「正社員・正職員」（57.7％）、「パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員（正社員・正職員以外）等」（50.4％）では５割台であった。

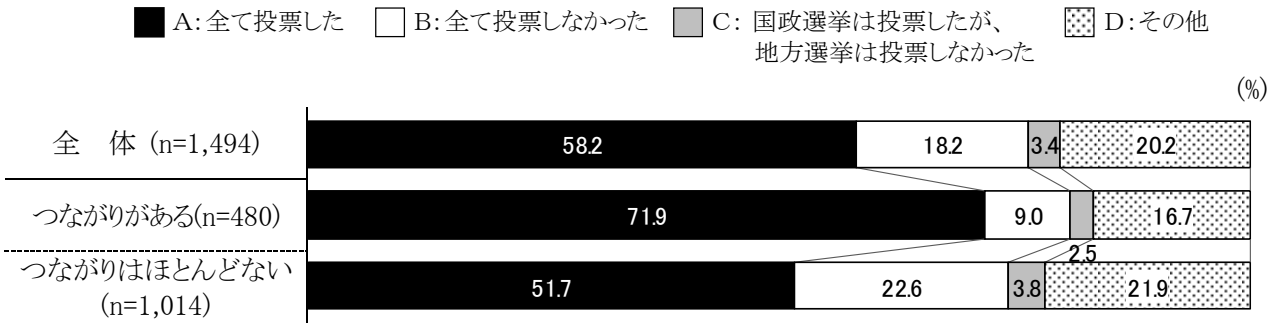
【図表　47】近年行われた４つの選挙の投票行動（職業別）



※「会社経営者・役員」と「その他」は回答者が少ないため参考値として掲載している。

Ｑ８の「地域とのつながり」状況別に見ると、「Ａ：全て投票した」は「つながりがある」人（71.9％）の方が「つながりはほとんどない」人（51.7％）より 20.2 ポイント高い。

【図表　48】近年行われた４つの選挙の投票行動（「地域とのつながり」状況別）



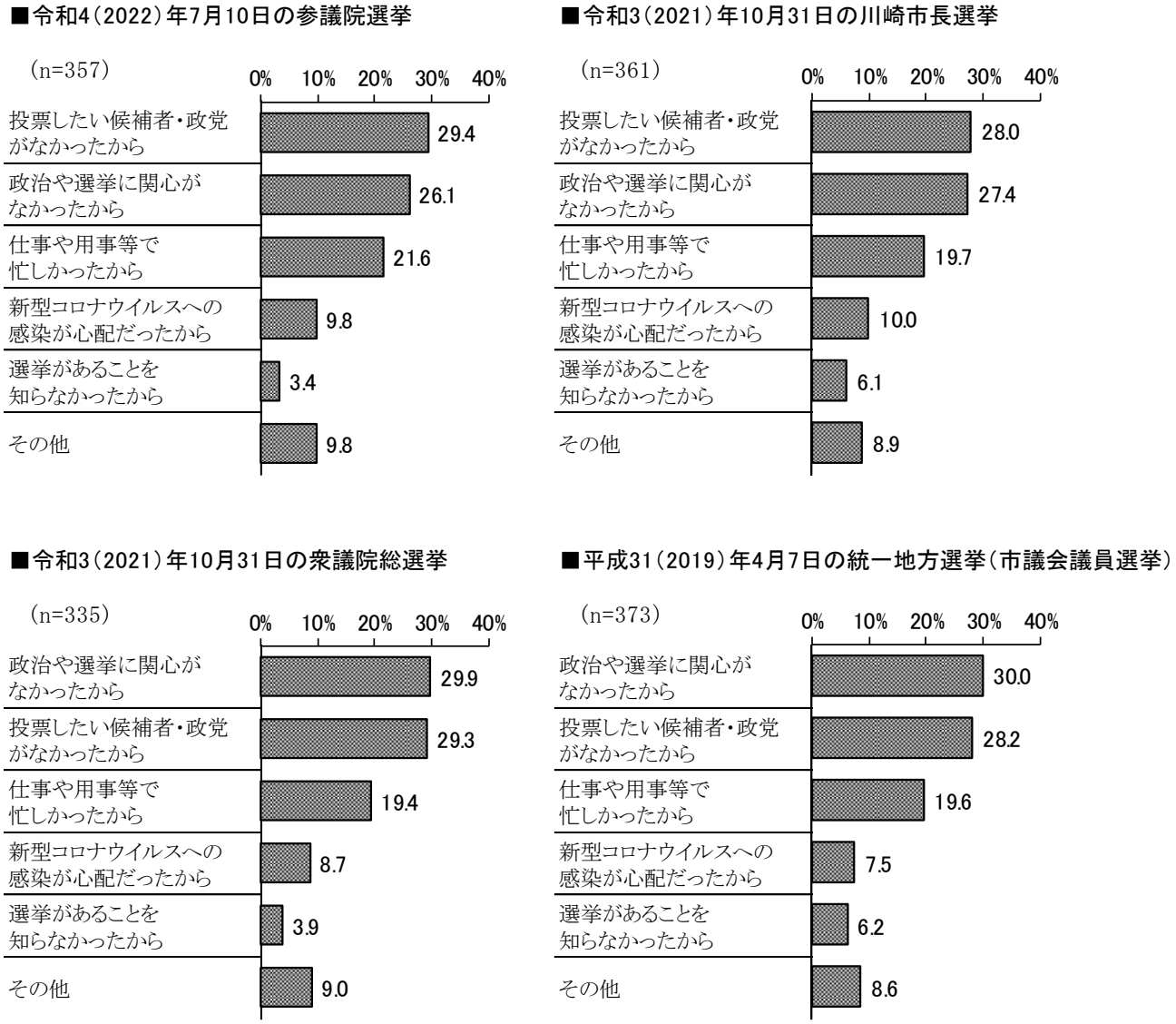
(3)　投票しなかった理由

Q15.　Q14 で「投票しなかった」と回答した選挙についてお伺いします。投票しなかったのは、どのような理由からですか。

「令和４（2022）年７月 10 日の参議院選挙」と「令和３（2021）年 10 月 31 日の川崎市長選挙」では、「投票したい候補者・政党がなかったから」が最も多く、次いで「政治や選挙に関心がなかったから」、「仕事や用事等で忙しかったから」と続いているが、「令和３（2021）年 10 月 31 日の衆議院総選挙」と「平成 31（2019）年４月７日の統一地方選挙（市議会議員選挙）」では、「政治や選挙に関心がなかったから」が最も多く、二番目が「投票したい候補者・政党がなかったから」であったが、差はほとんどなかった。

なお、日本国内において新型コロナウイルス感染症の発生が確認されたのは、令和２（2020）年１月である。

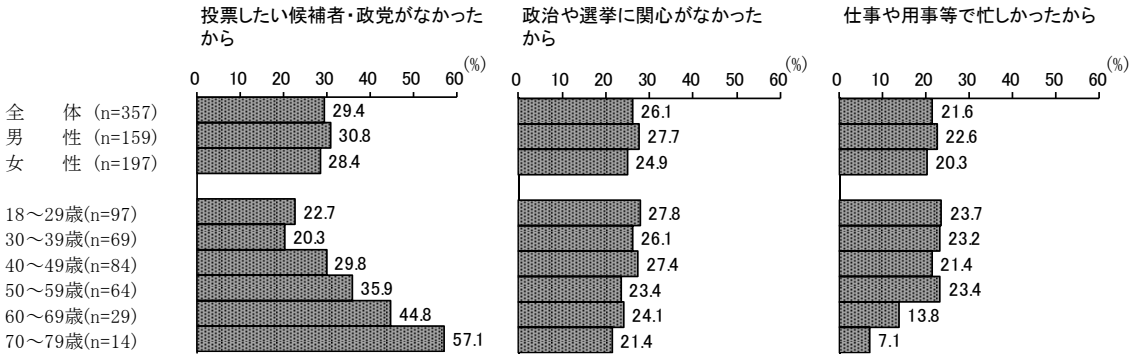
【図表　49】投票しなかった理由



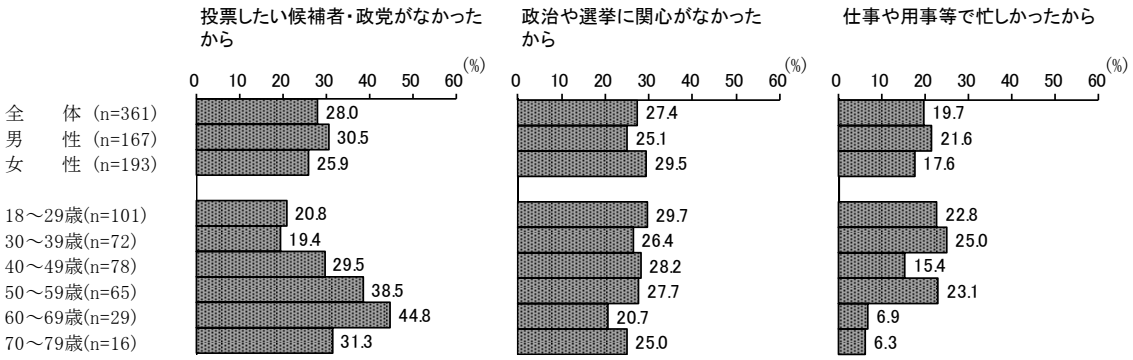
年齢別に見ると、一部例外はあるものの「投票したい候補者・政党がなかったから」は高い年齢層で多く、「政治や選挙に関心がなかったから」と「仕事や用事等で忙しかったから」は低い年齢層でやや多い傾向がある。

【図表　50】投票しなかった理由 ≪上位３項目≫（性別、年齢別）

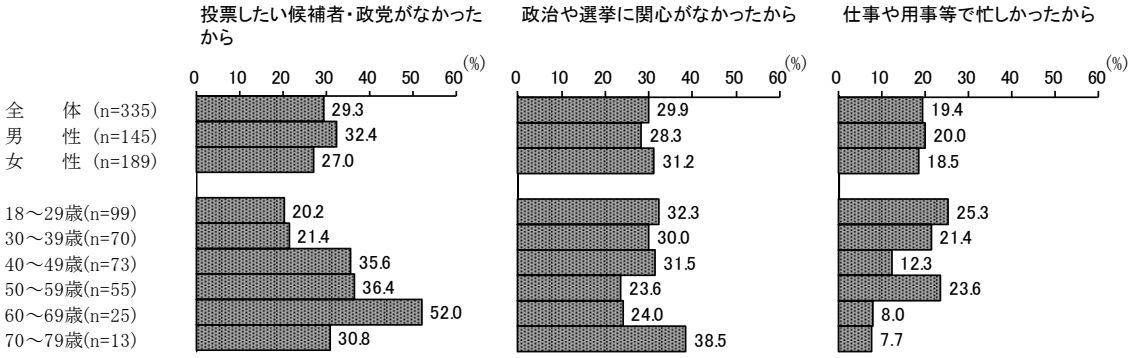
■令和4（2022）年7月10日の参議院選挙



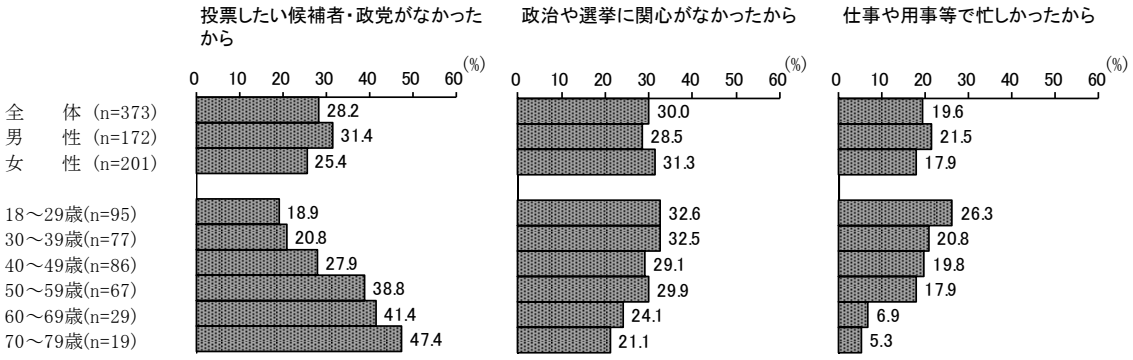
■令和3（2021）年10月31日の川崎市長選挙



■令和3（2021）年10月31日の衆議院総選挙



■平成31（2019）年4月7日の統一地方選挙（市議会議員選挙）



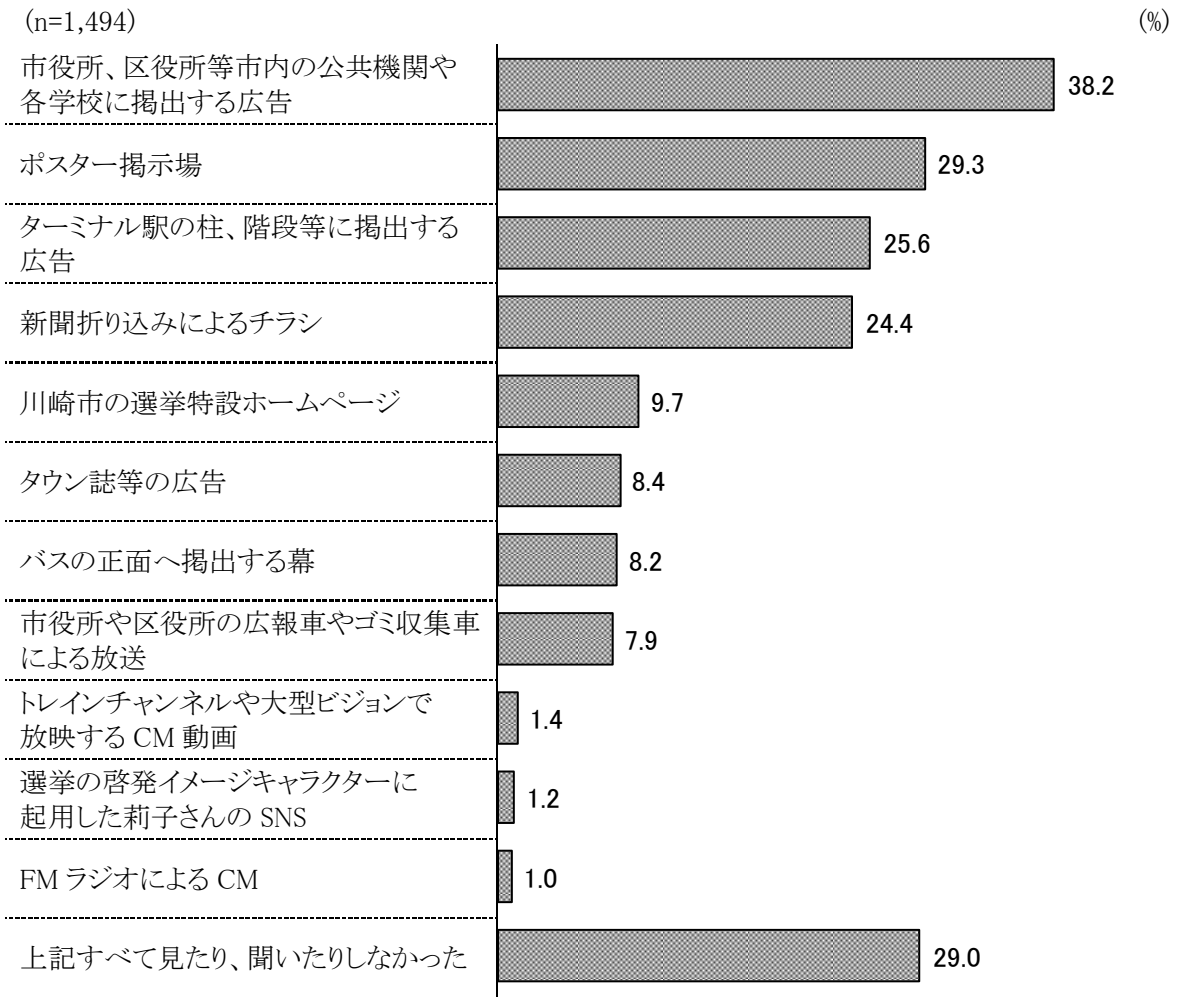
(4)　見たり聞いたりしたことがあった選挙の案内

Q16. 昨年 10 月に衆議院総選挙と同日に行われた川崎市長選挙において、川崎市では様々な手段で投票日・投票の場所・制度や方法についてご案内しました。以下のリストの中で、あなたが実際に見たり、聞いたりしたことがあった項目をすべてお答えください。

「市役所、区役所等市内の公共機関や各学校に掲出する広告」が 38.2%と最も多く、次いで「ポスター掲示場」(29.3%)、「ターミナル駅の柱、階段等に掲出する広告」(25.6%)、「新聞折り込みによるチラシ」(24.4%) と、ここまでが２割以上となっている。

一方で、「上記すべて見たり、聞いたりしなかった」との回答は 29.0%であった。

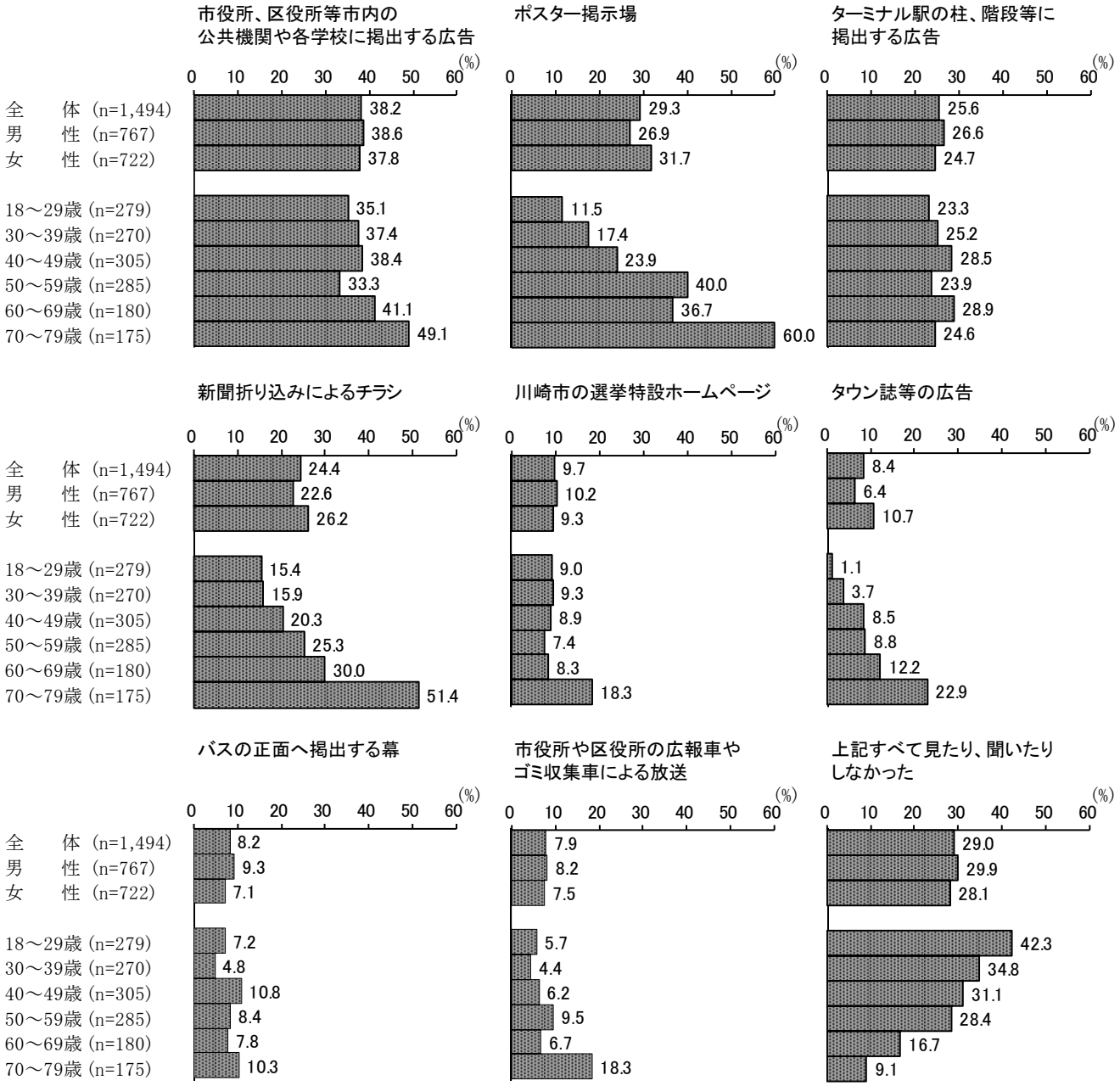
【図表　51】見たり聞いたりしたことがあった選挙の案内（複数回答）



性別では傾向に特に大きな差は見られないが、年齢別に見ると、「市役所、区役所等市内の公共機関や各学校に掲出する広告」、「ポスター掲示場」、「新聞折り込みによるチラシ」、「タウン誌等の広告」、「市役所や区役所の広報車やゴミ収集車による放送」では概ね年齢が高くなるほど多くなる傾向があり、「上記すべて見たり、聞いたりしなかった」は年齢が低くなるほど多い傾向がある。

「川崎市の選挙特設ホームページ」では、70～79 歳が 18.3%と他の年齢層と比較して多くなっているが、この結果については本調査がインターネット調査であり、調査対象がインターネット利用者に限られることを考慮する必要がある。

【図表　52】見たり聞いたりしたことがあった選挙の案内 ≪上位９項目≫（複数回答）（性別、年齢別）

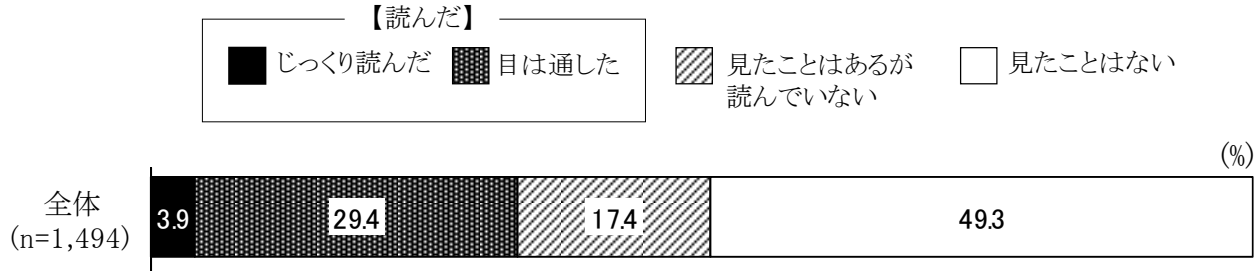


(5)　かわさき市政だよりに掲載の選挙特集閲読状況

Q17. 昨年の市長選挙では、かわさき市政だより１０月１日号に選挙の特集を掲載しましたが、見ましたか。

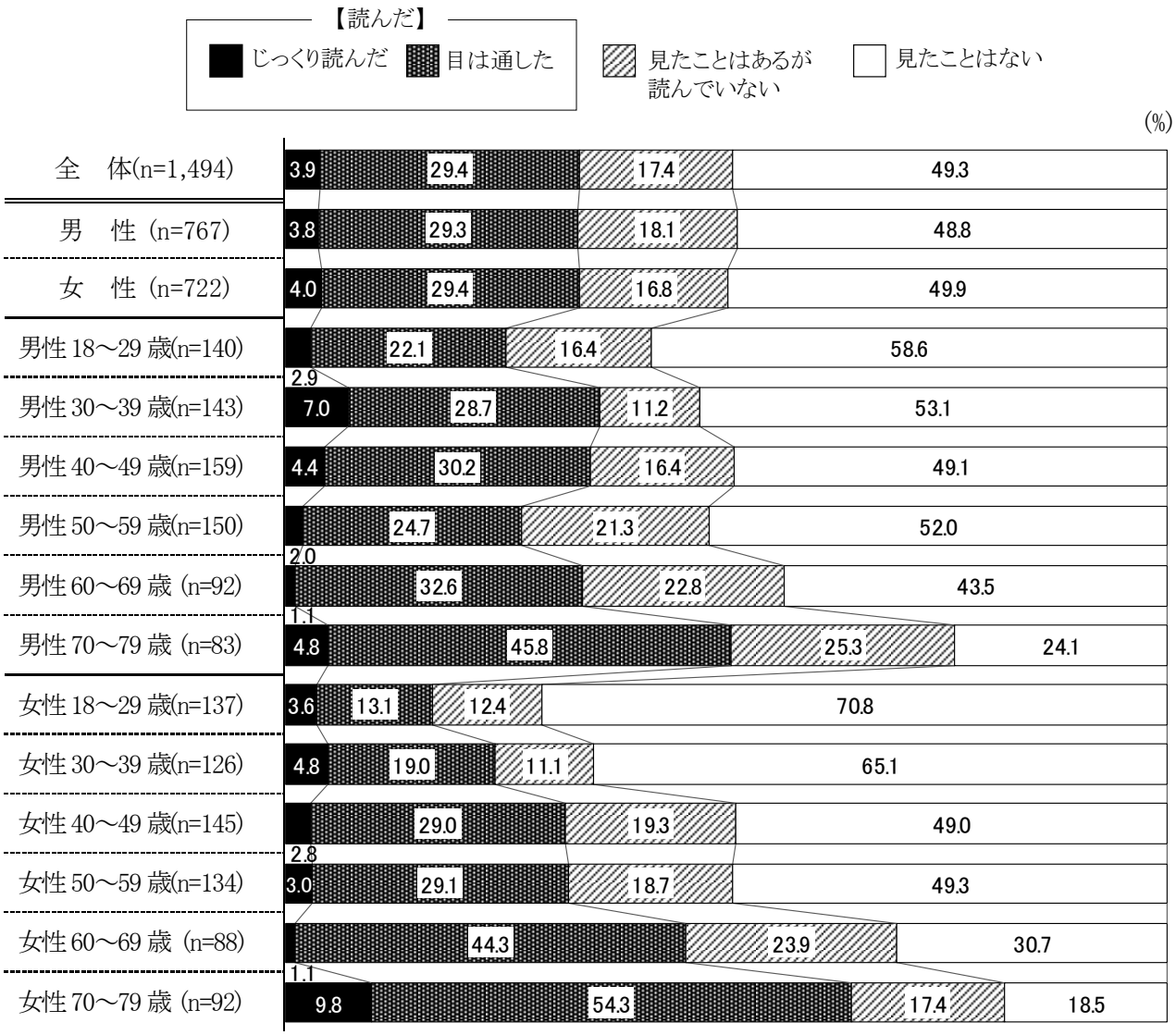
「じっくり読んだ」（3.9%）、「目は通した」（29.4%）を合計した【読んだ】は 33.3%とほぼ３分の１であった。一方で、「見たことはない」（49.3%）が約半数を占めている。

【図表　53】かわさき市政だよりに掲載の選挙特集閲読状況



性／年齢別に見ると、【読んだ】は男女ともに 70～79 歳で半数を超え、最も多くなっている。「じっくり読んだ」はいずれの性／年齢層においても１割を下回った。

【図表　54】かわさき市政だよりに掲載の選挙特集閲読状況（性／年齢別）

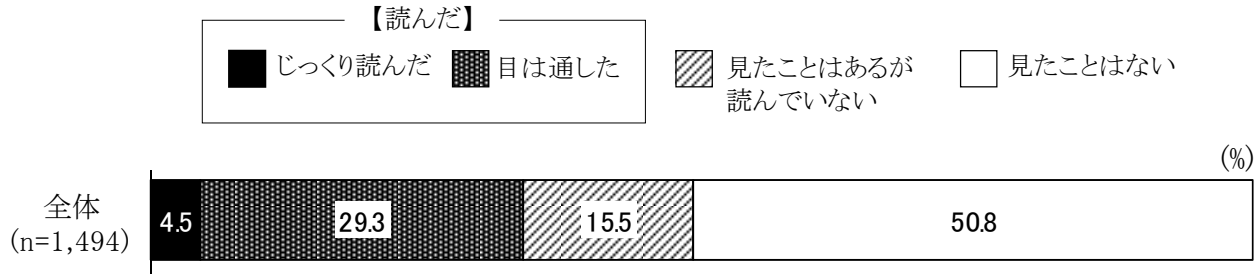


(6)　投票所入場整理券に同封した啓発チラシ閲読状況

Q18. 今年の参議院選挙では、投票所入場整理券に啓発チラシを同封しましたが、見ましたか。

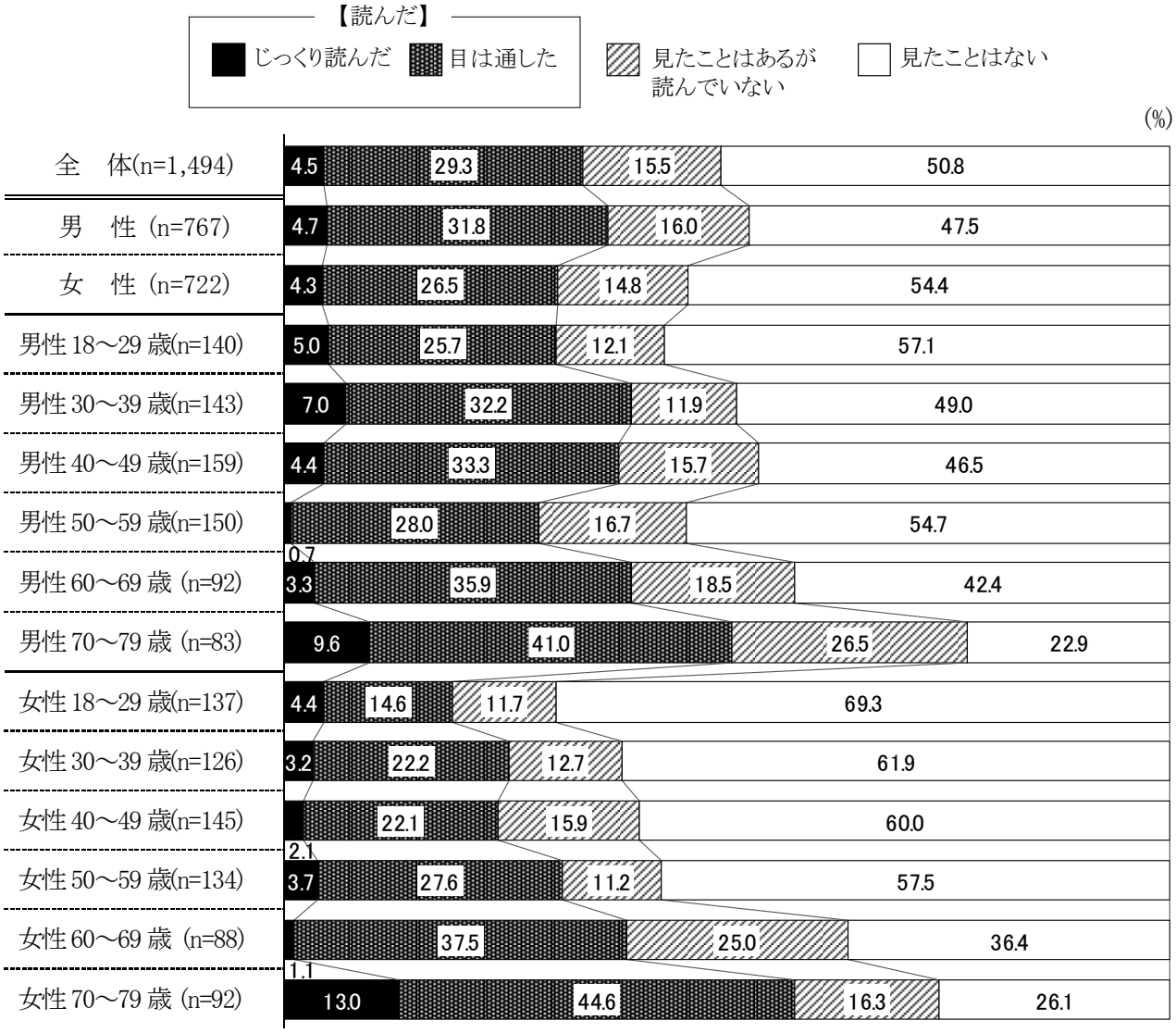
「じっくり読んだ」（4.5%）、「目は通した」（29.3%）を合計した【読んだ】は 33.7%と約３分の１であった。一方で、「見たことはない」（50.8%）が半数を占めている。

【図表　55】投票所入場整理券に同封した啓発チラシ閲読状況



性／年齢別に見ると、【読んだ】は女性（30.7%）より男性（36.5%）の方が 5.8 ポイント高く、概ね年齢が高くなるほど多くなっている。「じっくり読んだ」も男女ともに 70～79 歳が最も多い。

【図表　56】投票所入場整理券に同封した啓発チラシ閲読状況（性／年齢別）

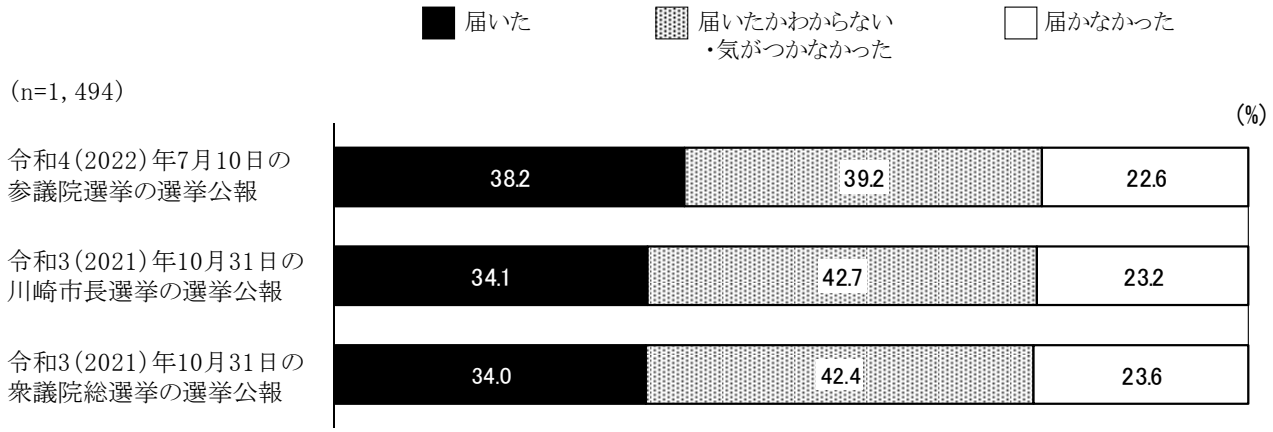


(7) 選挙公報のポスティングによる配達状況

Q19. 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、昨年の川崎市長選挙及び衆議院総選挙、今年の参議院選挙の選挙公報の配布を町内会・自治会等による配布方法から事業者によるポスティングに変更しています。選挙公報は届きましたか。

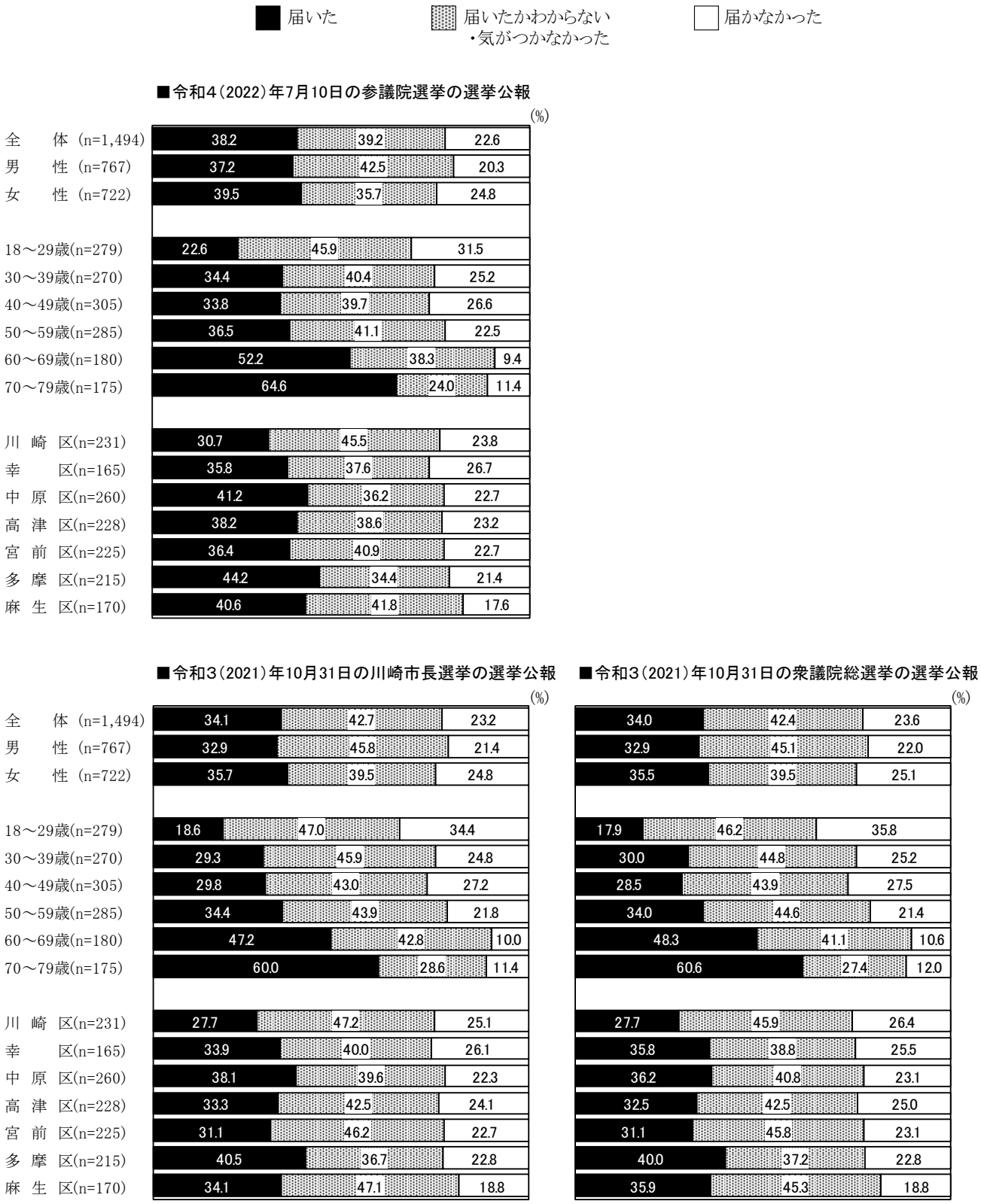
「届いた」は令和３（2021）年 10 月 31 日の川崎市長選挙と同日に行われた衆議院総選挙では34%程度、令和４（2022）年７月 10 日の参議院選挙では 38.2%であった。

【図表　57】選挙公報のポスティングによる配達状況



年齢別に見ると、「届いた」は概ね年齢が高くなるほど多くなっている。
居住区別に見ると、いずれの選挙においても川崎区が最も少なく、多摩区が最も多い。

【図表　58】選挙公報のポスティングによる配達状況（性別、年齢別、居住区別）

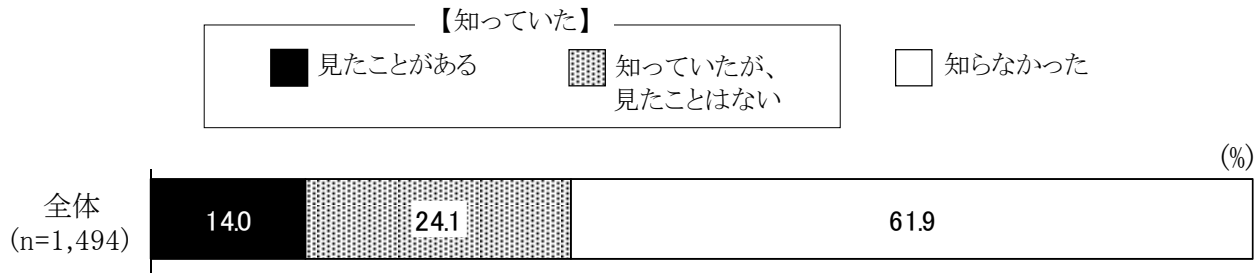


(8)　選挙公報が市ホームページで閲覧できることの認知状況

Q20. 選挙公報は、川崎市の選挙特設ホームページでご覧になれることを知っていますか。

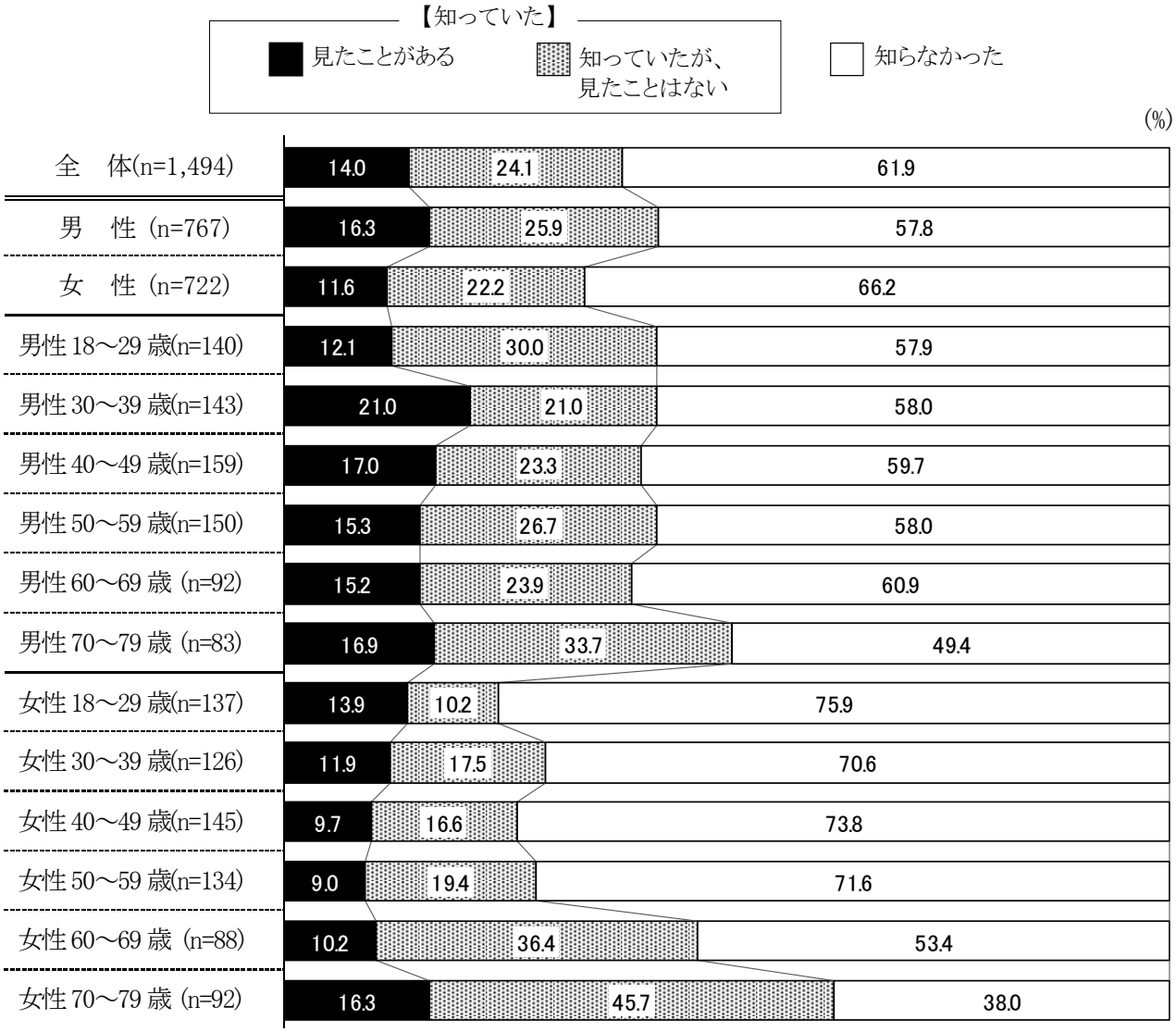
「見たことがある」（14.0%）と「知っていたが、見たことはない」（24.1%）を合計した【知っていた】は 38.1%と、認知度は４割を下回った。

【図表　59】選挙公報が市ホームページで閲覧できることの認知状況



性／年齢別に見ると、【知っていた】は女性（33.8%）より男性（42.2%）の方が 8.4 ポイント高い。「見たことがある」は男性では 30～39 歳（21.0%）が最も多く、女性では 70～79 歳（16.3%）が最も多いが、【知っていた】は男女ともに 70～79 歳が最も多い。この結果についてはQ16 と同様に、本調査がインターネット調査であり、調査対象がインターネット利用者に限られることを考慮する必要がある。

【図表　60】選挙公報が市ホームページで閲覧できることの認知状況（性／年齢別）

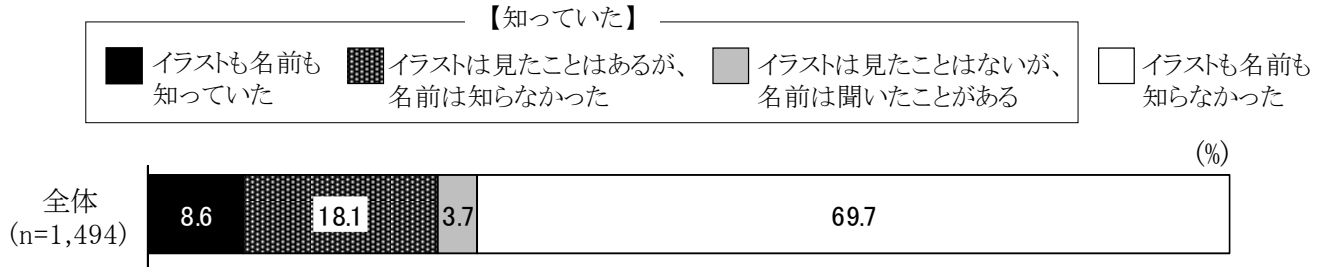


(9) 川崎市選挙マスコット「イックン」認知状況

Q21. 川崎市選挙マスコット「イックン」を知っていますか？

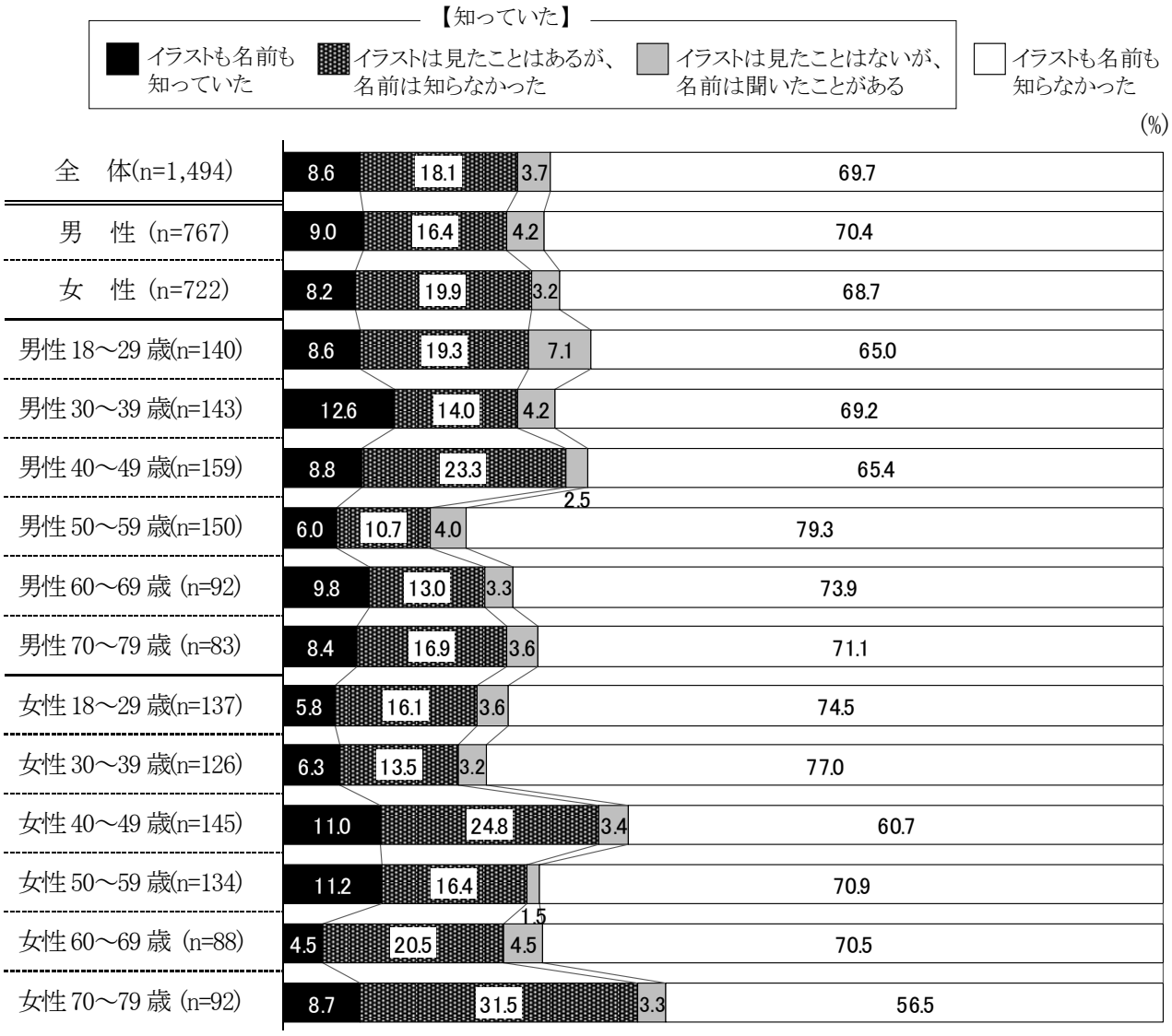
「イラストも名前も知っていた」(8.6%)、「イラストは見たことはあるが、名前は知らなかった」(18.1%)、「イラストは見たことはないが、名前は聞いたことがある」(3.7%) を合計した【知っていた】は 30.3%と約３割であった。

【図表　61】川崎市選挙マスコット「イックン」認知状況



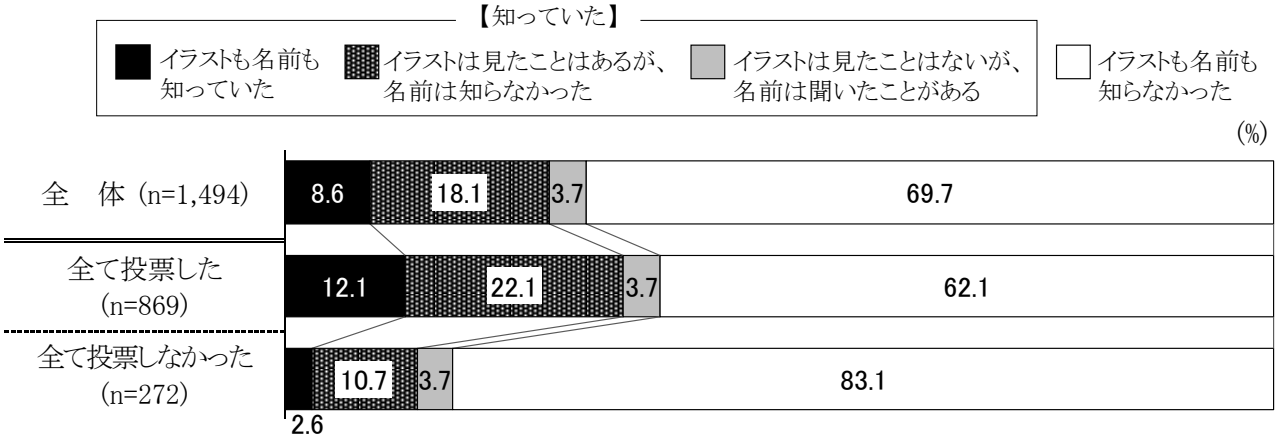
性／年齢別に見ると、【知っていた】は男性では 40 歳代以下で３割を超えており、女性では 70～79 歳（43.5%）が最も多く、次いで 40～49 歳（39.3%）となっている。一方で、「イラストも名前も知らなかった」は男性では 50～59 歳（79.3%）、女性では 30～39 歳（77.0%）が最も多かった。

【図表　62】川崎市選挙マスコット「イックン」認知状況（性／年齢別）



近年行われた４つの選挙の投票行動別（60 ページ参照）に見ると、【知っていた】は全て投票した人で 37.9％、全て投票しなかった人で 16.9％と 21.0 ポイントの差があった。

【図表　63】川崎市選挙マスコット「イックン」認知状況（投票行動別）

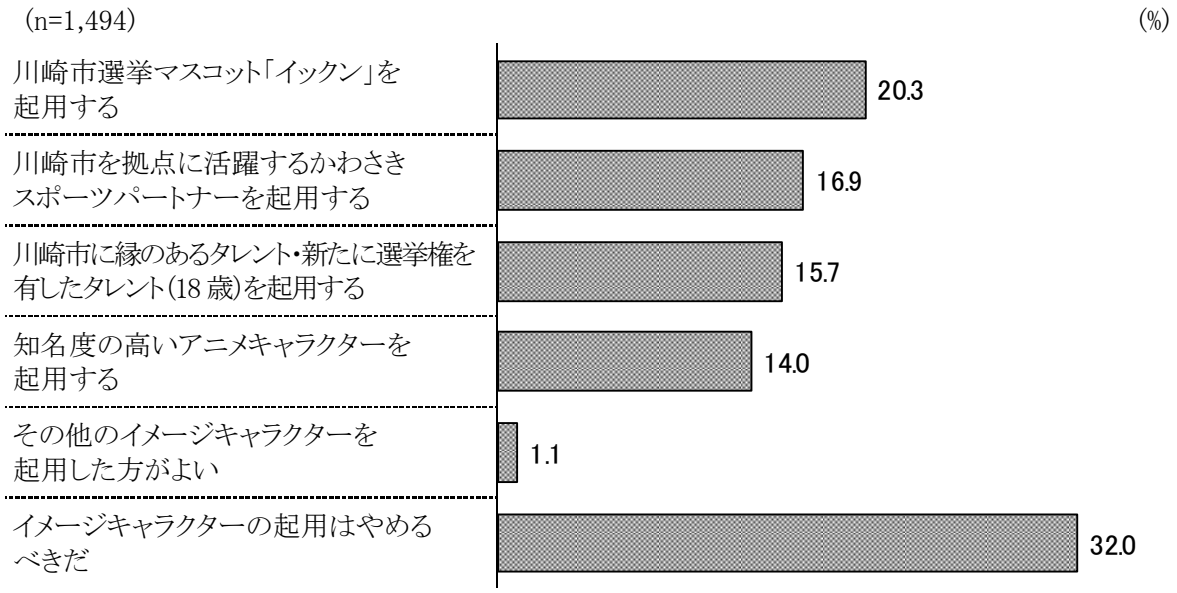


（10） 啓発イメージキャラクターの起用について

Q22. 来年の春（令和５（2023）年４月予定）に行われる川崎市議会議員選挙等の啓発イメージキャラクター起用について、どのように考えますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

「イメージキャラクターの起用はやめるべきだ」が 32.0%と最も多く、次いで「川崎市選挙マスコット「イックン」を起用する」(20.3%)、「川崎市を拠点に活躍するかわさきスポーツパートナーを起用する」(16.9%) と続いている。

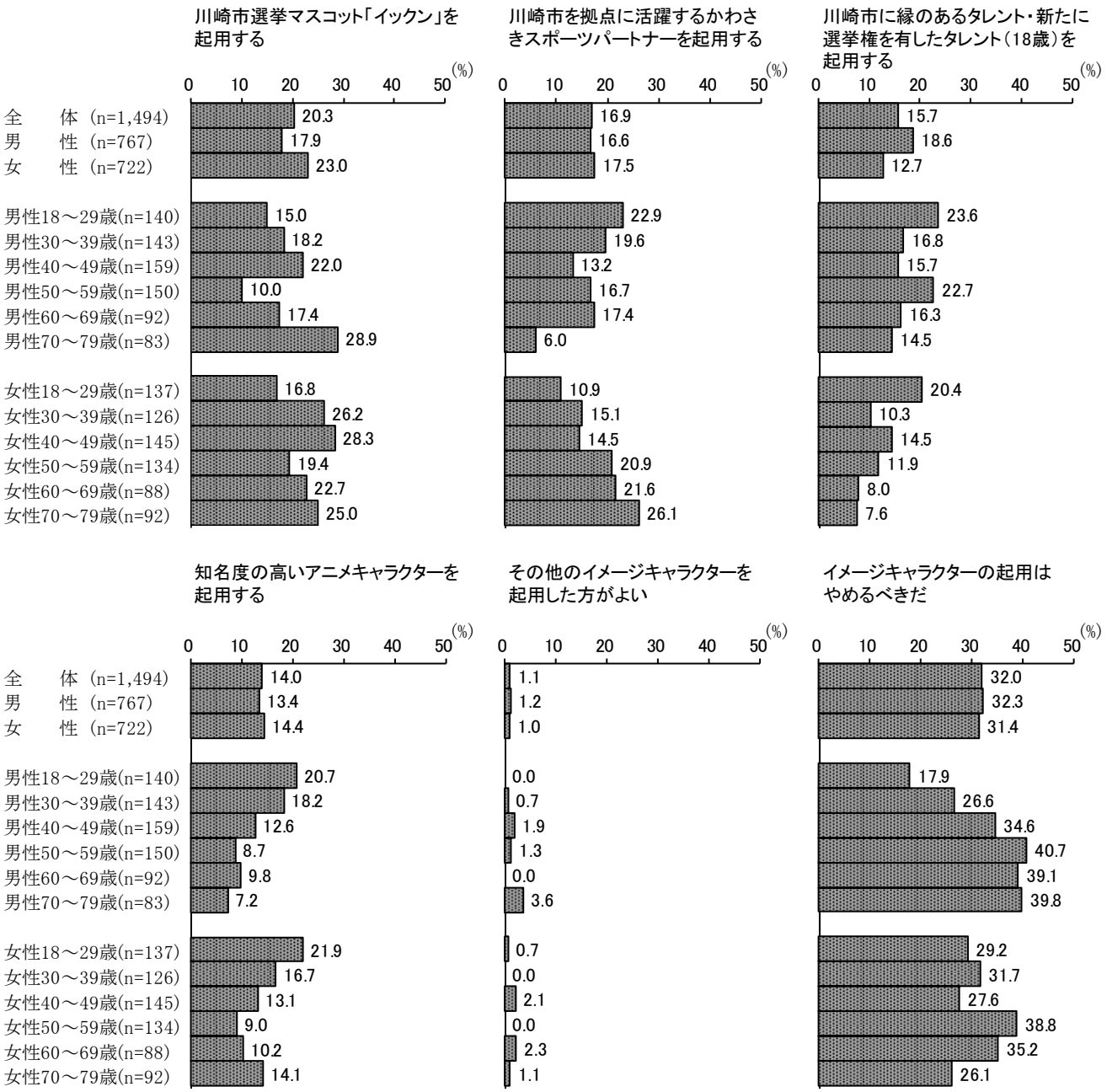
【図表　64】啓発イメージキャラクターの起用について



性別に見ると、「川崎市選挙マスコット「イックン」を起用する」は女性の方が 5.1 ポイント高く、「川崎市に縁のあるタレント・新たに選挙権を有したタレント（18 歳）を起用する」は男性の方が 5.9 ポイント高かった。

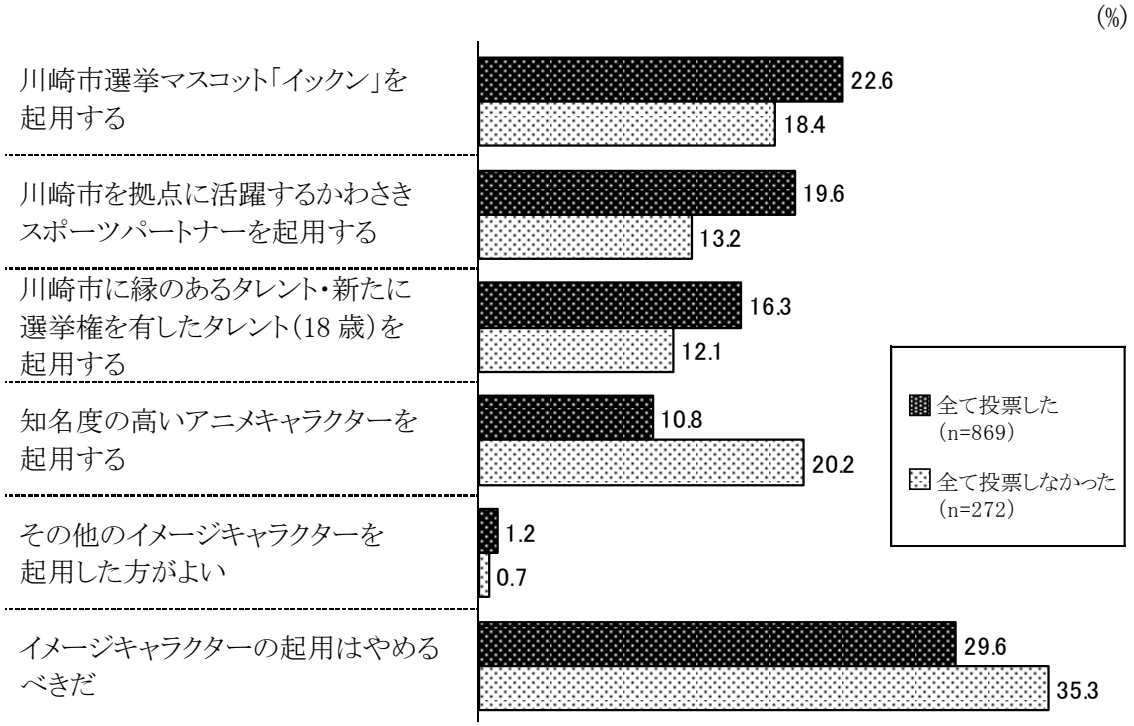
性／年齢別に見ると、「川崎市に縁のあるタレント・新たに選挙権を有したタレント（18 歳）を起用する」と「知名度の高いアニメキャラクターを起用する」は男女ともに概ね年齢が低いほど多くなっている。「川崎市を拠点に活躍するかわさきスポーツパートナーを起用する」は男性では概ね年齢が低いほど多く、女性では概ね年齢が高いほど多くなっている。「イメージキャラクターの起用はやめるべきだ」は男性では 50 歳代以上で４割前後と多く、18～29 歳で 17.9％と少ないが、女性では 50～59 歳（38.8％）が最も多い。

【図表　65】啓発イメージキャラクターの起用について（性／年齢別）



近年行われた４つの選挙の投票行動別（60 ページ参照）に見ると、「川崎市選挙マスコット「イックン」を起用する」、「川崎市を拠点に活躍するかわさきスポーツパートナーを起用する」、「川崎市に縁のあるタレント・新たに選挙権を有したタレント（18 歳）を起用する」では「全て投票した」人の方が「全て投票しなかった」人より多かったが、「イメージキャラクターの起用はやめるべきだ」と「知名度の高いアニメキャラクターを起用する」では「全て投票しなかった」人の方が多かった。

【図表　66】啓発イメージキャラクターの起用について（投票行動別）

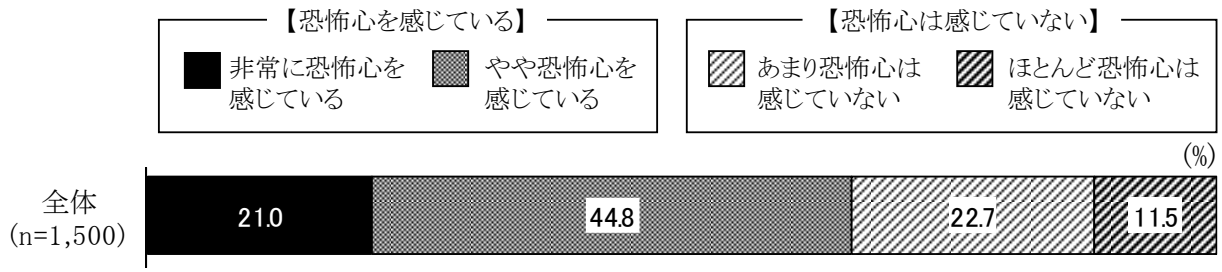


1.4　新型コロナウイルス感染症について

Q23. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

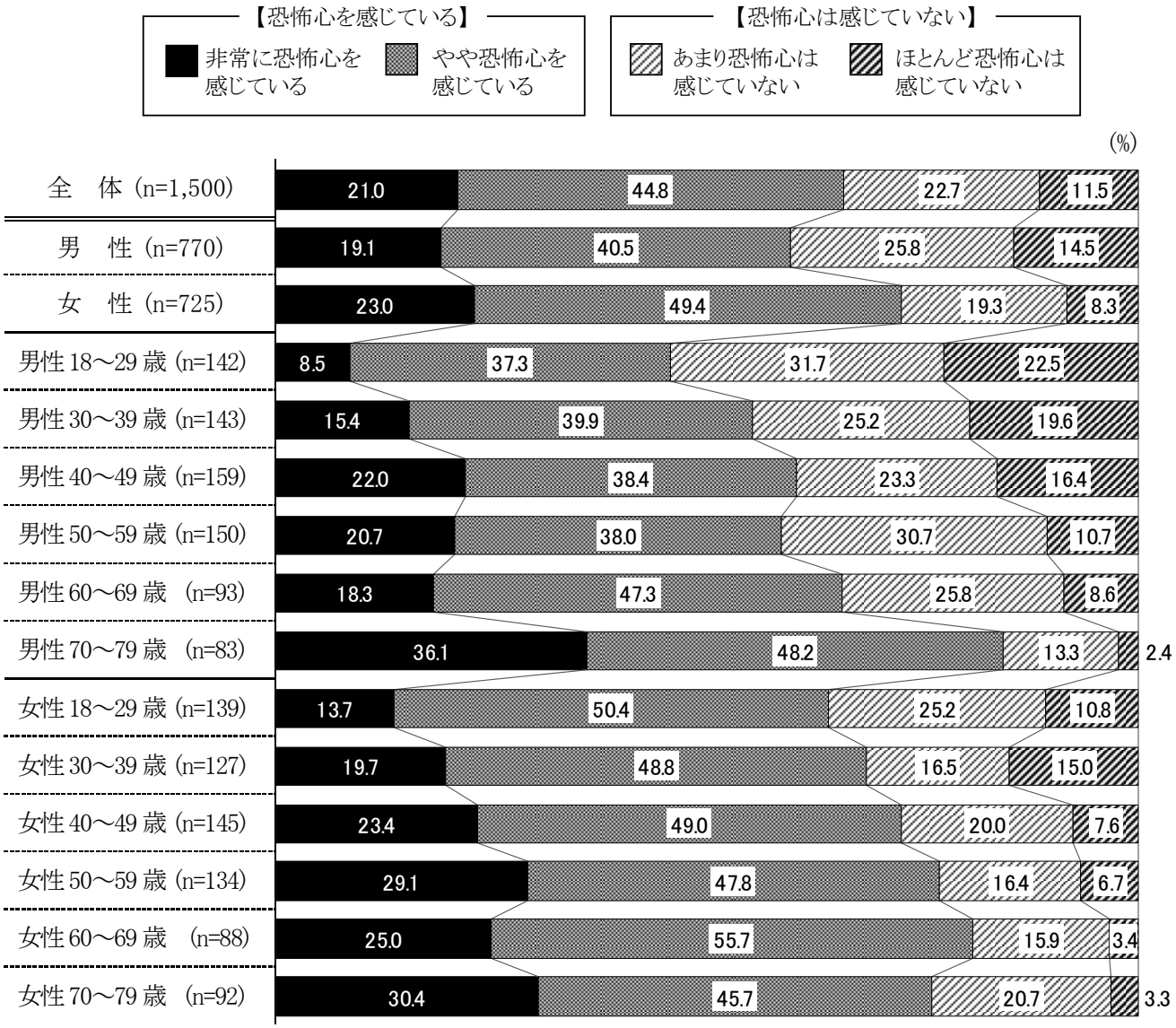
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は 65.8%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は 34.2%であった。

【図表　67】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



性／年齢別に見ると、【恐怖心を感じている】は男性（59.6%）よりも女性（72.4%）の方が 12.8 ポイント高い。また、男性 18～29 歳では【恐怖心を感じている】45.8%と半数を下回り、最も少なくなっている。「非常に恐怖心を感じている」は男女ともに概ね年齢が高くなるほど多くなっており、70～79 歳では３割を超えている。

【図表　68】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性別・年齢別）



※過去との比較については 176 ページに記載しています。